

平成 25 年度 東北農業研究センター一年報

Annual Report
of
NARO Tohoku Agricultural Research Center
2013

平成26年10月



独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

東北農業研究センター

(岩手県盛岡市下厨川)

- * 農研機構は、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構のコミュニケーションネーム（通称）です。
- * 本誌から転載・複製する場合は、当センターの許可を得てください。

平成25年度 東北農業研究センター一年報

目 次

I 総 説	1
1. 沿革	1
2. 機構	2
3. 平成25年度における東北農業研究センターの主要な取り組み	3
4. 研究業務の概要	4
II 研究情報活動	13
1. 研究成果の発表（原著論文・学会発表等・著書等）	13
2. 特許・品種登録等	60
1) 特許・実用新案の出願及び登録	60
2) 種苗法による品種登録	61
3. 育成品種、遺伝資源の受入・移管・増殖・保存数	63
1) 育成品種（平成25年度出願）	63
2) 育成品種一覧（平成26年3月現在）	64
3) 作物遺伝資源・作物品種の受入・移管・増殖・配布・保存数	72
4. 広報活動	74
1) 所刊行物	74
2) 視察者・見学者の受入（一般公開は除く）	75
3) 催事（一般公開、イベント、体験学習等）及び協力	75
4) シンポジウム・セミナー（主催又は共催）	78
5. 図書資料収集・文献提供等	80
III 連携・研修・技術協力	83
1. 産学官の連携・協力	83
1) 産学官連携支援活動	83
2) 行政との連携・協力	84
3) 大学との連携・協力	84
4) 共同研究・協定研究等の実施状況	84
5) 依頼による分析・同定の実施状況	85
6) 開放型研究施設の利用状況	85

2. 研究者の受入れ等	86
1) 交流	86
2) 留学	86
3) 研修・講習等	86
4) 外部研究者	88
5) その他	88
3. 研究者の派遣等	88
1) 交流	88
2) 留学	88
3) その他	89
4. 技術協力・指導	89
1) 研修会等への講師派遣	89
2) 海外出張	93
3) 講習会等の開催	94
5. 国際会議・研究集会（参加）	94
IV 諸会議一覧	95
V 表彰・学会賞等	101
VI 各種委員会	103
VII 平成25年半旬別気象表（平成25年1～12月）	107
VIII 東北農業研究センターの所在地等	115

I 総 説

I 総説

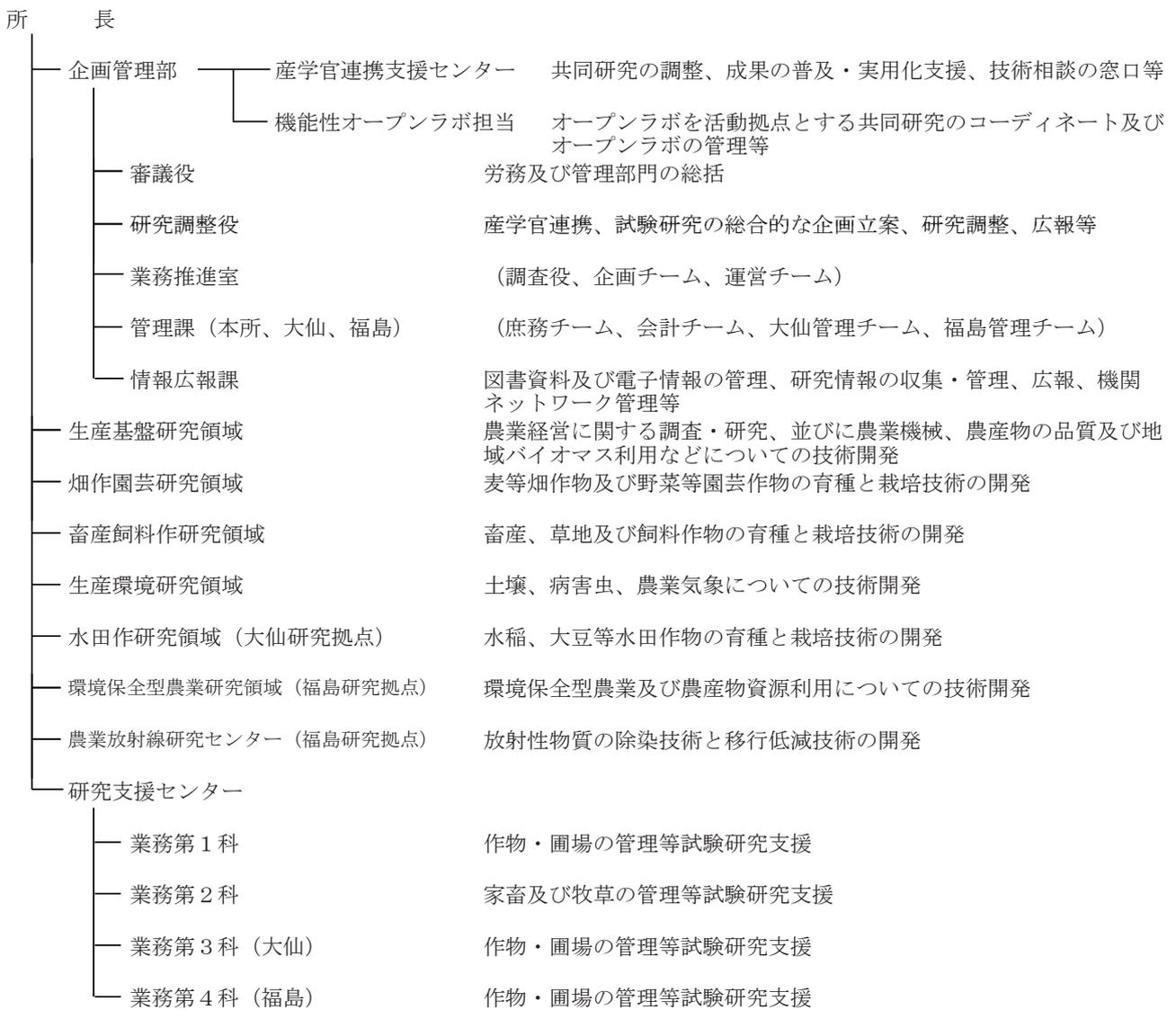
1. 沿革

- 昭和25年4月 東北農業試験場は、現在地の岩手県盛岡市下厨川字赤平の、岩手種畜牧場厨川分厩跡（旧岩手種馬所、明治40年創設）に設立された。これは、当時全国的に実施された農業関係試験研究機関の整備総合計画の一環として、3支場・1支所・3試験地（農事試験場東北支場、同三本木原営農支場、園芸試験場東北支場、開拓研究所、農事試験場東北支場刈和野試験地、同東北支場盛岡試験地、同三本木原営農支場厨川試験地）を統合して、栽培第一部、栽培第二部、刈和野試験地、園芸部、畜産部、農業経営部、土地利用部の組織からなる国立の地域農業試験場の一つとして発足したものである。設立後の主な変遷は次の通りである。
- 昭和26年4月 岩沼、盛岡、大館の各農業改良実験所をそれぞれ関係部門へ編入した。
- 昭和28年3月 大館試験地を廃止し、刈和野試験地に編入した。
- 昭和32年5月 技術連絡室（連絡調整、資料研究の2班）を新設し、土地利用部を廃止した。
- 昭和36年12月 園芸部が分離し、園芸試験場盛岡支場となる。
- 昭和38年4月 農業技術部を新設（6研究室）した。
- 昭和42年6月 環境部（5研究室）を新設した。
- 昭和43年4月 技術連絡室を企画連絡室と改組した。
- 昭和46年4月 草地部を新設（2研究室）した。
- 昭和48年4月 次長を新設した。
- 昭和58年12月 蚕糸試験場東北支所を編入し、畑地利用部（5研究室）を新設した。
- 昭和60年4月 企画連絡室にヤマセ対策官を新設した。
- 昭和63年10月 食品総合研究所利用部園芸素材研究室を統合して、畑地利用部流通利用研究室を新設した。また地域農業試験場の組織再編が行われ、当場の研究体制は、企画連絡室（企画科、連絡科、1研究技術情報官、情報資料課、3総合研究チーム、3業務科）、地域基盤研究部（6研究室）、農村計画部（7研究室）、生産工学部（3研究室）、作物開発部（6研究室）、水田利用部（6研究室、1科）、畑地利用部（5研究室）、畜産部（4研究室）、草地部（4研究室）となった。
- 平成3年10月 生産工学部を廃止し、企画連絡室に研究技術情報科を新設した。
- 平成5年10月 農業生物資源研究所遺伝資源第二部植物栄養体保存研究チームを統合して、作物開発部に遺伝資源利用研究室を新設した。平成8年10月組織再編を行い、農村計画部を改組して総合研究部を新設し、また作物開発部遺伝資源利用研究室を改組して畑地利用部畑作物栽培生理研究室を新設した。
- 平成13年4月 農業研究センター、畜産試験場、草地試験場、果樹試験場、野菜・茶業試験場、地域農業試験場及び家畜衛生試験場の業務を継承する独立行政法人農業技術研究機構が設立された。独立行政法人農業技術研究機構内に、東北農業試験場と野菜・茶業試験場（盛岡）の業務を継承する機関として東北農業研究センターが設立された。これに伴い、畜産部と草地部の統合、野菜花き部の新設、連携研究チームの新設、企画調整部及び作物機能開発部が設置された。
- 平成15年4月 企画調整部の研究企画科、研究交流科を廃止し、研究調整官及び連絡調整室に改組した。
- 平成15年10月 農業技術研究機構は生物系特定産業技術研究推進機構と統合し、農業・生物系特定産業技術研究機構となった。
- 平成18年4月 農業・生物系特定産業技術研究機構は食品総合研究所、農村工学研究所と統合し、農業・

食品産業技術総合研究機構となった。組織は、研究部・研究室制からチーム制へ移行。企画管理部、研究管理監、14のチーム、8のサブチーム、4名の特命チーム員及び研究支援センターからなる。

- 平成19年 4月 研究調整役を長とする産学官連携支援センターを設置した。
- 平成20年 4月 病害抵抗性研究東北サブチームを大仙研究拠点に設置、サブチームの数が9となる。
- 平成23年 4月 組織は、チーム制からプログラム・プロジェクト制へ移行。企画管理部、6の研究領域及び研究支援センターからなる。
- 平成24年 4月 福島研究拠点に農業放射線研究センターを新設した。

2. 機 構



3. 平成 25 年度における東北農業研究センターの主要な取り組み

1) 研究業務の推進

平成 25 年度は第 3 期中期目標期間の 3 年目に当たり、中間点検を行いつつ中期計画に沿った研究推進を図り、後述の研究業務の概要に示した内容で実施し、研究成果情報 21 課題（うち普及成果 2 課題）のほか、多くの論文、品種、特許等の研究成果を得た。

東日本大震災に対応した研究課題については、震災復興対応任期付き研究員 6 名を採用して農業放射線研究センターに配属するとともに、当センターに放射性物質分析棟を開所し、中課題「高濃度汚染土壌等の除染技術の開発と農地土壌からの放射性物質の流出実態の解明」及び「農作物等における放射性物質の移行動態の解明と移行制御技術の開発」の研究強化を行った。

かねてより東北各県や東北農政局から、鳥獣害に関する試験研究機関としての対応を要望されていたが、今年度、鳥獣害を専門的に取り扱う研究員を採用したことをきっかけとして、現地視察を含む研究会を 2 回開催すると共に、別途、岩手県、宮城県、福島県の 3 県において、講演・調査検討会を開催した。また、東北農政局から「予防的鳥獣被害対策マニュアル」の作成事業も受託した。

2) 地域・行政との研究連携・協力

東北農政局主催の「東北地域研究・普及連絡会議」（25 年 10 月、岩手県農業研究センターほか）では、国の施策で対応すべき技術的課題候補、農業新技術 2014 候補の選定を行ったほか、「攻めの農林水産業」について、優良事例「現場の宝」をより広く展開する事業を入れ込んでいく等の概要説明を受けた。また、陸前高田市内にある先端技術展開事業岩手県版の現地実証圃などを見学し、同事業の内容と進捗について説明を受けた。

東北農業試験研究推進会議における推進部会は、稲、畑作物、農業生産基盤、生産環境、畜産飼料作、野菜花き、果樹の 7 部会に分かれ、夏期研究会（25 年 7～10 月）、推進部会（26 年 1～2 月）等を実施した。推進会議「研究戦略会議」（25 年

10 月）では、農研機構作成の地域営農モデルについて、その意図や取扱について各県に説明し、モデル実現に向けた研究課題設定などでの東北地域公設試験研究機関との連携方策を議論した。また、国の施策で対応すべき技術的課題候補、農業新技術 2014 候補の検討も行った。推進会議「本会議」（26 年 2 月）では、重点検討事項として「地域営農モデルに基づく試験研究の推進」について検討した。

3) 産学官連携のための活動

いわて産学連携推進協議会の主催するリエゾン－I マッチングフェア 2013（11 月、出展団体数 10、参加者数約 200 名）に出展し、最近育成された 4 品種（「銀河のちから」、「ゆきはるか」、「すずこま」、「豊雪姫」）を展示パネルとショートプレゼンテーションで紹介した。また、東北地域農林水産・食品ハイテク研究会の中で、農林水産省等の競争的資金を活用した産学官連携共同研究の課題化推進を目的とした産学官連携共同研究検討会議が 3 回開催され、積極的な参加を促した。また、所幹部による連携普及現場への訪問を 4 回行い、東北農研開発品種や技術の普及状況に関して、実需者との意見交換を行った。

他機関との研究連携として、25 年度は、継続を含めて共同研究を 35 件、協定研究を 31 件実施した。大学との連携については、岩手大学との間で「連携大学院協定」（18 年 4 月）を締結しており、25 年度は、当所職員 13 名が客員教授として専門的立場から学生に指導助言を行った。

4) 研究成果の広報・普及

「平成 25 年度東北地域マッチングフォーラム」（12 月、郡山市）は、「忍び寄る脅威から産地を守る－ウリ科野菜ホモブシス根腐病の総合防除対策－」をテーマに、生産者、農業団体、各県の行政・普及・研究機関などから 186 名の参加者を集めて開催した。第 56 回東北農業試験研究発表会（7 月、盛岡市）では、東北地域内の農業関係試験研究機関から 85 課題の研究発表が行われ、研究・普及関係等 338 名が参加した。農研機構シンポジウムとして「田畑輪換と地力－今、水田土壌で何が起きているか・・・それを克服するためには－」（11

月、東京) を開催し、206 名の参加者を得た。また、全国から普及指導員 19 名の参加を得て、農政課題解決研修「水稻の直播栽培技術」(9 月) を実施した。

一般公開については、本所の菜の花公開(5 月)と一般公開(9 月)、大仙研究拠点一般公開(9 月)の 3 回開催し、所の研究成果を積極的にアピールすることに努めた。また、科学技術振興機構が主催するサマー・サイエンスキャンプ 2013「ウシの行動測定と牛肉ができるまでを体験しよう」を全国から 10 名の高校生の参加を得て実施した(8 月)。その他、小学 5 年生を対象とした「田んぼの科学教室」(7 月、大仙研究拠点)の開催や小中学生の自然観察や体験学習、大学生の施設見学などを積極的に受け入れ、科学技術離れ対策に協力した。

外部への広報活動としては、ベーカーリー素材 EXPO(5 月、東京)、アグリフェア 2013 in ふくしま(7 月、郡山市)、オーガニックフェスタ in いわて 2013(8 月、岩手)、岩手県全国農業機械実演展示会(8 月、岩手)、アグリビジネス創出フェア 2013(10 月、東京)、大仙市秋の稔りフェア(10 月、大仙市)、第 136 回秋田県種苗交換会(10・11 月、仙北市)、ビジネスマッチ東北 2013(11 月、仙台市)、食のブランド・ニッポン 2013(11 月、東京)、日本フードサービス協会(JF)バイヤーとの勉強会(26 年 2 月、東京)、第 20 回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会(26 年 3 月、東京)、第 8 回 JA グループ国産農畜産物商談会(26 年 3 月、東京)等への出展・協力を行った。

報道発表は、「寒冷地向けイチゴ新品種(豊雪姫)」(7 月)、「米粉パン用水稻新品種(ゆめふわり)」、「いもち病に強く直播栽培に適する良食味水稻新品種(えみのあき)」(以上、9 月)、「飼料用米の生産に適する水稻新品種(いわいだわら)」、「寒冷地向けの大豆新品種(あきみやび)」、「寒冷地向けの大豆新品種(シュウリュウ)」(以上、10 月)、「高濃度有機性汚水を低コストで浄化できるハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システムを開発」(11 月)等を行った。

また、当所が開発した新技術について、現地での技術指導等を通じて広範な普及を図る「出前技術指導制度」を推進した。25 年度は、水稻(飼料米含む)の直播及びナタネ、ソバ、クッキングト

マトの栽培技術、Google Map による気象予測データを利用した農作物警戒情報システム、田畑輪換における土壌肥沃度の実態、水田雑草予防法、野菜の水耕栽培技術等について、24 件の現地技術指導、実演、技術相談、講演会などを実施した。

5) 所内における研究活性化等

本年度は、4 月 1 日付け新規採用者が 8 名あったことから、特に「人材育成」に重点を置くことを所研究活動強化計画の実施方針とし、「震災復興対応任期付き研究員スタートアップ経費」及び「人材育成スタートアップ経費」を用いて、新規採用者や若手・中堅研究者(独法採用 10 年以内)の研究環境整備や資質向上を図るための予算支援を行った。また、所内研究活性化経費を用いて地方活性化に資する研究計画を募り、優れた 19 課題に対して予算配分を行った。また、新規採用者に対して計 8 回の OJT(On the Job Training)研修を実施した。

試験研究や組織運営などの業務運営について自ら点検を行い、業務運営の改善に資することを目的に、「運営委員会」(25 年 10 月)を開催した。運営委員は生産者、地方自治体関係者、学識経験者、報道機関関係者等の計 10 名である。

各研究分野では各種発表等の予行演習会や独自開催のセミナーが随時行われた。東北農業研究センターセミナーは、講師を外部から招くなどして 6 回開催した。また、特別セミナーとして「次世代東北水田農業を考えるー東北農研大規模圃場開田 50 周年記念ー」(12 月)を開催した。

4. 研究業務の概要

生産基盤研究領域

生産基盤研究領域は、農業経営に関する調査・研究を行う農業経営グループ、農業機械や作業システム、地域バイオマスに関する技術開発を行う農業機械グループ、作物生理や品質・機能性に関する研究や技術開発を行う生理機能グループで構成されている。

農業経営グループでは、新技術の経営的評価、

ビジネスモデルの策定、食農連携、地域バイオマスの利用などの研究課題を担当している。

新技術の経営的評価について、わい化栽培ふじのリンゴ経営では高樹齢化が進み、生産性・収益性の低下している園地では改植の必要がある。それは園地別・樹齢別の経営計算により判断できることを研究成果情報として公表した。東北日本海側の大規模法人経営の大豆作において、刈り残しが発生するような収穫労働時間の1時間の削減は4,500円の収入放棄となり、その金額は農林統計の自家労賃評価額を大きく上回っていることを研究成果情報として公表した。東北中山間水田地域の繁殖牛経営について、稲作の収益性悪化により「水稲＋繁殖牛」複合経営の成立基盤が失われてきていることを明らかにした。その他、宮城県K法人に導入されているプラウ耕・グレーンドリル播種体系における水稲乾田直播などの新技術の経営評価や導入効果等の調査や、東北地域の農業動向や農地集積の地域差等について明らかにした。

ビジネスモデルの策定では、新たなマーケティング手法としての贈答用リンゴの「おすそわけ袋」について、贈答する立場の消費者の評価は高いことを明らかにし、新たな顧客拡大につながることを研究成果情報として公表した。また、利根川による「統合的ビジネスモデル」の4つのモデルの視点から、いわて中央農協とF社の取引を対象に分析し、その内容と特徴について整理した。さらに、観光地立地型直売所のビジネスモデルについて、運営上の課題や対応策について調査・解析を進めた。

食農連携については、連携活動の性格をより強く持つ部分を提携活動と位置づけ、有機農産物の販売方法、商流権限の所在、機能分担等について連携・提携の視点から整理し、連携の評価方法に繋げていくことを検討した。

地域バイオマスの利用については、資源化が進んでいないリンゴ剪定枝について、チップボイラーのハウス加温燃料として利用することの合理性が確認できた。また、岩手県内生協で回収される廃食用油は、酸価が低く、開発中の農業用ディーゼル発電機の燃料として十分な品質であることを確認した。

農業機械グループは、主に高生産性水田輪作システムの確立と地域資源を活用したバイオマス循

環利用システムの開発に取り組んでいる。

高生産性水田輪作システムについては、宮城県津波被災地域を対象にプラウ耕・グレーンドリル播種体系を基軸とした稲-麦-大豆2年3作水田輪作体系を現地（名取市）の合筆した3.4haと2.2ha大区画水田に導入し、省力機械化技術と安定多収技術の現地実証を行った。水稲品種「まなむすめ」を用いたプラウ耕・グレーンドリル播種方式（4月9～10日播種）による乾田直播の全刈収量は549kg/10aを得ることができた。また、麦については、水稲収穫後に同体系で2012年11月1日に播種した大麦「シュンライ」の収量は525.8kg/10aを得た。2013年11月1日には、小麦「シラネコムギ」、「銀河のちから」を同体系で播種した。大豆については、「タンレイ」を同体系で7月11日に条間24cmで播種し190kg/10aが得られた。

土壌水分制御技術については、水稲乾田直播における日減水深2cm/日以下とするためには、山中式土壌硬度計で20mm以上が必要であることを明らかにし、現地試験での適用性を確認した。また、営農排水技術については、開発した暗渠施工器の現地適用性について確認した。この他、合筆水田のGPSレベラーの作業性と地カムラの検出方法、雑草の発生と防除技術等について検討した。

地域資源を活用したバイオマス循環利用システムについては、装置トラブルの原因となる灰の融解温度について調査し、草本系バイオマスとして有望なジャイアントミスカンサスやススキは部位別で灰分が異なることから融点が異なることが推測できた。

ナタネ油のSVO仕様に改造したディーゼルエンジンの発電機については、適切な整備により1,250時間以上の運転が可能なることを研究成果情報として公表した。また、米ぬかなどに含まれるセラミドは保湿効果等が知られており、これまでは高純度化が困難であったが、これを疑似移動層クロマトにより高効率に連続製造できることを研究成果として公表した。この他、リンゴ剪定枝などを供試し、試作した薪ボイラー熱源穀物乾燥機により小麦乾燥試験等を実施した。

生理機能グループの研究内容は、機能性評価に関する研究と作物生理に関する研究に分けられる。

作物生理に関する研究では、機能性成分であるビタミン E について、新規のビタミン E 合成遺伝子を同定した。その遺伝子発現を抑制することで、ビタミン E 同族体であるトコフェノール (Toc) を生産せずにトコトリエノール (T3) のみを生産することがイネカルスで確認できた。

気象変動に対する水稻の生育・品質・収量の安定化を目的とした遺伝要因と生理生態的機構について、インディカ品種はジャポニカ品種に比べ単位根当たりの吸水量が大きく、根で最も多く発現するアクアポリン *PIP2;1* も 2 倍程度インディカ品種で多いことから両者の密接な関連を明らかにした。また、土壌水分条件及び品種とアクアポリンの関係について調査したところ、高土壌水分条件下では、インディカ品種の「タカナリ」は「コシヒカリ」に比較して、*PIP1;3* や *PIP2;1* など特定の分子種のアクアポリンの発現量が高いことを明らかにした。さらに水田転換畑で栽培されることが多い大豆について、遺伝子データベースからアクアポリン遺伝子を探索し、23 種類ずつの細胞膜型及び液胞膜型遺伝子の存在を明らかにした。

水稻の低温障害に関連して、「あきたこまち」幼苗の地上部のみを 1～2 日低温処理し、その後明所に置くと枯れてしまう現象について、これは葉に亜硝酸が蓄積し光合成障害が起こることが原因であることを明らかにし研究成果情報として公表した。また、イネの低温下での閉花性に関係する遺伝子 *spw1-cla2* と農業形質を解析するため、交配等を実施した。

機能性評価に関しては、ハウレンソウの抗酸化能 (H-ORAC 値) やルテイン含量について、栽培条件や品種間差について調査した。抗酸化能は、低温保存すればほとんど低下しないことを明らかにした。また、寒締め栽培すると、フラボノイド含量が増加しその組成も変化することを明らかにした。

アルツハイマー病の原因となるアミロイドベータペプチドについて、これによる脳細胞の障害を防ぐ生理活性物質を探索し、ヘラオオバコに含まれるベルバシコシドに神経細胞の毒性を緩和する効果があることを明らかにした。

畑作園芸研究領域

畑作園芸研究領域は、畑作物育種グループと野菜花きグループで構成されている。

畑作物育種グループでは、麦類 (大麦、小麦) 並びに特産作物 (ナタネ、ハトムギ、ソバ) の新品種育成と育種法の開発を行っている。小麦品種の育成では、寒冷地向け超強力小麦「東北 225 号」の権利確保のための品種登録を出願した。また、「銀河のちから」が岩手県の奨励品種に採用された。寒冷地向け麺用小麦「東北 228 号」については品種登録に向けて栽培特性、品質特性を評価し「ネバリゴシ」より 17% 多収で製粉歩留及び麺の色相が優れることを明らかにした。さらに「ネバリゴシ」に 4 種類の赤さび病抵抗性遺伝子を 2 つずつ導入した準同質遺伝子系統を育成し世代を進めた。甘味種小麦とその姉妹系統の特性評価に関し、「盛系 D-B004」の同質遺伝子系統 (NIL: BC6) の甘味種コムギが高い糖含量を示すことを確認した。一方、未熟種子や完熟種子における糖の蓄積は栽培環境により変化することも確認した。また、同 NIL の兄弟系統である変異体 (GBSSI-B1、-D1 及び SSIIa-B1、-D1 合計 4 遺伝子を欠く変異体) のアミロペクチンの鎖長構造には、野生型に比べ短鎖の増加、中鎖の減少が認められた。製粉性向上については「きたほなみ」の高製粉性に関わる 3B 及び 7A 染色体上の QTL を同定し、同品種を片親とした複数の分離集団でそれらの効果を確認した。

大麦品種の育成では、寒冷地向け低ポリフェノール系統として地方番号候補となる 3 系統を選抜した。大麦の *fra* (破碎澱粉粒変異) 遺伝子について 2 集団 (「Franubet/イチバンボシ-F2」及び「赤神力/Franubet-F2」) を用いたマッピングを実施し、*fra* 遺伝子の座乗位置を決定した。

ナタネ品種の育成では、寒冷地向けのダブルロー (無エルシン酸で低グルコシノレート) 系統「東北 99 号」は成熟が早く多収で、次年度に品種登録を行うこととした。暖地・温暖地向けの無エルシン酸系統「東北 100 号」は含油率が高く、継続試験とした。脂肪酸組成については F3 世代においてオレイン酸含有率が 75% と高い個体を見出した。根こぶ抵抗性遺伝子 *Crr1* 及び *Crr2* のナタネへの導入のため、戻し交配とマーカー選抜を進

めた。また、ナタネフォーラムを北海道滝川市で開催、関係者100名以上を集めナタネ産地形成の問題点を討議した。

高品質安定多収なソバの品種育成では、基幹品種と早熟系を母材に交配選抜を実施した。春まきで比較的高収であった「盛系5」を「東北3号」として現地試験に供試することとした。自家受粉系統については、自家受粉遺伝子 S^h を有する「盛系6」の特性を解析した。また、先端プロにおいてソバ-ナタネ輪作モデルに適する品種選定と現地実証(25~29年度)を担当している。

ハトムギの育種素材開発では、「赤系13」「赤系14」を有望と判定し、ジュズダマ属の遺伝資源収集では秋田県などから7点を収集した。

野菜花きグループでは、野菜の新品種育成と野菜花きの栽培技術開発を行っている。寒冷地におけるタマネギ等野菜類の新たな作型の開発では、タマネギりん茎の肥大性向上には肥大開始までの葉数の確保とその充実が重要で、育苗時の肥効調節型肥料(リニア型)の施用により初期生育が促進され収量増加につながることを確認した。また、タマネギ春まき夏どり作型の試験を研究連携により東北・北陸地域の6県で開始し、当該地域の目標3.4t/10aを上回る収量を一部で得た。アスパラガス伏せ込み促成栽培については半地下栽培法の低コスト効果について検討し、工事費込みの設置コストは慣行法とほぼ同等で、暖房コストを含めれば大幅にコストダウンできることを明らかにした。露地野菜の干害・湿害回避技術に関しては、播種直後からの地下水位制御によりニンジンの発芽率が高まり生育が促進されることを複数年で確認し、あわせて開発した二段ベルト播種機を用いて播種間隔揃いを向上させることで生育が揃う傾向を見出した。東日本大震災被災地の農業復興に資する研究として、上記に加え宮城県岩沼市の1ha圃場におけるキャベツの機械化一貫体系の実証栽培を行った。また、岩手県沿岸被災地におけるトマト隔離床栽培で使用される杉樹皮培地の特性解明や心止まり性クッキングトマト長期出荷実証試験に着手した。

寒冷地の春どりに向く極晩抽性ハクサイ品種の育成では、晩秋播き露地越冬作型において選抜系統の晩抽性、越冬性、結球性の向上を認めた。F1の採種試験を実施中である。早生実用F1品

種の両親に極晩抽性を導入するため、BC3世代のDNAマーカー選抜を行った。周年安定生産のためのイチゴ品種・系統の開発では、一季成り、四季成り性系統の選抜を進め、有望系統を東北イチゴ共同育種参画機関に配布して試験を進めた。夏秋イチゴの安定多収生産技術の開発では、四季成り性品種「なつあかり」を用いた夏秋どりで連続開花性を維持しつつ栄養成長も確保できる日長処理方法を明らかにした。四季成り性品種の三季どり作型(高設栽培)では「サマーティアラ」が大果で収量性に優れ、適品種であること、一季成り品種を用いる夏秋栽培では「かおり野」が有望であることを示した。

花きの生産性向上技術の開発では、スプレーギクの寡日照期における品質向上に二酸化炭素施用が有効であることを示した。特に茎の充実度の向上が認められた。また、花きに対する二酸化炭素回収貯留システムを用いた二酸化炭素施用効果を検討し、品目ごとの有効度を評価した。

畜産飼料作研究領域

畜産飼料作研究領域は寒冷地における飼料作物の栽培、収穫調製及び放牧に関する研究を行う飼料グループ、牧草の育種に関する研究を行う牧草育種グループ、牛の飼養及び肉質評価に関する研究を行う畜産グループ及び肉用牛の生理と繁殖に関する研究を行う家畜繁殖グループで構成されている。

飼料グループは、飼料用トウモロコシの裏作に緑肥作物としてヘアリーベッチを導入すれば、窒素施肥量を節減できることを明らかにした。また、飼料用大豆のリビングマルチ栽培における大豆の最適な播種期と栽植様式を明らかにするとともに、飼料用大豆をダイレクトカット収穫する技術を開発した。さらに、草地造成後2年間の放牧肥育牛の増体速度はペレニアルライグラス草地の方がケンタッキーブルーグラス草地より高いこと、及び草地への先駆的侵入樹種であるネムノキの樹冠内における出芽多発地は季節により移動することを明らかにした。

牧草育種グループは、草地の高度利用を促進するために、イネ科牧草の品種開発を行っており、越冬性に優れたイタリアンライグラス「東北5号」

を育成し、地域適応性試験を行っている。また、ペレニアルライグラスについては、越夏性に優れる系統「東北7号PR」を新たに育成した。

畜産グループは自給飼料多給による一層のコスト低減と地域条件を活かした特色ある、高付加価値で高品質な牛肉生産のために、放牧地での吸血昆虫対策として農業用シートを利用して、運搬・保管の容易な新型トラップを開発した。また、放牧条件下で生まれた短角子牛は春子より夏子の初期発育が優れていることを明らかにした。さらに放牧牛肉については牧草フレーバーを形成するテルペノイド類が、皮下脂肪、筋肉内脂肪に蓄積し、筋肉組織には極めて少ない量であることを示した。

生理繁殖グループは、肉用牛の効率的繁殖と飼養のために、咀嚼計と腰部に装着した加速度計のデータを利用してウシの採食、反芻行動及び起立、横臥姿勢を容易に判別できるプログラムを開発した。また、赤外線センサを使用しての牛乗駕行動を検知する装置を開発した。さらに、採卵成績に影響することなく過剰排卵処理の開始日を4～10日の間で自由に調節する処置方法を開発した。

生産環境研究領域

生産環境研究領域は、病害・虫害に関する技術開発研究を行う病害虫グループ、土壌分析・施肥管理に関する技術開発研究を行う土壌肥料グループ、気象環境に起因する高・低温障害の発生予測や被害回避に関する技術開発研究を行う農業気象グループで構成される。

病害虫グループでは、稲、大豆、野菜の病害及び害虫、野菜のウイルス病を媒介する害虫などの研究課題を担当している。稲の病害虫に関しては、現地圃場試験により、低温燃焼によって可溶性ケイ酸含量を高めた籾がら焼却灰の施用が、ケイカルやシリカゲルなどのケイ酸資材の施用とほぼ同等のイネいもち病発病抑制効果を有することを確認した。斑点米カメムシの広域発生予察技術の開発に関しては、フェロモントラップ資材の変更に伴うデータの読み替え方法を確立して過去のデータの利用を可能にしたほか、周辺植生情報に基づくリスク評価については、カシカメムシ2種の水田への侵入量に影響する土地利用は主に牧草地

とイネ科雑草地であり、年次によって影響の方向性が逆転することや影響の程度が変化することを明らかにした。大豆害虫に関しては、フェロモントラップ調査の結果、ホソヘリカメムシの土着天敵であるカメムシタマゴトビコバチ雌成虫の空間分布は季節的な変化が小さく、年間を通じて多くの個体が林縁環境にとどまり、一部の個体だけがダイズ圃場に移動することを明らかにした。また、大豆の原種とされるツルマメと大豆における昆虫相の調査・比較により、豆類害虫であるウコンノメイガの寄主範囲がマメ科とイラクサ科以外にも拡大する可能性があること、本種の選抜による実験昆虫化の可能性等を明らかにした。ウイルス媒介昆虫に関しては、アザミウマ類の有力天敵タイリクヒメハナカメムシの放飼株から周辺株への分散性は植物種により異なり、主として果実被害を受ける果菜類では放飼株への定着性が高いが、葉の被害を受ける果菜類では移動性が高いこと等を明らかにした。果菜類の土壌病害については、転炉スラグによる土壌 pH 矯正はトマトかいよう病の発病には影響しないがトマト青枯病の発生を抑制すること等を明らかにした。このほか、メロンつる割病(フザリウム病)について、非病原性菌株、土壌 pH 矯正資材、植物病害抵抗性誘導剤を適切に組み合わせて育苗時に処理すると、発病を抑制するとともに、健全個体の生育を促進する効果もあることを明らかにした。イネ科牧草における内生共生糸状菌の利用技術に関しては、*N. occultans* 感染イタリアンライグラスの種子の感染率は、採種条件により変動することを明らかにした。

土壌肥料グループでは、大豆や野菜のカドミウム吸収抑制技術などの研究課題を担当している。大豆のカドミウム吸収抑制に関しては、畑転換3年目の現地圃場において、苦土石灰無施用の場合にはカドミウム低吸収性の品種・系統の子実カドミウム濃度は従来の東北の主力品種と比べて2割程度低いこと、苦土石灰の部分施用によって土壌 pH を 6.5 程度に上げた場合には、これらの品種・系統のカドミウム濃度は主力品種より4～5割低減することを明らかにした。野菜のカドミウム吸収抑制に関しては、褐色低地土を用いたホウレンソウのポット栽培試験により、夏作では供試した2品種とも収穫前2週間の地温が低いほどカドミウム濃度が低下し、冬作では2週間の寒締め

によるカドミウム濃度の低下は地上部より地下部で大きいことを明らかにした。また、現地圃場調査により、収穫時期の地温が低いと可食部カドミウム濃度が低下する傾向を見出したほか、現地圃場における冬作ホウレンソウの寒締めとセル成型苗移植による可食部カドミウム濃度低減効果の検証を開始した。カドミウム吸収抑制効果が高い無機質資材やその施用方法に関しては、コマツナのポット栽培試験結果から、アパタイト系資材は可食部カドミウム濃度の低減効果が最も高く、土壌 pH6.0 の場合に 1% となるように混合すれば、黒ボク土で約 4%、低地土で約 20% それぞれ低減することを明らかにした。有機性排水の浄化技術に関しては、伏流式人工湿地ろ過システムの有機物や窒素の浄化効率は、季節的には冬季から春先にやや低下すること、経年的には冬季も含めて安定して向上することを確認した。また、鉛直ろ床において流出水を循環することにより窒素浄化効率の向上に成功した。

農業気象グループでは、高・低温障害や病害の発生予測、地球温暖化による作物栽培への影響評価などの研究課題を担当している。気象災害リスクの評価に関しては、力学的ダウンスケール気象予測データを検証し、気温については系統誤差を適切に補正することでより現実的な値に近似できる可能性を認め、降水量については降水の規模や頻度の統計処理に基づいたバイアス補正を行なう必要性を認めた。また、平成 10 年以降の北日本における 4 月と 8 月気温との間に強い負の相関を発見したほか、気候モデル MIROC5 を用いた予測により現在のやませと同様の風が将来も出現して北日本に低温偏差をもたらす可能性を明らかにした。広域気象予測データの利用技術に関しては、病害モデルへの適用を視野に物理的な植生熱収支モデルによる葉面結露の観測実験を行い、従来の方法では再現できない葉面結露を観測し、新規モデルの計算値が概ね一致することを確認した。また、岩手県と宮城県の太平洋沿岸地域における 1km メッシュ気象データと、現地観測値、アメダス観測値を比較検討した。このほか、メッシュ農業気象データ等から面的な出穂期の早晩を予測できる数値モデルを作成し、その分布図と作物統計値との比較により出穂期の早晩予測に有効と考えられた。大豆生産に関しては、品種の早晩性によ

る生育・収量の温度応答の違いを、温度勾配チャンバー試験により明らかにした。また秋田県大曲の過去 33 年間の栽培データの解析から 8 月後半の高温や土壌水分の低下（高ポテンシャル蒸発散量）がダイズの減収や小粒化を引き起こしていることを明らかにするとともに、大曲の過去 30 年の気象要素、発育モデル及び気象要素-粒大予測モデルを用いた解析により、標準時期の播種（5/26 播種）よりも晩播（6/26 播種）によって小粒化リスクが軽減される可能性を見出した。水田における温室効果ガス排出削減技術に関しては、圃場データの採取を継続するとともに、連携試験地を含めたデータについて水田メタン発生量推定の数理モデル DNDC-rice により解析し、試験地間で適合性に差があるものの全体として過大に推定されたとの結果を得た。

水田作研究領域

水田作研究領域は、水田作物の栽培と雑草管理に関する研究を行う水田作グループ、水稲の品種育成とそれに係わる研究を行う稲育種グループ、水田作物の土壌管理と病害防除に関する研究を行う水田環境グループ及び大豆の品種育成とそれに係わる研究を行う大豆育種グループで構成されている。

水田作グループでは、水稲・飼料用米等の低投入・高能率湛水直播栽培技術の開発を目指し、水稲無コーティング種子の代かき同時播種の現地実証試験を実施したところ、苗立率 65%、全刈り収量は 647kg/10a と鉄コーティング直播並の結果が得られた。地下水位制御等土壌水分制御技術を活用した持続的生産技術の開発を目指した試験では、大豆の精子実重は、地下水位制御区が無制御区に比べて場内試験で約 5%、現地実証試験で約 13% の増収が認められた。省資材・低コストの雑草・病害防除技術と持続的土壌管理技術の開発を目指して、深水管理を組み入れた除草剤低減雑草防除体系において、一発処理除草剤の除草効果が対無処理区比 5% 以下と高い場合にタイヌビエの埋土種子量が減少することを明らかにした。また、食用イネ移植条件における飼料イネ由来の漏生イネ防除では、気温が低く漏生イネの生育が進んでいない条件でのプレチラクロール散布及び感受性

品種にはトリケトン系除草剤散布が有効であり、圃場試験では 2/5 ~ 1/5 に漏生イネの苗立ちが低下することを明らかにした。さらに、秋季の石灰窒素散布により飼料イネ由来の漏生イネの苗成りは 1/6 以下に低下することを明らかにした。

稲育種グループでは、気象変動に対応し、低コスト栽培に適した業務用向け主食用水稻品種、低コスト生産を可能とする米粉パン、米粉麺用等加工向け多収水稻品種、低コスト生産に適し食用品種との識別性を有する多収飼料用米品種及び高い消化性を持ち地域の環境条件に対応した稲発酵粗飼料用品種の育成を目指し、直播適性、いもち耐病性、耐冷性の強化を目的とした交配及び集団養成と直播適性、いもち耐病性、耐冷性、高温耐性等を備えた系統の選抜を行った。その結果、いもち耐病性を備え耐倒伏性に優れる奥羽糯 413 号、多収で直播栽培に適した早生の奥羽 416 号、稲発酵粗飼料用の奥羽飼 414 号の品種登録を出願した。また、有望系統として、胴割れ率が小さく東北地域での栽培に適した奥羽 417 号を得た。さらに、米粉特性に優れ、東北地域での栽培に適した系統を選抜した。

水田環境グループでは、田畑輪換における大豆の多収を目指し、多様な土壌における地下かんがいによる給水特性を調査し、測定が容易な土壌特性を用いて給水量を推定する計算式を開発した。また、転換畑でのかん水時期を簡易かつ精度良く判定する技術を開発するためのモデルを検討し、アメダスと土壌特性値を用いて大豆作付け時の土壌水分を精度良く予測できるモデルを開発した。水稻の安定生産を目指し、低温条件下でもリン酸肥料の減肥が可能かどうか判断ができるように、湛水条件下での温度と可給態リン酸の関係を検討し、移植から約 1 ヶ月間の湛水条件下でのブレイ II リン酸値を推定する方法を開発した。さらに、大潟村の有機栽培農家圃場において、チェーン除草と生育診断に基づく水稻の追肥技術を導入した現地試験を実施し、チェーン除草による雑草抑制効果、追肥による増収効果を実証した。いもち病発生を低減させる飼料米栽培法を構築するため、後期追肥による発病抑制効果を検討し、量的抵抗性品種では無防除栽培が可能であること、感受性品種において中発生条件下で葉いもちの発病抑制効果が認められることを明らかにした。また、病害

抵抗性の持続的利用法を明らかにするために、量的抵抗性品種に特異的に発現・誘導される遺伝子を抽出するとともに、感染細胞の防御反応について解析を進めた。さらに、SSR マーカーを用いて異なる圃場のいもち病菌が識別可能であることを示し、伝染源から約 100 m 以内には、伝染源からの孢子飛散により生じた葉及び穂いもちが含まれることを明らかにした。

大豆育種グループでは、気候区分に対応した安定多収・良品質大豆品種の育成を目指し、「リュウホウ」にダイズモザイクウイルス C、D・ダイズシストセンチュウレース 1 抵抗性を導入した「東北 173 号」、「おおすず」にダイズモザイクウイルス C、D・ダイズわい化病抵抗性を導入した「東北 174 号」のピンポイント改良系統などが生産力検定試験等で戻し交雑親とほぼ同じ生育を示すことを明らかにした。また、新たな草型として無限伸育型系統の開発を目指し、日米品種間交配組合せ由来の系統から「東北 175 号」を新配付とした。さらに、従来育種による有望系統のうち、ダイズモザイク病及びダイズシストセンチュウに抵抗性で白目中粒の「東北 171 号」が品種登録出願候補系統として承認され、「東北 170 号」等を継続とした。寒冷地向け特殊用途品種の育成については、産地の要望に応じて黒大豆の「東北 161 号」の検討を再開した。

環境保全型農業研究領域

環境保全型農業研究領域は平成 25 年度は環境保全グループによって構成された。地域条件に対応した環境保全型農業生産システムの開発に向けて、カバークロープや地域の有機質資材の利用、田畑輪換、定植前苗施肥、耐病性台木の利用等の耕種的技術を活用し、省化学資材・環境保全と生産性を両立させる生産性の高い畑作物・野菜栽培体系の開発を進めている。

カバークロープや地域の有機質資材の利用、田畑輪換に関しては、リビングマルチ大豆栽培について、昨年シストセンチュウ害と極度の乾燥で収量低下が認められた山形県河北町の農家圃場で実証試験を引き続き実施し、シストセンチュウ密度の低い圃場への変更等の対策の結果、シストセンチュウ害は再現せず、リビングマルチ大豆栽培で

収量の増加が認められた。養分の観点からは、重窒素同位体分析により麦残さ由来窒素が大豆に吸収されていることを確認した。これらの成果は「麦類をリビングマルチに用いる大豆栽培技術マニュアル」の増補改訂版として農研機構のホームページ上に公開した。また、規格外大豆を緑肥として用いる小麦栽培体系について、岩手県北上市の農家圃場等で試験を実施し、夏に休閑する慣行栽培と同等以上の収量が得られ、温暖化ガス排出が慣行栽培よりも少ないことを確認した。

定植前苗施肥に関しては、長ネギ栽培について、山形県河北町の農家圃場（灰色低地土）の実証試験では、前年に引き続き、化学肥料の施用量を50%以上削減した条件で増収効果を確認した。また、4つの作型（8月どり、9月どり、10月どり、11月どり）や、有効態リン酸濃度が高い（110mg/100g）圃場のいずれにおいても効果が見られた。これらの成果は平成25年度の主要普及成果情報として取りまとめた。

耐病性台木の利用等の耕種的技術の活用に関しては、昨年、主要普及成果情報を提出するとともに技術マニュアルを公表したキュウリホモプシス根腐病の総合防除について、東北地域マッチングフォーラムを開催したほか、産地等の要請に応じ、潜在的な発病リスクの調査や現場での技術指導を通じて技術の普及に努めた。

このほか、空撮画像を使って生育途中で非破壊でレタスの生育を推定する手法を検証した。

農業放射線研究センター

農業放射線研究センターは、平成23年3月11日の震災に伴って発生した東京電力福島第一原子力発電所事故によって広範な地域に飛散した放射性物質の農地からの除染と除染廃棄物の減容化、農作物への移行の要因解明と低減技術の確立を担当している。

土壌からの除染に関しては、水による土壌攪拌・除去の技術開発について、農村工学研究所や農業環境技術研究所と共同で複数の現地圃場での実証試験を行いつつ、改良を進めている。また、除染に伴い大量に発生する草本系廃棄物の減容化を行うために、中央農業総合研究センター等と共同で設置した減容化処理設備のパイロットプラントを

用いて継続的に実証試験を進め、貯蔵、成型に適した資材の種類や量を決定した。

農作物への移行低減に関しては、水稻のみならずソバ、大豆においても土壌中の交換性カリウム含量を十分に高めることが肝要であることを明らかにした。これら水稻、大豆、ソバに関しての要因解析調査と試験栽培等の成果の一部は、それぞれの対策技術として取りまとめられ、農林水産省HPにて公開された。

また、植物による放射性セシウム吸収能に関してコムギ、アマランサスを用いたスクリーニング結果から、その吸収能には、品種・系統の間にバラツキもあることが示されたが、その一方でサイズ効果（大きな植物体ほど体内の放射性セシウム濃度が希釈効果により低減する）も認められ生育環境の影響も大きいことが明らかになった。除染後客土をされた圃場では埋土種子による雑草の繁茂が顕著であり、その体系的な調査から客土の由来による影響が確認された。そのため、客土施工直後にカバークロップを活用することによる土壌流亡の抑制や雑草の抑制効果について検証を開始した。農業用水からの放射性セシウムの農地への移動は、その形態も含めて明らかにする必要がある課題であるが、低濃度であるために測定に時間を要する。そのため、濃縮操作の簡便化や測定装置の高度化を進めている。避難指示区域では鳥獣害（特にイノシシ）が深刻になりつつあるが、定点カメラの活用によりイノシシの活動時間が従来の夜間から昼間にシフトしていることが明らかになり、人間活動の低下がこのような変化を急速にもたらしていることが示唆された。それぞれの地域の特性（周辺地形、鳥獣出現頻度など）に基づいたきめ細かな対策を現地において進めている。

Ⅱ 研究情報活動

II 研究情報活動

1. 研究成果の発表

注. 1) 収録対象は、平成 25 年度に公表したものである。編集に当たっては、平成 25 年 4 月現在の組織構成により配列してある。

2) 各研究領域の成果は、職員が所属する研究領域ごとに記載した。

研究課題の分担等により他の研究領域に属する課題の実施により得られた成果は、本人が所属する研究領域に収録した。

なお、複数の研究領域による成果については、記載されている所内の著者のうち、配列順序が一番前の著者の所属する研究領域に収録した。

3) リストは研究領域ごとに以下の項目で分類し、各項目の中は職員の氏名順（五十音順）、同一職員の中は発表年月（発表又は発行、掲載、印刷された年月）順に記載した。

原 著 論 文：原著性の高い学術論文、研究所報告、叢書等

学会発表等：口頭、ポスターによる学会発表（講演要旨集、本誌に掲載された要旨、シンポジウム講演を含む）、国際研究集会での発表

著 書 等：上記以外の印刷物、Web 掲載及びマスコミ報道

《所 長》

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
石黒潔	Recent Introduction of Statistical Methods from Medical Science to Plant Disease Epidemiology in Japan	Proceedings of the 11th International Epidemiology Workshop	*、42	2013.08

《企画管理部》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
佐藤百合香	消費者の年代別にみた野菜消費行動の特徴－調理に着目した接近の試み－	農村経済研究	31 (1)、89-95	2013.06
山岸賢治、木村俊之、渡辺隆司 (京大大学生存圏研究所)	Construction of an endogenous selectable marker gene for the rice straw degrading white-rot basidiomycete <i>Cyathus stercoreus</i> .	Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry	77、771-775	2013.04

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
池田堅太郎、佐藤百合香、高梨祐明、白土宏之、田中忠一	農研機構東北農業研究センターの産学官連携の取組 ～直播向き水稻品種『萌えみのり』の鉄コーティング直播栽培を例として～	産学官連携学会 第 11 回大会	*、139	2013.06
佐藤百合香	子供の地域農業をめぐる知識・経験および農業継承にかかわる意識の変化—稲作地域における経年調査結果による—	第 49 回東北農業経済学会福島大会 (2013 年度) 報告要旨	*、72	2013.08
山崎有美(宮大農)、亀井一郎(宮大農)、山口恵(宮大農)、目黒貞利(宮大農)、平井浩文(静大院農)、山岸賢治、近藤隆一郎(九大院農)	Phlebia sp. MG-60 株におけるマンガネロオキシダーゼ強制発現株の作成および脱リグニン能解析	第 64 回 日本木材学会大会	*、*	2014.03
有本美沙(静大農)、河岸洋和(静大グリーン研)、平井浩文(静大院農)、山岸賢治、亀井一郎(宮大農)、近藤隆一郎(九大院農)	ラッカーゼ生産性褐色腐朽菌 <i>Gloeophyllum trabeum</i> の分子育種	第 64 回 日本木材学会大会	*、*	2014.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
兼松誠司、小林隆(山形大学)、関矢博幸	初がら焼却灰は市販のケイ酸資材と同等のイネいもち病発病抑制効果を有する	平成 25 年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
佐藤百合香	自著紹介：産地と食卓をつなぐ農業技術普及—特徴ある農産物の普及から見えてくる課題—	農業経営通信	256、12	2013.07
山岸賢治	スエヒロタケ <i>Shizophyllum commune</i> (菌類の事典、日本菌学会編集)	浅倉書店	*、565-566	2013.08

《生産基盤研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
磯島昭代	顧客拡大に向けた贈答用果物の販売戦略ー「おすそわけ袋」の考案と贈答用リンゴにおける活用可能性の検証ー	農村経済研究	31 (1)、25-32	2013.06
磯島昭代	東日本大震災後における生協組合員の声の分析	東北農業研究	66、165-166	2014.01
小野洋、野中章久、泉谷眞実 (弘前大学)	LCA によるリンゴ未利用剪定枝の利用可能性	東北農業研究	66、167-168	2013.12
小野洋、片山勝之	大豆収穫労働と技術評価ー秋田県仙北地域を事例としてー	日本農業経済学会論文集	2013 年度、15-22	2013.12
金井源太、玉城勝彦、長崎裕司	Development of Classification Drying of High Moisture Wheat Grain According to the Moisture Content	JARQ	47 (2)、141-151	2013.04
金井源太、澁谷幸憲、小綿寿志	RAPESEED PURIFICATION METHOD USING A BELT-TYPE SOYBEAN-SORTER	Conference Proceedings of the 21st EU BC&E (European Biomass Conference and Exhibition)	*, 1BV.3.33	2013.06
冠秀昭、大谷隆二	プラウ耕乾田直播とこれからの水田利用の変化	農業農村工学会誌	81 (5)、11-14	2013.05
鈴木健策 /CA、大森幸美、長尾学	Accumulation of nitrate and nitrite in chilled leaves of rice seedlings is induced by high root temperature	Plant and Cell Physiology	54 (11)、1769-1779	2013.11
関矢博幸、齋藤秀文、河本英憲	東北地域の飼料用稲ー麦二毛作栽培における飼料用大麦の収量性	東北農業研究	66、27-28	2014.03
高橋太一	有機農業経営における有機栽培稲作拡大制約への対応活動	農村経済研究	31-1、46-53	2013.08
野中章久、金井源太、小野洋	燃料向け廃食用油の品質差と新しい利用方策	東北農業研究	66、169-170	2013.12
長谷川啓哉	生産・販売変革による大規模リンゴ作経営の成立ー青森県弘前市 S 経営の事例分析ー	農業経営研究	51 (1)、28-41	2013.06
堀川彰 /CA	東北地域における自営農業就業動向ー年齢階層別に見た男子世帯員の就業状態の分析からー	日本農業経済学会論文集	2013 年度、77-84	2013.12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
堀川彰 /CA	現代東北農業における地域区分	東北農業研究	66、161-162	2013.12
渡辺満、鮎瀬淳	桃色系および橙色系トマトカロテノイド抽出物の拘束ストレス負荷マウスに対する作用	日本食品科学工学会誌	60(7)、332-338	2013.07
渡辺満	ソバスプラウトの高脂肪食摂食マウスに対する作用	東北農業研究	66、159-160	2013.12

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
石川淳子、林秀洋、松尾直樹、実山豊(北海道大学)	ダイズの細胞膜型及び液胞膜型アクアポリン遺伝子の器官別発現特性	日本作物学会第236回講演会	82(別2)、334-335	2013.09
石川淳子、林秀洋、村井麻理	水耕液の窒素濃度の変化がイネの根の水透過性に及ぼす影響とアクアポリンの役割	第39回根研究集会	*, *	2013.11
石川淳子、林秀洋、村井麻理、近藤始彦	水分生理特性の異なるイネ品種間におけるアクアポリン発現量の差異	日本作物学会第237回講演会	83(別号)、241	2014.03
磯島昭代、長谷川啓哉	リンゴ直販農家における顧客獲得と販売管理の実態	第49回東北農業経済学会福島大会報告要旨	*, 69	2013.08
大谷隆二	基盤改良とプラウ耕乾田直播による新しい水田農業	第29回日本農業工学会シンポジウム	*, *	2013.05
大谷隆二、関矢博幸、冠秀昭、中山壮一、齋藤秀文、谷口義則、池永幸子、片山勝之	プラウ耕・グレーンドリル乾田直播の仙台平野津波被災地での実証試験 — 大区画水田の造成と2年3作輪作試験について —	農業機械学会東北支部会研究発表会要旨集	*, 23-24	2013.08
大谷隆二	営農実証研究の現場からみた国産農業機械への期待	農業食料工学会シンポジウム第18回テクノフェスタ	*, 142-143	2013.12
小野洋、野中章久	リンゴ剪定枝再資源化の可能性	第56回東北農業試験研究発表会講演概要集	経、4	2013.07
小野洋、大谷隆二、白土宏之、迫田登稔	水稲直播における技術選択と経営評価—東北地域における事例調査から—	2014年度日本農業経済学会要旨集	*, K3	2014.03
金井源太、小綿寿志	薪ボイラーを熱源とした循環式乾燥機による乾燥試験	農業食料工学会東北支部会研究発表会講演要旨集	*, 41-42	2013.07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
金井源太、澁谷幸憲、小綿寿志	ナタネ SVO の 1500 時間ディーゼルエンジン供試試験	2013 年度農業施設学会大会講演要旨	*、63-64	2013.08
金井源太、小綿寿志、小原勝久(株式会社 オーテック)、野口和利(株式会社 オーテック)	廃菌床燃料化システム実証プラントの運転解析	2013 年度農業施設学会大会講演要旨	*、139-140	2013.08
金井源太、小綿寿志	バイオマス資源の燃焼灰溶融温度について	第 72 回農業食料工学会年次大会講演要旨	*、258	2013.09
冠秀昭、熊谷悦史、関矢博幸	海水浸水水田における電磁探査法による塩分分布の把握と大豆作への影響	農業機械学会東北支部大会研究発表会要旨集	*、31-32	2013.08
冠秀昭、大谷隆二、関矢博幸	乾田直播を可能とする水田基盤条件の分類	平成 25 年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	*、492-493	2013.09
千葉克己(宮城大学)、加藤徹(宮城大学)、富樫千之(宮城大学)、加藤幸(弘前大学)、冠秀昭	津波被災農地における地下水位および塩分モニタリング	平成 25 年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	*、464-465	2013.09
冠秀昭、大谷隆二、関矢博幸、齋藤秀文、中山壮一	巨大区画水田における水稻乾田直播栽培の適応性	農業農村工学会東北支部第 56 回研究発表会講演要旨集	*、208-209	2013.10
千葉克己(宮城大学)、加藤徹(宮城大学)、富樫千之(宮城大学)、加藤幸(弘前大学)、冠秀昭	東松島市の津波被災農地における地下水モニタリング	農業農村工学会東北支部第 56 回研究発表会	*、158-159	2013.10
阿部伎(東北大学)、木村映一、木村俊之、村田和優(富山農総技セ)、仲川清隆(東北大学)、宮澤陽夫(東北大学)	ビタミン E 合成酵素の新たな役割の解明	ビタミン	87(4)、260	2013.05
阿部伎(東北大学)、木村映一、木村俊之、村田和優(富山農総技セ)、仲川清隆(東北大学)、宮澤陽夫(東北大学)	米におけるビタミン E の新しい生合成酵素の探索と機能解析	脂質生化学研究	55、22-23	2013.06
阿部伎(東北大学)、木村映一、木村俊之、村田和優(富山農総技セ)、仲川清隆(東北大学)、宮澤陽夫(東北大学)	新規ビタミン E 合成酵素の解明	VitaminE アップデートフォーラム	*、*	2013.08
阿部伎(東北大学)、木村映一、木村俊之、村田和優(富山農総技セ)、仲川清隆(東北大学)、宮澤陽夫(東北大学)	イネ細胞を用いた高純度トコトリエノール生産への取り組み	日本油化学会第 52 回年会 講演要旨集	*、117	2013.10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
阿部伎(東北大学)、木村映一、木村俊之、吉田泰二、村田和優(富山農総技セ)、仲川清隆(東北大学)、宮澤陽夫(東北大学)	イネ品種日本晴を用いた新規ビタミンE合成酵素の解明	日本農芸化学会東北支部第148回大会講演要旨集	*、26	2013.10
阿部伎(東北大学)、木村映一、吉田泰二、木村俊之、村田和優(富山農総技セ)、仲川清隆(東北大学)、宮澤陽夫(東北大学)	イネ植物体における新規ビタミンE合成酵素の探索	日本農芸化学会2014年度大会講演要旨集	3C04p09	2014.03
小綿寿志、金井源太、小原勝久(㈱オーテック)、野口和利(㈱オーテック)	廃菌床燃料化システムのプロセスモデルに基づくインベントリ分析	2013年度農業施設学会大会講演要旨	*、141-142	2013.08
小綿寿志、金井源太、小原勝久(㈱オーテック)、野口和利(㈱オーテック)	被災地におけるナタネ、廃菌床利用による熱エネルギー供給シミュレーション	2013年度農業施設学会大会講演要旨	*、99-100	2013.08
齋藤秀文、大谷隆二、中山壮一、関矢博幸、冠秀昭	GPSレベラーによる大規模合筆圃場の均平化技術の検討	農業機械学会東北支部平成25年度研究発表会講演要旨集	*、57-58	2013.10
清水恒、梶亮太	生産年が異なる紫黒米・赤米の玄米と玄米飯の機能性成分含量と抗酸化能	日本作物学会講演会要旨・資料集	237、248-249	2014.03
鈴木健策、松村尚和(青翔開智中高)、青木直大(東京大・院農学生命)、大杉立(東京大・院農学生命)、下野裕之(岩手大・農)	耐冷性の喪失：幼穂形成前の低水温が冷害危険期のイネ穎花の遺伝子発現に及ぼす影響	第55回日本植物生理学会年会要旨集	*、208	2014.03
関矢博幸、櫻井民人、兼松誠司、中山壮一、小林隆(山形大学)	水稻有機栽培圃場における低温籾殻焼却灰の利用	有機農業試験研究交流会	*、30-31	2013.06
関矢博幸、櫻井民人、菅原幸哉、中山壮一	水稻有機栽培圃場採取土壌における異なる製造法の低温籾殻焼却灰のケイ酸溶出特性	日本土壌肥料学会東北支部大会講演要旨	*、12	2013.07
関矢博幸、櫻井民人、兼松誠司、小林隆(山形大学)、中山壮一、菅原幸哉	稲有機栽培圃場におけるケイ酸資材としての低温籾殻焼却灰の施用効果	日本土壌肥料学会全国大会講演要旨集	59、125	2013.09
関矢博幸、櫻井民人	斑点米被害抑制を目的とした畦畔捕虫機の試作	日本有機農業学会14回大会資料集	*、133-134	2013.12
高橋太一	有機農業における連携活動の役割に関する一考察	日本フードシステム学会研究大会要旨	*、141-142	2013.06
高橋太一	調査農家有機米生産の労働時間と生産費	大瀧村有機農家調査報告会	*、*	2014.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
中山壮一、大谷隆二、関矢博幸、冠秀昭、齋藤秀文	宮城県名取市の大区画圃場で実施した乾田直播栽培におけるイヌビエの残草	日本雑草学会第53回講演会講演要旨	*、40	2014.03
野中章久、金井源太、小野洋	燃料向け廃食用油の品質差と新しい利用方策	第56回東北農業試験研究発表会講演概要集	66、169-170	2013.07
村井麻理、桑形恒男（農業環境技術研究所）、石川淳子、林秀洋	イネはその日の気象条件を感知して根のアクアポリン発現量を調節している。	第58回低温生物工学会セミナー	*、43	2013.06
村井麻理、桑形恒男（農業環境技術研究所）、石川淳子、林秀洋	天候による蒸散要求の変動がイネのアクアポリン発現の日周変化に及ぼす影響	第55回 日本植物生理学会年会要旨集	*、374	2014.03
林秀洋、村井麻理、石川淳子	高気温処理がイネ種子アクアポリン発現量に及ぼす影響、及びGUSによるイネ種子特異的アクアポリンの組織発現特性解析	第55回 日本植物生理学会年会要旨集	*、297	2014.03
桑形恒男（農業環境技術研究所）、村井麻理、石川淳子、林秀洋	イネの根におけるアクアポリン発現量の屋外環境に対する応答特性	第55回 日本植物生理学会年会要旨集	*、229	2014.03
桑形恒男（農業環境技術研究所）、村井麻理、石川淳子、林秀洋	Response of aquaporin expressions in the rice roots to micro-meteorological environments	ISAM (International Symposium on Agricultural Meteorology)	*、177	2014.03
渡辺満、鮎瀬淳	寒締め栽培によるハウレンソウのフラボノイド組成の変化	園芸学研究	13 (別冊1)、368	2014.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
磯島昭代	消費者ニーズを考える「市場細分化」	全国農業新聞	2818、4	2013.04
磯島昭代	消費者ニーズを考える「ライフスタイル分析」	全国農業新聞	2819、4	2013.04
磯島昭代	消費者ニーズを考える「グループインタビュー」	全国農業新聞	2820、4	2013.04
磯島昭代	消費者ニーズを考える「ラダリング」	全国農業新聞	2821、4	2013.04
磯島昭代	消費者ニーズを考える「テキストマイニング」	全国農業新聞	2822、4	2013.05
磯島昭代	消費者ニーズを考える「顧客の声」	全国農業新聞	2823、4	2013.05

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
磯島昭代	図書紹介：日本フードシステム学会編『東日本大震災とフードシステム－復旧から復興に向けて－』	農業経営研究	51(2)、125	2013.09
磯島昭代	消費者の贈答行為が顧客拡大のきっかけに－リンゴの農家直販における顧客アンケートから－	農業経営通信	257、6-7	2013.10
磯島昭代	贈答用リンゴを直接販売する生産者が顧客を拡大する方法	東北農業研究センターたより	42、3	2014.02
磯島昭代、長谷川啓哉	贈答用リンゴの顧客拡大にむけた「おすそわけ袋」の消費者評価	平成 25 年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
大谷隆二、関矢博幸、冠秀昭、中山壮一、齋藤秀文	大区画水田におけるプラウ耕乾田直播を核とした 2 年 3 作水田輪作体系	農業機械学会誌	75(4)、220-224	2013.07
大谷隆二	プラウ耕・グレーンドリル播種体系の水稲乾田直播	農業日誌(農林統計協会)	*、72	2013.10
大谷隆二	プラウ耕鎮圧体系の乾田直播とこれからの水田農業	農業(大日本農会)	1579、36-43	2013.12
大谷隆二	東北農業研究センターにおける最近 10 年の活動	農業機械学会東北支部報	60、14	2013.12
大谷隆二	汎用コンバインとスワースコンディショナを用いた稲わらの乾燥・収集体系	農業および園芸	88(12)、1205-1210	2013.12
大谷隆二	水田農業の大規模化と機械化体系	機械化農業	20114(1)、12-15	2014.01
小野洋	水稲直播栽培の温室効果ガス削減効果	農業経営通信	258、5-6	2014.01
金井源太、小綿寿志、澁谷幸憲	未変換ナタネ油を改造済ディーゼル発電機の燃料に使用して電源利用できる	平成 25 年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
冠秀昭	乾田直播が変える水田利用～耕盤をなくして新たな汎用化を図る～	農業経営者	212、29-31	2013.11
冠秀昭	乾田直播が変える水田利用～耕盤のない水田で水を貯める鎮圧作業による浸透抑制～	農業経営者	213、25-37	2013.12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
齋藤秀文	「チゼルプラウシーダ」考案ソバ高速播種・覆土	日本農業新聞	18 面	2013.10
齋藤秀文	農研機構 技術 2013、作業速度 50% アップ、大豆や小麦の播種も可能 ロータリ耕とチゼル耕を組み合わせた大豆の高速型有芯部分耕方式	日本種苗新聞	*	2013.10
齋藤秀文、片山勝之	チゼル有芯部分耕について	技術と普及	50 (11)、77	2013.11
齋藤秀文	GPS レベラーの可能性	機械化農業 (新農林社)	12 月号、17-21	2013.12
鈴木健策、大森幸美、長尾学	水稻幼苗の低気温障害に先立ち硝酸と亜硝酸が葉に蓄積する	平成 25 年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
関矢博幸	1 ダイレクト収穫による飼料用稲麦二毛作体系に適する品種の特性と作期の設定 (1)北東北における飼料用稲麦二毛作に適する品種の特性と作期の設定	ダイレクト収穫体系による飼料用稲麦二毛作技術マニュアル< 2013 年度版> (独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構)	*, 1-2	2013.10
関矢博幸	2 ダイレクト収穫を前提とした飼料用稲麦二毛作体系を導入するための栽培技術 (1)寒冷地における省力低コスト栽培技術	ダイレクト収穫体系による飼料用稲麦二毛作技術マニュアル< 2013 年度版> (独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構)	*, 11-15	2013.10
関矢博幸、土屋一成	(4)堆肥、液肥の活用	「飼料用米の生産・給与技術マニュアル< 2013 年度版>」	*, 23-30	2013.12
関矢博幸	流入施肥によるお米の高温対策	技術と普及 (一般社団法人全国農業改良普及支援協会)	平成 26 年 2 月号、63-64	2014.02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
関矢博幸	栽培 堆肥、液肥利用 (飼料用米生産マニュアルのダイジェスト)	農業共済新聞	15 面	2014.03
高橋太一	有機栽培稲作経営における有機稲作付規模と除草作業	農業経営通信	256、8-9	2013.08
中山壮一、高橋太一、関矢博幸、西田瑞彦、櫻井民人、小林隆 (山形大学)、菅原幸哉、菅野洋光、兼松誠司、田淵浩康 (公益財団法人農業・環境・健康研究所)、臼井智彦 (岩手県)、岸正広 (福島県)、金田吉弘 (秋田県立大)、古川勇一郎 (新潟県)、三木孝昭 (公益財団法人自然農法国際研究開発センター)	寒冷地での水稲有機栽培技術	有機農業実践の手引き (農林水産省・農研機構)	*、1-19	2013.05
中山壮一	アメリカセンダングサ	技術と普及	50 (11)、16-17	2013.11
中山壮一	第 15 回東北雑草研究会報告	日本植物調節剤研究協会東北支部会報	49、33-34	2014.03
中山壮一、長谷川浩 (福島大学)、高橋太一、関矢博幸	太平洋側乾田地帯における有機栽培技術体系の開発	プロジェクト研究成果シリーズ 気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発 ー有機農業の生産技術体系の確立ー	526、92-95	2014.03
西田瑞彦、中山壮一、長谷川浩 (福島大学)	日本海側湿田地帯における有機栽培技術体系の開発	プロジェクト研究成果シリーズ 気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発 ー有機農業の生産技術体系の確立ー	526、109-111	2014.03
長谷川啓哉	大規模りんご作経営成立のための省力生産・販売一体型ビジネスモデル	農業経営通信	255、6-7	2013.04
長谷川啓哉	顧客集団の構築	りんごニュース (青森県りんご協会)	2921、1	2013.05

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
長谷川啓哉	おすそわけ袋	りんごニュース (青森県りんご協会)	2928、1	2013.07
長谷川啓哉	リンゴの生産構造と産地の再編ー新自由主義的経済体系化の北東北リンゴ農業の課題ー	東北農業研究センターたより	40、6	2013.08
長谷川啓哉	りんご産地・長野の再起	りんごニュース (青森県りんご協会)	2939、1	2013.11
長谷川啓哉	果樹農業の持続的発展と課題	筑波書房	新自由主義下の地域・農業・農協、55-72	2014.02
藤森英樹、伊藤和子(宮城県農業・園芸総合研究所)、関野幸二、大森裕俊(宮城県農業・園芸総合研究所)、石川志保(宮城県農業・園芸総合研究所)	自給飼料の広域流通における地域連携と経営的評価	自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発ー広域流通に向けた自給飼料の高品質化及び安定化技術の開発ー	*、44-49	2013.04
藤森英樹、伊藤和子(宮城県農業・園芸総合研究所)、関野幸二	イネWC S等の国産粗飼料の広域流通の成立要因	平成25年度飼料イネ・TMRセンターに関する情報交換会	*、55-61	2013.12
渡辺満	寒じめ栽培での抗酸化成分向上	日本農業新聞	14面	2013.04
渡辺満	ハウレンソウの寒締め栽培 カロテノイド量アップ	農経新聞	4面	2013.04
渡辺満	寒締め栽培で機能成分増	日本種苗新聞	3面	2013.05
渡辺満	ハトムギタンパク濃縮物及び種子の2型糖尿病モデルマウスにおける脂質代謝改善作用	リエゾナー I 研究シーズ集 2013	*、122	2013.08
渡辺満	ハトムギ種子のタンパクは糖尿病マウスの脂質代謝を改善する	東北農業研究センターたより	42、*	2014.03

《畑作園芸研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
稲本勝彦、長菅香織、矢野孝喜、山崎博子	Influence of growing temperature on dry matter accumulation in plant parts of 'Siberia' Oriental hybrid lily.	JARQ	47(4)、435-441	2013.10
川崎光代、本田裕、山守誠、加藤晶子、由比真美子、石田正彦、千葉一美(退職)、遠山知子(退職)、手塚隆久	暖地向き無エルシン酸ナタネ新品種「ななはるか」の育成	東北農業研究センター研究報告	116、43-53	2014.03
木下貴文、榊田正治(岡山大学大学院自然科学研究科)	Suitability of a new application method for controlled-release fertilizers in long-term forcing culture of tomato by using capillary wick irrigation system	農業生産技術管理学会誌	20(1)、15-22	2013.06
木下貴文	防根給水ひも栽培に肥効調節型肥料を適用したトマトの省力・環境負荷低減型簡易生産システムの開発	近畿中国四国農業研究センター研究報告	13、11-58	2014.02
本田裕	福島県及び新潟県におけるジュズダマ探索・収集	ジーンバンク植物遺伝資源探索導入報告書	29、75-81	2014.03
松尾健太郎、屋代幹雄	ベルト式繰出し機構を用いた二段ベルト精密播種機の開発	農作業研究	48(4)、149-156	2013.12
山崎浩道、濱野恵、矢野孝喜、本城正憲、森下昌三	イチゴ四季成り性品種「なつあかり」の夏秋栽培における養分吸収量	東北農業研究	66、127-128	2013.12
山本岳彦、Keisuke Minamide(石川県農林総合研究センター)、Naomi Asagi(茨城大学農学部)、Toru Uno(東北大学大学院農学研究科)、Masanori Saito(東北大学大学院農学研究科)、Toyoaki Ito(東北大学大学院農学研究科)	New function of compost: Inhibitory effect of acidulocompost on weed germination and growth	Proceedings, the 11th International Symposium of Integrated Field Science	*, 54-59	2013.08
田島亮介(東北大学大学院農学研究科)、山本岳彦、大村道明(東北大学大学院農学研究科)、中井裕(東北大学大学院農学研究科)、伊藤豊彰(東北大学大学院農学研究科)、齋藤雅典(東北大学大学院農学研究科)	水産加工廃棄物由来アシドロコンボスの製造・利用段階における温室効果ガス排出量の評価	日本 LCA 学会誌	9(4)、340-348	2013.10

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
池永幸子、中村和弘、伊藤裕之、谷口義則	麦茶液色の年次間差、焙煎強度間差、品種間差を考慮した評価方法の検討	日本作物学会紀事	83(1)、360-361	2014.03
石川吾郎、中村和弘、伊藤裕之、齊藤美香、佐藤三佳子(北海道立総合研究機構 北見農業試験場)、神野裕信(北海道立総合研究機構 北見農業試験場)、吉村康弘(北海道立総合研究機構 北見農業試験場)、西村努(北海道立総合研究機構 上川農業試験場)、前島秀和(長野県農業試験場)、上原泰(長野県農業試験場)、中村俊樹	A consistent QTL for flour yield on chromosome 3B in the soft winter wheat variety, Kitahonami	The 12th International Wheat Genetics Symposium, Program & Abstract Book	*, 190	2013.09
石川吾郎、佐藤三佳子(北海道立総合研究機構 北見農業試験場)、齊藤美香、伊藤裕之、神野裕信(北海道立総合研究機構 北見農業試験場)、前島秀和(長野県農業試験場)、上原泰(長野県農業試験場)、吉村康弘(北海道立総合研究機構 北見農業試験場)、中村俊樹	小麦粉の色相に関するゲノム選抜—その可能性と今後の課題—	育種学研究	15(別2)、164	2013.10
石川吾郎	小麦粉の色相およびその関連形質に関するゲノムワイドアソシエーション解析	Wheat Information Service	117、15	2013.12
伊藤裕之、中村和弘、池永幸子、谷口義則	近縁種由来の赤さび病抵抗性遺伝子の栽培特性への影響	育種学研究	第16巻(別1)、P172	2014.03
稲本勝彦、木下貴文、山崎博子	栽植密度および施肥量を変えて栽培したスプレーギクに対する二酸化炭素施用の効果	園芸学研究	13(別1)、410	2014.03
川崎光代、小原隆由	セイヨウナタネ根こぶ病発生圃場における病原菌の病原性分類およびハクサイ類由来の根こぶ病抵抗性遺伝子の有用性	育種学研究	16(別1)、175	2014.03
木下貴文、杉浦誠、長崎裕司	Development of a low-cost and simple fertilization method by using controlled-release fertilizer in tomato cultivation with low-node order pinching at high plant density	The international symposium on growing media and soilless cultivation (GroSci 2013) Book of Abstracts	*, 201	2013.06

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
木下貴文、矢野孝喜	異なる作期のトマト低段密植栽培における肥効調節型肥料を用いた施肥管理と果実収量との関係	園芸学研究	12 (別 2)、 133	2013.09
木下貴文、矢野孝喜、山崎博子、稲本勝彦、山崎浩道、濱野恵、本城正憲	四季成り性イチゴ ‘なつあかり’ において越冬条件とその後の長日処理が花房数および収量に及ぼす影響	園芸学研究	13 (別 1)、 340	2014.03
新畑智也 (日本製粉株式会社 中央研究所)、Patricia Vrinten (Bioriginal)、柳瀬美千代 (江崎グリコ株式会社 生物化学研究所)、春原愛 (日本製粉株式会社 中央研究所)、齊藤美香、猪熊貴之 (日本製粉株式会社 中央研究所)、瀧屋俊幸 (日本製粉株式会社 中央研究所)、鷹羽武史 (江崎グリコ株式会社 生物科学研究所)、中村俊樹	Structural and physicochemical properties of endosperm starch from sweet wheat: A GBSSI and SSIIa double null mutant.	The 12th International Wheat Genetics Symposium, Program & Abstract Book	*、196	2013.09
齊藤美香、平将人、青木恵美子、柳澤貴司、石川吾郎、中村俊樹	オオムギ破碎澱粉粒変異 (fra) 遺伝子のマッピング	育種学研究	16 (別 1)、 207	2014.03
本城正憲、矢野孝喜、濱野恵、山崎浩道、布目司、森下昌三、由比進	イチゴにおける四季成り性遺伝子型 (ホモ - ヘテロ) と開花特性および増殖性との関係	園芸学研究	12 (別 2)、 352	2013.09
吉田康子 (神戸大)、小玉昌孝 (筑波大)、本城正憲、大澤良 (筑波大)	埼玉県に自生するサクラソウ野生集団の遺伝的多様性の維持・回復を目的とした保全遺伝学的な試み	第 61 回日本生態学会大会講演要旨集	PA3-152	2014.03
本田裕、土田幸一 (日穀製粉㈱)	Quality analysis and evaluation of buckwheat flour by Japanese milling company	The Proceedings of Papers 12th International Symposium on Buckwheat.	*、101-103	2013.08
本田裕、川崎光代、加藤晶子、山守誠、由比真美子、石田正彦、手塚隆久、遠山知子 (退職)、千葉一美 (退職)	食油用の暖地向き無エルシン酸ナタネ品種「東北 96 号」の育成	育種学研究	15 (別 2)、54	2013.10
中村俊樹、Patricia Vrinten (Bioriginal)、新畑智也 (日本製粉株式会社 中央研究所)、齊藤美香	Starch modification: A model for wheat MAS breeding.	The 12th International Wheat Genetics Symposium, Program & Abstract Book	*、79	2013.09
松尾健太郎、山崎篤、山本岳彦	アスパラガス伏せ込み栽培における品質向上に関する研究—覆土の厚さおよび堅さが収穫物の太さに与える影響—	農業機械学会東北支部大会平成 25 年度研究発表会要旨集	*、53-54	2013.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
松尾健太郎、山崎篤、山本岳彦	半地下栽培装置を利用した春夏期のホワイトアスパラガス長期どり栽培の検討	第72回農業食料工学会年次大会講演要旨	*、237	2013.09
松尾健太郎、山本岳彦、山崎篤	アスパラガス伏せ込み栽培における廃棄株の再利用法ー伏せ込み栽培終了後の処理方法ー	東北農業研究	66、123-124	2013.12
森山真久	ハウス栽培ホウレンソウの夏期作の生育を改善させる前作物の探索	第14回日本有機農業学会大会資料集	*、110-112	2013.12
森山真久	タマネギ品種の夏どり作型におけるりん茎の生体重・乾物率・糖度の収穫時期による変化	日本作物学会紀事	83(別1)、110-111	2014.03
古野伸典(山形県庄内産地研究室)、伊藤聡子(山形県庄内産地研究室)、山崎篤	東北地域におけるタマネギの秋まき作型と春まき作型の比較	農業気象学会東北支部大会	*、*	2013.08
前田智雄(弘前大学農学生命科学部)、渡邊明優美(弘前大学農学生命科学部)、奥聡史(弘前大学農学生命科学部)、本多和茂(弘前大学農学生命科学部)、小山内祥代(弘前大学農学生命科学部)、山崎篤	青森県弘前市にて2月まき栽培を行ったタマネギにおける諸形質の品種間差異	園芸学研究	12(別2)、419	2013.09
前田智雄(弘前大学農学生命科学部)、奥聡史(弘前大学農学生命科学部)、本多和茂(弘前大学農学生命科学部)、小山内祥代(弘前大学農学生命科学部)、山崎篤	2月まき栽培を行ったタマネギりん茎中のフルクトオリゴ糖組成の品種間差異	園芸学研究	13(別1)、362	2014.03
山崎博子、矢野孝喜、長菅香織、稲本勝彦、庭田英子(青森県産業技術センター)、伊藤篤史(青森県産業技術センター)	ニンニク収穫後の乾燥条件がりん茎の色に及ぼす影響	東北農業研究	66、115-116	2013.12
山崎博子、矢野孝喜、稲本勝彦	低温での苗貯蔵がネギの花芽分化および生育に及ぼす影響	園芸学研究	13(別1)、363	2014.03
山崎浩道、濱野恵、矢野孝喜、本城正憲、森下昌三	寒冷地での秋期および翌春期短日処理、冬期局所加温がイチゴ一季成り性品種の花房数、収量に及ぼす影響	園芸学研究	12(別2)、390	2013.09
山崎浩道、濱野恵、矢野孝喜、本城正憲	寒冷地でのイチゴ一季成り性品種の夏秋栽培における春期の育苗時および定植後短日処理が出蕾、収量に及ぼす影響	園芸学研究	13(別1)、343	2014.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
北本尚子(岩手大学農学部)、由比進、西川和裕((株)サカタのタネ)、高畑義人(岩手大学農学部)、横井修司(岩手大学農学部)	長日要求性素材つな中間母本農2号を用いた極晩抽性に関する QTL 解析	園芸学研究	12(別2)、353	2013.09

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
渡邊将太(京都大学大学院 農学研究科)、石川吾郎、齊藤美香、中村俊樹、遠藤隆(京都大学大学院 農学研究科)、那須田周平(京都大学大学院 農学研究科)	A tip to generate a radiation hybrid map of wheat chromosome: How could we connect linkage groups separated at the pericentromeric region on chromosome 6B?	Wheat Information Service	117、5-7	2014.01
石川吾郎、中村和弘、伊藤裕之、齊藤美香、中村俊樹、佐藤三佳子(北海道立総合研究機構 北見農業試験場)、神野裕信(北海道立総合研究機構 北見農業試験場)、吉村康弘(北海道立総合研究機構 北見農業試験場)、前島秀和(長野県農業試験場)、上原泰(長野県農業試験場)、西村努(北海道立総合研究機構 上川農業試験場)	新農業展開ゲノムプロジェクトー多様性領域ー: 小麦粉の色相および製粉性に関する遺伝子の同定	研究成果シリーズ	513、86-93	2014.03
伊藤裕之、中村和弘、池永幸子、谷口義則	ジーンバンク植物遺伝資源部門データベース(農業生物資源研究所)(小麦 CHUUGOKU112 他 99 系統、大麦 ROSHIYA OOMUGI 428 他 50 系統)	来歴・特性情報検索システム	http://www.gene.affrc.go.jp/plant/kanri/gb_kanri/SEARCH/db/index.html	2013.04
伊藤裕之	穂発芽しにくく、グルテンの質が強靱な超強力小麦新品種「銀河のちから」の育成	米麦改良	12月号、P7～11	2013.12
稲本勝彦、山崎博子、長菅香織、矢野孝喜	ユリ「シベリア」は冷涼条件での栽培で乾物蓄積が促進され切り花品質が向上する	平成 25 年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
稲本勝彦	栽培湿度とバラ切り花の収量・日持ち性ー湿度管理の重要性?	ハイドロポニックス	27(2)、40-41	2014.03
川崎光代	越冬性が優れるナタネ品種「キタノキラメキ」	平成 26 年日本農業日誌	しおり	2013.10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
川崎光代	暖地に適したナタネ新品種「ななはるか」	東北農業研究センターたより	41、3	2013.12
川崎光代、本田裕	暖地向きナタネ新品種「ななはるか」 ー成熟期が早く、食用油に適するー	プレスリリース	*, *	2014.02
木下貴文	2012 スペイン・オランダ施設園芸 現地研修ツアーに参加して	施設と園芸(日本施設園芸協会)	161、51-57	2013.04
木下貴文	中山間地の冷水資源を利用した夏季 のトマト育苗における根域冷却技術	グリーンレポート(JA全農営 農販売企画部)	534、4-5	2013.12
Janjian Li(京都大学大学院農 学研究科)、遠藤隆(京都大学 大学院農学研究科)、齊藤美香、 石川吾郎、中村俊樹、那須田周 平/CA(京都大学大学院農学 研究科)	Homoeologous relationship of rye chromosome arms as detected with wheat PLUG markers	Chromosoma	122、555-564	2013.12
齊藤美香、中村俊樹、石川吾郎	水田の潜在能力発揮等による農地周 年有効活用技術の開発 2系 冬作 物の高品質化に資する基盤技術の開 発:小麦の極低アミロース特性に関 わる遺伝子の解明と選抜マーカーの 開発	研究成果シリー ズ	527、11-13	2014.03
谷口義則	麦の高品質多収技術 品種・加工適 正と栽培 変り種 もち小麦の話 「もち姫」	農山漁村文化協 会	*, 41-42	2013.09
谷口義則	パン・中華麺用小麦「銀河のちから」 グルテンが強靱でブレンドに最適	農業日誌 平成 26年(農林統計 協会)	*, 268	2013.10
中村俊樹、齊藤美香、伊藤裕之、 乙部千雅子、新畑智也(日本製 粉株式会社 中央研究所)、石 川直幸、藤田雅也	DNA マーカー選抜による甘味種コ ムギを含む新規コムギ系統の開発	研究成果シリー ズ	516、152-156	2014.03
中村俊樹、新畑智也(日本製粉 株式会社 中央研究所)、齊藤 美香、石川吾郎、瀧屋俊幸(日 本製粉株式会社 中央研究所)、 猪熊貴之(日本製粉株式会社 中央研究所)	イネ科ゲノム情報を用いたコムギ高 密度遺伝地図作製のための基盤整備	研究成果シリー ズ	513、93-98	2014.03
本城正憲	寒冷地向けイチゴ新品種「豊雪姫」	おぼんですいわ て(NHK盛岡 放送局)		2013.07
本城正憲	寒冷地向けイチゴ新品種「豊雪姫」	スーパーJチャ ンネルいわて (岩手朝日テレビ)		2013.07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
本城正憲	寒冷地向けイチゴ新品種「豊雪姫」	IBC ニュースエコー (IBC 岩手放送)		2013.07
本城正憲	イチゴ新品種「豊雪姫」春から初夏の端境期用	岩手日報	8 面	2013.07
本城正憲	5～7 月に出荷できるイチゴ、新品種「豊雪姫」を育成	日本経済新聞	35 面	2013.07
本城正憲	寒冷地向き半促成イチゴ、多収「豊雪姫」を育成	日本農業新聞	14 面	2013.07
本城正憲	豊雪姫、13 年ぶりイチゴ新品種	産経新聞	20 面	2013.07
本城正憲	イチゴ新品種「豊雪姫」、端境期の収穫、多収が特徴	盛岡タイムス	9 面	2013.07
本城正憲	初夏出荷の新品種「豊雪姫」	読売新聞オンライン	*	2013.07
本城正憲	5～7 月収穫新品種イチゴ	日刊工業新聞	13 面	2013.07
本城正憲	新品種イチゴ「豊雪姫」、5～7 月に出荷できる寒冷地向け	全国農業新聞	5 面	2013.07
本城正憲	端境期に収穫可能、農研機構がイチゴ品種開発 寒冷地に最適	化学工業日報	5 面	2013.07
本城正憲 /CA、由比進、國久美由紀	Observation of the disomic inheritance of four allelic pairs in the octoploid cultivated strawberry	HortScience	48、948-954	2013.08
本城正憲	東北農研 寒冷地イチゴ「豊雪姫」を育成栽培中	日本種苗新聞	1 面	2013.08
本城正憲	極晩生イチゴ新品種「豊雪姫」	農村ニュース	6 面	2013.08
大澤良 (筑波大学)、本城正憲	栽培植物の自然史Ⅱ 東アジア原産有用植物と照葉樹林帯の民族文化 第8章 サクラソウ - 武士が育てた園芸品種	北海道大学出版会	159-174	2013.10
本田裕	ソバ生産強化へ生産者ら研究会	日本農業新聞	16 面	2013.09
本田裕	私たちが食べているソバにはどんな品種があるのか、また、どのくらい生産されているのか勉強してみよう!	農業共済新聞岩手版 (ジュニア)	2 面	2013.11
本田裕	滝川でナタネセミナーが開かれた!	農家の友 (北海道農業改良普及協会)	66 (2)、42-44	2014.02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
山崎博子	ニンニク周年供給のための長期貯蔵法の開発	植調	47、279-285	2013.10
山崎博子	ニンニクの保存方法	農業日誌 平成26年	*、238	2013.10
山崎博子	身近な野菜・果物?その起源から生産・消費まで ニンニク	日本食品保蔵科学会誌	39、347-353	2013.12
山本岳彦、松尾健太郎、山崎篤	キャベツ機械収穫 ～国の事業活用し実証～	日本農業新聞	16面	2013.11
山本岳彦、松尾健太郎、山崎篤	大型プロジェクト「食料生産地域再生のための先端技術展開事業(農業・農村型)」の概要ーとくに露地野菜分野における研究内容についてー	根の研究	22(4)、168-171	2013.12
由比進	新品種開発! 加熱調理用トマト	ニュース・エブリィ (日本テレビ) http://www.ntv.co.jp/every/feature2/20130422.html		2013.04
由比進	新品種開発! 加熱調理用トマト	Oha! 4 NEWS LIVE (日本テレビ)		2013.05
由比進	「すずこま」コンパクトで生育が早いクッキングトマト	現代農業	別冊現代農業 2013年7月号、75	2013.06
由比進	独断で選ぶ 岩手ゆかりの作物品種名鑑	街もりおか (杜の都社)	2013年7月号、26-27	2013.07
由比進	クッキングトマト品種「すずこま」	日経ヘルス (日経BP社)	2013年8月号、97	2013.07
由比進	クッキングトマト 「すずこま」	岩手日報	4面	2013.08
由比進	加熱調理用トマト品種 「すずこま」	NHK仙台ラジオ第一放送「ゴジだっちゃ!」(NHK 仙台放送局)		2013.9.6
由比進	クッキングトマト品種「すずこま」	農山漁村文化協会	農業技術大系 野菜編 追録 38号、基184の31	2013.10
由比進	クッキングトマトの品種と今後の展望	盛岡タイムス	7面	2013.10.21

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
北本尚子(岩手大学農学部)、由比進、西川和裕(㈱サカタのタネ)、高畑義人(岩手大学農学部)、横井修司(岩手大学農学部)	A naturally occurring long insertion in the first intron in the Brassica rapa FLC2 gene causes delayed bolting	Euphytica	196、213-223	2013.11
由比進	やさいにだってわけがある ハウレンソウQ&A	NHKテレビテキスト 野菜の時間 (NHK出版)	2013年12月号、88	2013.11
由比進	クッキングトマト品種「すずこま」	農山漁村文化協会	最新農業技術 野菜 vol.6、198	2013.11
由比進	新種野菜を学ぶ	日本農業新聞 東北版	9面	2013.12
由比進	ベルト一本でこの違い! 坂や悪路でもスイスイ進める一輪車の「楽押し」	現代農業	2014年3月号、280-281	2014.02
由比進、北本尚子(岩手大学農学部)、西川和裕(㈱サカタのタネ)、高畑義人(岩手大学農学部)、横井修司(岩手大学農学部)	「つけな中間母本農2号」由来の晩抽性を選抜できるDNAマーカー	平成25年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03

《畜産飼料作研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
伊賀浩輔/CA	オキシトシン感受性を利用した受胎性評価	日本胚移植学雑誌	35(3)、117-122	2013.09
魚住順、嶺野英子、出口新、内野宙、芦田倫子(青森県産業技術センター)、尾張利行(岩手県農業研究センター)、佐藤寛子(秋田県農林水産技術センター)、荒木利幸(宮城県畜産試験場)、石山徹(山形県農業総合研究センター)、松澤保(福島県農業総合センター)	飼料用トウモロコシ(Zea mays L.)の赤かび病抵抗性とかび毒濃度における品種間差	日本草地学会誌	59、98-104	2013.07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
内野宙、渡辺武 (JIRCAS)、 Karri Ramu (ICRISAT)、K. L. Sahrawat (ICRISAT)、S. Marimuthu (タミルナドゥ農業 大学)、S. P. Wani (ICRISAT)、 伊藤治 (国連大学)	Calibrating chlorophyll meter (SPAD-502) reading by specific leaf area for estimating leaf nitrogen concentration in sweet sorghum	Journal of Plant Nutrition	36、1640-1646	2013.06
河本英憲、嶮野英子、内野宙、 魚住順	Comparison of fermentation quality and ruminal degradability between two different harvest timings of forage soybean (<i>Glycine max</i> (L.) Merr.) ensiled with the corn-silage system.	Grassland Science	59、120-123	2013.06
河本英憲、嶮野英子、内野宙、 魚住順	ハーベスタ装着型風選別装置を用い て調製した大豆ホールクロップサイ レージの子実割合、飼料成分および 反芻胃内消化特性	東北農業研究セ ンター研究報告	116、77-82	2014.03
Mizuna Ogino (Kitasato University)、Akihiko Matsuura (Kitasato University)、 Atsushi Yamazaki (Kitasato University)、Mami Irimajiri (Kitasato University)、 Hideyuki Takahashi (Kitasato University)、小松篤司、櫛引史 郎、新宮博行、Etsuko Kasuya (生物研)、Yoshihisa Hasegawa (Kitasato University)、Koichi Hodate (Kitasato University)	Biological rhythms related to metabolism in Japanese Shorthorn cattle under varying environments and management techniques.	Animal Science Journal	84、513-526	2013.12
田中治、篠田満	穿孔したパウチサイロを用いたイネ ホールクロップおよび稲わらサイ レージのカビに対する安定性の評価	東北農業研究セ ンター研究報告	116、69-75	2014.03
嶮野英子、金子真、魚住順、河 本英憲、出口新	Evaluation of feeding value of forage soybean silage as a substitute for wheat bran in sheep	Animal Science Journal	85、46-52	2014.01
東山雅一、近藤恒夫 (退職)、 高橋繁男 (退職)、村元隆行 (異 動)	北東北の採草地を利用した冬季放牧 における日本短角種育成牛の日増体 量	日本草地学会誌	59、206-210	2013.10
東山由美、東山雅一、池田堅太 郎、小松篤司、深澤充	Welfare of lactating Holstein cows under outdoor grazing and indoor housing in relation to temperature and humidity in summer in Japan	Livestock Science	155、86-91	2013.07
深澤充 /CA	あの牛を車に乗せろー 一離乳子牛に 対する車両積み込み訓練の効果	日本草地学会誌	59 (3)、201-205	2013.10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
深澤充、小松篤司、東山由美、加藤真姫子(秋田県畜産試験場)、阿保洋一(青森県産業技術センター畜産研究所)、山口直己(岩手県八幡平農業改良普及センター岩手駐在)	北東北地域の酪農現場における暑熱の影響の実態調査	日本家畜管理学会誌・応用動物行動学会誌	49、153-163	2013.12
福重直輝	寒冷地・厳冬期における簡易な堆肥発酵停滞軽減技術	東北農業研究	66、79-80	2013.07
山口学、池田堅太郎、竹之内直樹、東山雅一、渡邊彰	Maternal Effects of Japanese Shorthorn Cows on the Growth of Embryo-transferred Japanese Black Calves in a Cow-calf Grazing System	Asian-Australasian Journal of Animal Sciences	26(7)、930-934	2013.07

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
秋山征夫、山田・秋山仁美(岩手大学)、Joann A. Conner(ジョージア大学)、Wayne W. Hanna(ジョージア大学)、Peggy Ozias-Akins(ジョージア大学)、蝦名真澄	Comparison of Apospory-Specific Genomic Region (ASGR) -Carrier Chromosome Between Guineagrass (<i>Panicum maximum</i>) and Pennisetum species	Plant and Animal Genome XXII	*, *	2014.01
伊賀浩輔、福重直輝、志水学、竹之内直樹、平尾雄二	分娩後の空胎期間延長に伴うオキシトシン感受性変化の一例	Journal of Reproduction and Development	59 (Suppl)、j 167	2013.09
窪友瑛(岩手大学農学部)、伊賀浩輔、志水学、福重直輝、高橋透(岩手大学農学部)、居在家義昭(岩手大学農学部)	オキシトシン負荷試験によるウシ胚早期生存判定の可能性	Journal of Reproduction and Development	59 (Suppl)、J 101	2013.09
伊賀浩輔	牛子宮の生理的機能特性を利用した受胎性評価技術	日本畜産学会第118回大会農研機構シンポジウム	*, 37-40	2014.03
今成麻衣、渡邊彰、米内美晴、柴伸弥	赤身牛肉における貯蔵中の脂質酸化について	日本畜産学会第117回大会講演要旨	*, 109	2013.09
今成麻衣	食卓から考える牛肉の品質評価	日本畜産学会第117回大会食肉科学ランチョンセミナー		2013.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
内野宙、渡辺武 (JIRCAS)、 Karri Ramu (ICRISAT)、伊藤 治 (国連大学)、S. Marimuthu (ICRISAT)、Kanwar L. Sahrawat (ICRISAT)、Suhas P. Wani (ICRISAT)	半乾燥地のスイートソルガム雨季作 における最適施肥量	日本作物学会紀 事	82 (別1)、 86-87	2013.04
河本英憲、嶺野英子、内野宙、 魚住順	ホールクロップ用大豆の収穫時期に 伴うサイレージ品質の変化	東北畜産学会報	63 (2)、30	2013.08
久保田明人、藤森雅博、田村健 一、秋山征夫	DNA マーカーを利用したエンド ファイト感染フェストロリウム系統 の育成	2014 年度日本草 地学会宮崎大会	別 60、75	2014.03
小松篤司、深澤充、東山由美、 関矢博幸、木村俊之、木村映一、 大谷隆二、押部明徳	日本短角種に対する圧砕稲わらの飼 料の給与が血液、増体および産肉成 績に及ぼす影響	日本畜産学会第 118 回大会	*、209	2014.03
柴伸弥、今成麻衣、米内美晴、 渡邊彰	日本短角種における肥育後期の蛋白 増給が増体、枝肉形質および肉質に およぼす影響	日本畜産学会第 117 回大会講演 要旨	*、76	2013.09
出口新、嶺野英子、魚住順、金 子真、俵谷圭太郎 (山形大学)	シロクローバのリビングマルチによ るトウモロコシへの窒素供給効果	日本土壌肥料学 会 2013 年度東 北支部会	*、13	2013.06
東山雅一	放牧草地の草量と可消化養分総量に 及ぼす草種と施肥量の影響 (利用 2 年目)	日本草地学会誌	60 (別)、99	2014.03
東山雅一	放牧草地の家畜生産に及ぼす草種と 施肥量の影響 (利用 2 年目)	日本草地学会誌	60 (別)、100	2014.03
東山由美、小松篤司、深澤充、 東山雅一、池田堅太郎、上田靖 子、秋山典昭、朝隈貞樹	品種、飼養環境および暑熱がウシの 尿中コルチゾールレベルに及ぼす影 響	日本畜産学会第 117 回大会講演 要旨	*、101	2013.09
東山由美、小松篤司、深澤充、 田辺康章 (北里獣医)、苑田洋 平 (北里獣医)、甫立孝一 (北 里獣医)	暑熱および寒冷下におけるウシの心 拍変動	日本畜産学会第 118 回大会講演 要旨	*、233	2014.03
深澤充、阿保洋一 (青森県畜 産研究所)、加藤真姫子 (秋田 県畜産試験場)、工藤学 (盛岡 農業改良普及センター)、山口 直己 (八幡平農業改良普及セン ター)、小松篤司、東山由美	北東北の酪農家における暑熱の影響 についての実態調査	東北畜産学会報	63 (2)、26	2013.08
深澤充、小松篤司、東山由美	酪農・乳牛に対する考え方と生産性 の関係 (予備調査)	第 117 回日本畜 産学会大会講演 要旨集	*、100	2013.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
深澤充、小針大助(茨城大学)、 小松篤司、東山由美	2段階離乳と通常離乳における離乳 前後の子牛の行動の比較	第118回日本畜 産学会大会講演 要旨集	*, 233	2014.03
福重直輝	イベントデータロガーを利用した牛 の発情発見装置の開発	農研機構シンポ ジウム「牛の受 胎率向上に向け た雌雄両側から の研究アプロー チ」	*, p33-36	2014.03
福田栄紀	寒地型牧草の肥料木・庇陰樹として のネムノキの特性評価・樹冠内の光 環境と土壌環境	日本草地学会	60(別)、35	2014.03
福田栄紀	寒地型牧草の肥料木・庇陰樹とし てのネムノキの特性評価・トール フェスクとチモシーの樹冠内外にお ける生育特性の差違	日本草地学会	60(別)、36	2014.03
渡邊彰、今成麻衣、米内美晴、 柴伸弥	牛肉の脂肪含量の違いがヘッドス ペース中の揮発性物質の強度に及ぼ す影響	日本畜産学会第 117回大会講演 要旨	*, 109	2013.09
渡邊彰、今成麻衣、米内美晴、 柴伸弥	放牧牛肉における揮発性成分の組織 間差	日本畜産学会第 118回大会講演 要旨	*, 172	2014.03
堺久弥(熊本農研センター)、 渡邊彰、今成麻衣、米内美晴、 柴伸弥、家入誠二(熊本農研セ ンター)	冬期出荷した放牧肥育牛肉の脂質酸 化および色調変化について	日本畜産学会第 118回大会講演 要旨	*, 184	2014.3

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
秋山征夫、山田・秋山仁美(岩 手大学)、木村健智(長岡技術 科学大学)、久保田明人、藤森 雅博、上山泰史	メドウフェスクとトールフェスクは 大型のサテライト染色体を持つ	平成 25 年度研 究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
今成麻衣	文献紹介	食肉の科学	54(2)、195、 196、198、 201、209、222	2013.11

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
河本英憲、嶺野英子、内野宙、魚住順	ダイレクトカット収穫による大豆 ホールクロップサイレージの刈取り 適期	平成 25 年度研 究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
久保田明人	主題 新牧草フェストロリウム「東 北 1 号」副題 寒冷地の転作田や畑 で 3～5 年採草	平成 25 年度版 「農業日誌」	平成 25 年度版	2013
小松篤司	咀嚼および起立横臥解析プログラム	職務作成プログ ラム	機構 -L07	2013.11
小松篤司、福重直輝、東山由美、 深澤充	ウシの咀嚼計と加速度計から行動お よび姿勢を判別するプログラム	平成 25 年度普 及成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
柴伸弥	文献紹介	食肉の科学(日 本食肉研究会)	54(1)、65、75、 82、88、101	2013.06
柴伸弥	連載：研究室へようこそ 独立行政 法人農業・食品産業技術総合研究機 構東北農業研究センター編	食肉の科学	54、53	2013.06
柴伸弥	最新農業技術畜産 2 シーズン放牧 による低コスト飼育	農文協	6155	2013.09
柴伸弥	文献紹介	食肉の科学(日 本食肉研究会)	54(2)、202、 209-210、 212-213	2013.11
出口新	寒冷地における被覆作物の導入が主 作物のアーバスキュラー菌根形成に 与える影響	日本草地学会誌	59、277-280	2014.01
嶺野英子、藤森雅博、魚住順、 久保田明人、秋山征夫、出口新	フェストロリウム「東北 1 号」栽培 マニュアル	フェストロリウ ム「東北 1 号」 栽培マニュアル	*, *	2013.11
東山雅一	採草地を活かした冬季放牧(農山漁 村文化協会編 最新農業技術畜産 vol.6)	農山漁村文化協 会	*, 161-166	2013.09
東山雅一	放牧はダケカンバを増やして減らす	東北農業研究セ ンターたより	41、4	2014.02
深澤充	車両への積み込み作業を楽にする離 乳時の子牛の訓練	畜産技術	*, 11-14	2013.05

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
深澤充	訓練すれば、牛の積み込み楽々	養牛の友	*、60-63	2013.06
深澤充	離乳時の訓練で、牛の積み込みをスムーズに	デーリィ・ジャパン	24-27	2013.08
深澤充	訓練で牛の積み込み楽々	農業日誌	*、244	2013.10
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人、嶺野英子、魚住順、出口新	フェストロリウム「東北1号」リーフレット	フェストロリウム「東北1号」リーフレット	*、*	2013.08
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人	秋田県および青森県西部におけるススキ属植物自生株の探索と収集	植物遺伝資源探索導入調査報告書	29、99-105	2014.03
山口学	日本短角種を借り腹とする黒毛和種胚移植子牛の繁殖と育成(親子放牧)	最新農業技術畜産(農文協)	6、173-179	2013.09
山口学、池田堅太郎、竹之内直樹、東山雅一、渡邊彰	日本短角種に出産、哺育される黒毛和種子牛は発育が良い	平成 25 年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
米内美晴、堀野理恵子、今成麻衣、柴伸弥、渡邊彰	東京電力福島第一原子力発電所事故後に東北農業研究センター内で放牧・肥育し生産した牛肉の放射性物質濃度	東北農業研究センター研究報告	116、83-87	2014.03
渡邊彰	文献紹介	食肉の科学	54(1)、64、71、103	2013.06
渡邊彰	東北農業研究センターにおける研究の歩み	食肉の科学	54(1)、109	2013.06
渡邊彰	文献紹介	食肉の科学	54(2)、203、214、219	2013.11
渡邊彰	日本短角種の成立、歴史と現代的意義	農山漁村文化協会	畜産編第3巻、383-385	2013.12
渡邊彰	牛肉のフレーバー(におい)について	地域活性化に向けた最近の牛肉ブランドの取り組み(畜産技術協会)	*、P100-106	2014.03

《生産環境研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
Pradeep K. Sharma/CA (北海道大学)、井上京 (北海道大学)、加藤邦彦、家次秀浩 (㈱たすく)、富田邦彦 (遠別町役場)、長澤徹明 (北海道大学)	Seasonal efficiency of a hybrid sub-surface flow constructed wetland system in treating milking parlor wastewater at northern Hokkaido	Ecological Engineering	53、257-266	2013.04
Pradeep K. Sharma (北海道大学)、井上京 (北海道大学)、加藤邦彦、家次秀浩 (㈱たすく)、富田邦彦 (遠別町役場)、長澤徹明 (北海道大学)	Effects of load fluctuations on treatment potential of a hybrid sub-surface flow constructed wetland treating milking parlor waste water	Ecological Engineering	57、216-225	2013.08
加藤邦彦、井上京 (北海道大学)、家次秀浩 (㈱たすく)、佐々木仁 (環境エンジニアリング ㈱)、原田純 (北海道大学)、北川勝治 (㈱たすく)、Pradeep K. Sharma (北海道大学)	Design and performance of hybrid constructed wetland systems for high-content wastewater treatment in the cold climate of Hokkaido, northern Japan	Water Science and Technology	68 (7)、1468-1476	2013.10
菅野洋光、櫻井武司 (一橋大学)、真常仁志 (京都大学)、宮寄英寿 (総合地球環境学研究所)、石本雄大 (総合地球環境学研究所)、佐伯田鶴 (国立環境研究所)、梅津千恵子 (総合地球環境学研究所)、Sesele Sokotela (ザンビア農業研究所)、Milimo Chiboola (ザンビア農業研究所)	Indigenous climate information and modern meteorological records in Sinazongwe District, Southern Province, Zambia	Japan Agricultural Research Quarterly	47 (2)、191-201	2013.04
菅野洋光	Strongly negative correlation between monthly mean temperatures in April and August since 1998 in northern Japan	Journal of the Meteorological Society of Japan	91 (3)、355-373	2013.06
Bayu D.A.N. (岩手大学大学院連合農学研究所)、Prima O.D.A. (岩手県立大学ソフトウェア情報学部)、菅野洋光、鮫島良次 (北海道大学農学部)、藤井弘志 (山形大学農学部)、Lopez L.C.M. (山形大学農学部)	Relationships between global climate indices and rain-fed crop yields in highland of South-Central Java, Indonesia	地学雑誌	122 (3)、438-447	2013.06
菅野洋光、渡部雅浩 (東京大学大気海洋研究所)、神田英司	MIROC5 predictions of Yamase (cold northeasterly winds causing cool summers in northern Japan	Journal of Agricultural Meteorology	69 (3)、117-125	2013.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
工藤一晃、工藤洋晃 /CA (岩手大学)、藤川八重子 (岩手大学)、河合成直 (岩手大学)	The release of copper-induced phytosiderophores in barley plants is decreased by cadmium stress	Botany	91、568-572	2013.08
濱岡範光 (九州大学)、内田遊里 (九州大学)、富田匡斐 (福岡教育大学)、熊谷悦史	Genetic variations in dry matter production, nitrogen uptake, and nitrogen use efficiency among the AA genome Oryza species grown under different nitrogen conditions	Plant Production Science	16、107-116	2013.04
Tacarindua CRP/CA (京都大学農学部)、白岩立彦 (京都大学農学部)、本間香貴 (京都大学農学部)、熊谷悦史、鮫島良次 (北海道大学農学部)	The effects of increased temperature on crop growth and yield of soybean grown in a temperature gradient chamber	Field Crops Research	154、74-81	2013.12
熊谷悦史 /CA、濱岡範光 (九州大学農学部)、荒木卓哉 (愛媛大学農学部)、上野修 (九州大学農学部)	Dorsoventral Asymmetry of Photosynthesis and Photoinhibition in Flag Leaves of Two Rice Cultivars That Differ in Nitrogen Response and Leaf Angle	Physiologia Plantarum	1511、533-543	2014
藤本頭次 (京都府立大学大学院生命科学研究科)、櫻井民人、中尾史郎 (京都府立大学大学院生命科学研究科)	アカメガシワクダアザミウマ雌成虫における休眠性の地理的変異	日本応用動物昆虫学会誌	58 (1)、47-54	2014.2
田淵研 /CA、榊原充隆、安田哲也、望月文昭 (信越化学)	成分構成比の異なるフェロモン剤によるアカスジカスミカメの誘殺消長：水田と牧草地における比較調査から	北日本病害虫研究会報	64、130-135	2013.12

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
青木和彦、戸上和樹、三浦憲蔵	冬作ハウレンソウの収穫時期によるカドミウム濃度の変動	日本土壌肥料学会東北支部大会平成 25 年度福島大会 講演要旨	*、10	2013.7
青木和彦、戸上和樹、三浦憲蔵	収穫前低温処理によるハウレンソウカドミウム濃度の部位別変動	日本土壌肥料学会講演要旨集	59、171	2013.9
大久保さゆり	常監局一時間値を用いた AOT40 による東北地方の Ox 濃度評価	第 54 回大気環境学会年会講演要旨集	*、293	2013.9

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
大久保さゆり、菅野洋光、福井真(東北大学大学院理学研究科)、吉田龍平(東北大学大学院理学研究科)、岩崎俊樹(東北大学大学院理学研究科)	空間内挿データおよび力学モデルによるダウンスケール気象データの比較	日本気象学会 2013年度秋季大会講演予稿集	104、469	2013.11
大久保さゆり	1km メッシュ気象データによる東北地方における夏季 Ox 濃度と気温	第20回大気環境学会北海道東北支部学術集会講演要旨集	*、26-27	2013.11
大久保さゆり、紺野祥平、菅野洋光	複雑地形地域における気温メッシュデータの展開可能性の検討	日本農業気象学会2014年全国大会	*、135	2014.03
大久保さゆり	2013年の観測結果による陸前高田市の気温分布	第9回ヤマセ研究会(東北農研)	*、*	2014.03
菅野博英(宮城県古川農業試験場)、熊谷千冬(宮城県古川農業試験場)、大久保さゆり	宮城県における2013年夏期の気象が水稲収量と品質に及ぼした影響	第9回ヤマセ研究会(東北農研)	*、*	2014.03
加藤邦彦、井上京(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、北川勝治(㈱たすく)、佐々木仁(環境エンジニアリング㈱)、菅原保英、原田純(北海道大学)、櫻木宏明(北海道大学)、呉姐(北海道大学)、岡崎圭毅、中村卓司、青木和彦、三浦憲蔵	ハイブリッド伏流式人工湿地による有機性排水処理の浄化効果と放流水質の推定方法	日本土壌肥料学会東北支部大会	*、*	2013.07
加藤邦彦	ハイブリッド伏流式人工湿地の開発の経過と今後の課題	第8回人工湿地ワークショップ2013 in 札幌、研究発表会	*、*	2013.08
加藤邦彦、井上京(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、北川勝治(㈱たすく)、菅原保英、岡崎圭毅、中村卓司、信濃卓郎、原田純(北海道大学)、櫻木宏明(北海道大学)、青木和彦	多段式ハイブリッド伏流式人工湿地システムによる養豚廃液の処理効果	日本土壌肥料学会講演要旨集	59、161	2013.09
加藤邦彦、井上京(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、菅原保英、原田純(北海道大学)、櫻木宏明(北海道大学)、北川勝治(㈱たすく)	Performance of a multi-stage hybrid constructed wetland system for swine wastewater treatment in a cold climate	5th International Symposium on Wetland Pollutant Dynamics and Control (WETPOL 2013), Book of Abstracts, Nantes, France	5、305-306	2013.10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
井上京(北海道大学)、櫻木宏明(北海道大学)、加藤邦彦、原田純(北海道大学)、呉姐(北海道大学)	Efficiency of hybrid subsurface constructed wetland for the treatment of mixture of point and non-point source load	5th International Symposium on Wetland Pollutant Dynamics and Control (WETPOL 2013), Book of Abstracts, Nantes, France	5、216-217	2013.10
原田純(北海道大学)、井上京(北海道大学)、加藤邦彦、浦家奈々(北海道大学)、櫻木宏明(北海道大学)	Performance evaluation of long term usage of treatment wetland in cold climate	5th International Symposium on Wetland Pollutant Dynamics and Control (WETPOL 2013), Book of Abstracts, Nantes, France	5、52-53	2013.10
加藤邦彦、井上京(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、菅原保英、北川勝治(㈱たすく)、佐々木仁(環境エンジニアリング㈱)、原田純(北海道大学)、櫻木宏明(北海道大学)、青木和彦、三浦憲蔵	有機性汚水を浄化するハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システムの処理効果とコスト	第48回日本水環境学会年会講演集	48、316	2014.03
辻盛生(岩手県立大学)、加藤邦彦、佐々木理史(小岩井農牧㈱)、菊池福道(小岩井農牧㈱)	人工湿地排水処理施設の形態による処理能力の差異	第48回日本水環境学会年会講演集	48、319	2014.03
門田育生、岩間俊太((地独)青森県産業技術センター)、今崎 伊織	トマトかいよう病の発生における感染源の違いが被害程度に与える影響	平成25年度(第49回)日本植物病理学会東北部会プログラム・講演要旨集	*, 11	2013.10
川方俊和	水稻の耕種期日の早晚を面的に予測するプログラムの開発	日本農業気象学会2013年東北支部大会	*, *	2013.09
川方俊和、大久保さゆり、大野宏之	水稻の耕種期日の早晚を面的に予測する数値モデルの開発	日本農業気象学会2014年全国大会	*, 142	2014.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
菅野洋光	Strongly Negative Correlation between Monthly Mean Temperatures in April and August since 1998 in Northern Japan	IGU 2013 Kyoto Regional Conference	*, *	2013.08
菅野洋光	東北地域のヤマセと冬季モンスーンの先進的ダウンスケール研究	流域圏学会誌	2 (2)、65-66	2013.09
工藤一晃、戸上和樹、青木和彦、加藤邦彦、三浦憲蔵	ハウレンソウ栽培期間の土壌化学性の変化とカドミウム吸収パターン	日本土壌肥料学会講演要旨集	59、170	2013.09
熊谷悦史	作物の乾物生産および窒素蓄積における高 CO ₂ 濃度応答に及ぼす施用窒素形態の影響—窒素形態に対する嗜好性の異なる作物種での比較—	日本作物学会第 236 回講演会要旨・資料集	82 (別 2)、326-327	2013.09
熊谷悦史、持田秀之、菊池彰夫	低温下におけるダイズの発芽および初期生育反応の品種間差異	日本農業気象学会東北支部会報	58、16-17	2013.09
熊谷悦史、鮫島良次 (北海道大学農学部)	温度勾配チャンバーによる早晚性の異なるダイズ品種の温度応答の解析	日本農業気象学会 2014 年全国大会要旨集	*, 83	2014.03
熊谷悦史、持田秀之	寒冷地における早期播種が伸育型の異なるダイズ品種の生育・収量に及ぼす影響	日本作物学会第 237 回講演会要旨・資料集	83 (別 2)、310-311	2014.03
榊原充隆	ウコンノメイガに寄生するコマユバチ類の性比	北日本病害虫研究会報	64、253	2013.12
櫻井民人、関矢博幸、菅原幸哉、中山壮一	籾殻低温焼却灰の投入による斑点米被害抑制効果	第 14 回日本有機農業学会大会資料集	*, 97-98	2013.12
櫻井民人	キッチンペーパー小片を用いたアカメガシワクダアザミウマの効率的放飼法	北日本病害虫研究会報 (第 67 回北日本病害虫研究発表会)	65、*	2014.02
清水直人 (北海道大学 大学院農学研究院)、菅原幸哉、吉岡泰嗣 (北海道大学 大学院農学研究院)、守谷克哉 (北海道大学 大学院農学研究院)	耐圧容器を用いた加圧熱水による糖類ナノ分散系の調製	日本食品工学会 第 14 回 (2013 年度) 年次大会講演要旨集	*, 31	2013.08
田淵研、土田浩治 (岐阜大学)、諏訪順子 (茨城農総セ農研)、横須賀知之 (茨城農総セ農研)、水谷信夫	ホソヘリカメムシとカメムシタマゴトビコバチの発生源とダイズ圃場での季節的な発生量	第 58 回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	*, 216	2014.03
田淵研	発生源面積とカスミカメムシ 2 種のトラップ誘殺数の関係: 土地利用情報を利用した発生量予測へ向けて	第 58 回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	*, 191	2014.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
戸上和樹、工藤一晃、青木和彦、加藤邦彦、三浦憲蔵	水田転換畑における地下水位制御がダイズの子実重金属濃度に及ぼす影響	日本土壌肥料学会東北支部大会平成 25 年度福島大会 講演要旨	*、13	2013.07
戸上和樹、工藤一晃、青木和彦、加藤邦彦、三浦憲蔵	地下水位制御がダイズの子実カドミウム濃度に及ぼす影響	日本土壌肥料学会講演要旨集	59、163	2013.09
三浦憲蔵、戸上和樹、工藤一晃、青木和彦、加藤邦彦、松尾健太郎、屋代幹雄	部分施用と低吸収性品種の導入によるダイズ子実カドミウム濃度の低減	日本土壌肥料学会講演要旨集	59、163	2013.09

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
加藤邦彦	有機性汚水処理に最新ろ過システム農研機構	農業協同組合新聞	*、*	2013.11
加藤邦彦	高濃度有機性汚水を低コストで浄化できるハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システムを開発	みんなの農業広場、(社)全国農業改良普及支援協会	*、*	2013.11
加藤邦彦	畜産などの高濃度有機汚染水を低コストで浄化—ハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システムを開発：農研機構／北海道大学／たすくなど	ウィークリーつくばサイエンスニュース、No.2013-43、トピックス	*、*	2013.11
加藤邦彦	高濃度有機性汚水を低コストで浄化できるハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システムを開発—畜産や食品工場など様々な汚水の浄化処理が可能に—	農研機構東北農業研究センタープレスリリース	*、*	2013.11
加藤邦彦	高濃度有機性汚水、低コストで浄化、農研機構など、ろ過システム開発	化学工業日報	6 面	2013.11
加藤邦彦	人工湿地の浄化力を強化、養豚汚水にも対応、ろ過システムの性能確認	日本農業新聞	18 面	2013.11
加藤邦彦	酪農、養豚、食品工場などからの汚水を浄化できるハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システム	農研機構東北農業研究センター、たより、研究情報	41、5	2013.12
加藤邦彦	高濃度有機性汚水を低コストで浄化できるハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システムを開発	畜産コンサルタント(中央畜産会)	49(588)、79-80	2013.12
加藤邦彦	排水処理、省スペース・低コスト、ハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システムを開発	開拓情報	6 面	2013.12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
加藤邦彦	高濃度有機性汚水を低コストで浄化できるハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システムを開発、畜産や食品工場などさまざまな汚水の浄化処理が可能に	食品工業	57(3)、52-53	2014.01
加藤邦彦	新技術 ハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システム 農研機構、北海道大学などが開発	全国農業新聞(電子版)	2014年1月31日(経営・技術・流通)	2014.01
加藤邦彦	畜産排水処理のコスト抑制、2種類のろ過装置組み合わせ	NOSAI 農業共済新聞「東北営農技術版」(電子版)	2014年1月3週号	2014.1
加藤邦彦	畜産排水処理のコスト抑制、2種類のろ過装置組み合わせ	農業共済新聞「東北営農技術版」(全国農業共済協会)	9面	2014.01
加藤邦彦	【新技術】ハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システム、高濃度有機性汚水を低コストで浄化、農研機構、北海道大学などが開発	全国農業新聞	5面	2014.01
菅野洋光	冷害を引き起こす気象	農業普及	65(7)、56-58	2013.07
菅野洋光	冷害を引き起こす気象	あおもり農業	64(7)、46-48	2013.07
菅野洋光	冷害に対する早期警戒システム	農業普及	65(8)、84-86	2013.08
菅野洋光	冷害に対する早期警戒システム	あおもり農業	64(8)、56-58	2013.08
菅野洋光	近年の農業気象の特徴と生産上の対策～冷害に対する早期警戒システム～	農業かごしま	65(9、10)、91-93	2013.09
菅野洋光	北日本における4月と8月平均気温は1998年以降強い負の相関関係を示す	平成25年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
菅野洋光、神田英司	気候モデルMIROC5を用いた約100年後までの「やませ」発生可能性	平成25年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
櫻井民人	土着天敵アカメガシワクダアザミウマを活用しよう	農林害虫防除研究会 News Letter	31、8-9	2013.07
櫻井民人、関矢博幸	土壌のケイ酸供給力に基づいた斑点米被害抑制技術	農林水産技術会議 / 明日の農業のための技術シーズ集 2013 年	http://www.s.affrc.go.jp/docs/project/genba/pdf/130206.pdf	2013.12
田淵研、安田哲也	アカスジカスミカメ性フェロモン製剤と試作製剤によるデータの変換方法	平成 25 年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
戸上和樹	いろいろな [顔] をもつ土壌	ペドロジスト	57 (2)、63	2013.12
三浦憲蔵	ダイズの子実カドミウム濃度を効率的に低減できる苦土石灰の部分施用	生産工程プロ技術情報集	*, 6-7	2013.05
三浦憲蔵、草場敬	基準点調査データベース活用による有機質資材連用が水稻収量と土壌理化学性に与える影響の解析	日本土壌肥科学雑誌	84 (3)、215-223	2013.06
三浦憲蔵、櫻井克年 (高知大)、今矢明宏 (森林総研)、伊藤豊彰 (東北大)、小原洋 (農環研)、高田裕介 (農環研)、前島勇治 (農環研)	わが国の土壌分類研究の現状と今後の課題	日本土壌肥科学雑誌	84 (3)、230-235	2013.06
三浦憲蔵	土の百科事典 : 母材・気候・地形の影響が強い土壌	丸善出版株式会社	*, 50-52	2014.01

《水田作研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
梶亮太、坂井真、田村克徳、田村泰章、岡本正弘、溝淵律子(農業生物資源研究所)、平林秀介、西村実(新潟大学)、深浦壯一(熊本県農業研究センター)	栽培特性が優れ良質の暖地・温暖地向き酒米新品種「吟のさと」の育成	九州沖縄農業研究センター報告	60、13-28	2013.09
片山勝之、大野智史、細野達夫、細川寿、野村幹雄(富山県農林水産総合技術センター)	オオムギ跡ダイズの狭畦密植栽培において播種期と栽植様式が収量構成要素と子実収量に及ぼす影響	北陸作物学会報	48、11-14	2013.05
片山勝之、高橋智紀、西田瑞彦	地下水水位制御と堆肥施用がダイズの生育収量に及ぼす影響	日本作物学会東北支部会報	56、49-50	2013.12
片山勝之、山崎篤	畦高が水田転換畑での春まき作型におけるタマネギの生育・収量に及ぼす影響	東北農業研究	66、119-120	2013.12
加藤信、菊池彰夫、島村聡	大豆新品種「あきみやび」の特性	東北農業研究	66、53-54	2014.03
加藤信、菊池彰夫、島村聡、河野雄飛、湯本節三、高田吉丈、島田信二、境哲文、高橋浩司、島田尚典(北海道立総合研究機構)、足立大山(退職)、田淵公清(退職)	耐倒伏性に優れるダイズモザイクウイルス病抵抗性のダイズ新品種「あきみやび」の育成	東北農業研究センター研究報告	116、13-27	2014.03
島村聡、菊池彰夫、加藤信、河野雄飛、湯本節三、高田吉丈、島田信二、境哲文	ダイズモザイク病に強く良質な中生の早のダイズ新品種「シュウリュウ」の育成	東北農業研究センター研究報告	116、29-42	2014.03
島村聡、菊池彰夫、加藤信	大豆新品種「東北166号」の特性	東北農業研究	66、55-56	2014.03
善林薫、鬼頭英樹、鈴木文彦	SSR マーカーによるいもち病菌圃場分離集団の遺伝的分化の解析	日本植物病理学会報	80(2)、81-87	2014.03
津田直人、福寫陽、太田久稔、梶亮太	水稻の穂ばらみ期耐冷性に関する既知QTLの評価	東北農業研究	66、1-2	2014.03
土屋一成、西田瑞彦、高橋智紀、吉田光二(前東北研)	日本海側北部地域における飼料用米「べこあおば」に対する疎植栽培の影響	東北農業研究	66、29-30	2013.12
西田瑞彦、関矢博幸、吉田光二(前東北研)	Status of paddy soils as affected by paddy rice and upland soybean rotation in northeast Japan, with special reference to nitrogen fertility	Soil Science and Plant Nutrition	59、208-217	2013.06

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
西田瑞彦、吉田光二(前東北研)、土屋一成、高橋智紀	灌漑水掛け流し条件におけるリン酸無施用が水稻の生育・収量・養分吸収量に及ぼす影響	東北農業研究	66、17-18	2013.12
梶亮太、坂井真、田村克徳、田村泰章、岡本正弘、溝淵律子(農業生物資源研究所)、平林秀介、西村実(新潟大学)、深浦壯一(熊本県農業研究センター)	栽培特性が優れ良質の暖地・温暖地向き酒米新品種「吟のさと」の育成	九州沖縄農業研究センター報告	60、13-28	2013.09

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
大平陽一、白土宏之	漏生イネ防除を目的とした多収性水稻品種の苗立ちに及ぼす除草剤成分と温度の影響	日本作物学会紀事	83(別1)、40-41	2014.03
片山勝之、高橋智紀、大江和泉(元東北農業研究センター)、持田秀之	排水条件が劣悪な環境下における地下水水位制御システムがダイズの生育収量に及ぼす影響	日本作物学会紀事 第236回講演会要旨・資料集	82(別2)、230-231	2013.09
片山勝之、齋藤秀文	転換畑ダイズ作におけるチゼル有芯部分耕を活用した狭畦栽培が生育・収量に及ぼす影響	日本作物学会紀事第237回講演会要旨・資料集	83(別1)、300-301	2014.03
加藤信、島村聡、菊池彰夫、河野雄飛、湯本節三、高田吉丈、島田信二、境哲文、高橋浩司、足立大山(退職)、田淵公清(退職)、島田尚典(北海道立総合研究機構)	耐倒伏性に優れるダイズモザイクウイルス病抵抗性のダイズ新品種「東北164号」	育種学研究(日本育種学会第123回講演会)	第15巻(別冊2)、181	2013.10
加藤信	ダイズモザイク病と倒伏に強い中生のダイズ新品種「あきみやび」	秋田育種談話会記事	28、10-12	2014.03
大寺真史(東北大学大学院農学研究科)、工藤翔平(東北大学大学院農学研究科)、国分牧衛(東北大学大学院農学研究科)、加藤信、菊池彰夫、熊谷悦史	高二酸化炭素濃度条件下における窒素追肥が伸育型の異なるダイズ系統の物質生産および収量に及ぼす影響	日本作物学会紀事別号(講演会要旨・資料集) 第237回講演会	83(別1)、p84-85	2014.03
鬼頭英樹、善林薫	"Molecular Cloning of the Partial Resistance Gene Pi34 and Early Response of Partial Resistant Rice Cultivar Chugoku IL1 to Infection of Magnaporthe oryzae	6th International Rice Blast Conference	*, 163	2013.08
鬼頭英樹、善林薫、中島敏彦	飼料米生産における後期追肥を用いた減農薬栽培法の検討	北日本病害虫研究会報	64、234	2013.12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
中園幹生(名古屋大院)、山内卓樹(名古屋大院)、高橋宏和(名古屋大院)、斉晁花(名古屋大院)、柳川麻子(名古屋大院)、深澤彩(名古屋大院)、塩野克宏(福井県立大)、加藤清明(帯広畜産大)、平賀勸、島村聡	Molecular mechanisms of aerenchyma formation in plants	11th International Conference of the International Society for Plant Anaerobiosis Program and Abstract book	*、61-62	2013.10
高橋宏和(名古屋大院)、柳川麻子(名古屋大院)、福島エリオデット(大阪大院)、平賀勸、關光(大阪大院)、村中俊哉(大阪大院)、島村聡、中園幹生(名古屋大院)	Analysis of molecular mechanism of secondary aerenchyma formation in soybean	11th International Conference of the International Society for Plant Anaerobiosis Program and Abstract book	*、78-79	2013.10
鴻坂扶美子(道総研中央農試)、島村聡、中村卓司、平賀勸、前川富也、島田信二、藤田正平(道総研中央農試)	Response of soybean (Glycine max) waterlogging-tolerant variety Shoku-kei32 to short-term soil flooding	11th International Conference of the International Society for Plant Anaerobiosis Program and Abstract book	*、121	2013.10
島村聡、菊池彰夫、加藤信	ダイズモザイクウイルスに強く良質で収量が安定した大豆新品種「シュウリュウ」の育成	秋田育種談話会 記事	(28)、13-14	2014.03
島村聡、菊池彰夫、加藤信、河野雄飛、湯本節三、高田吉丈、島田信二、境哲文	ダイズモザイクウイルス病に強く良質で収量が安定したダイズ新品種「シュウリュウ」	育種学研究	16(別1)、150	2014.03
高橋宏和(名古屋大院)、斉晁花(名古屋大院)、島村聡、平賀勸、中園幹生(名古屋大院)	ダイズ二次通気組織形成の糖による制御機構の解明	育種学研究	16(別1)、114	2014.03
白土宏之、大平陽一、長田健二、山口弘道、福田あかり	2010年にあきたこまちで発生した黒点症状米の形態調査	日本作物学会紀事	83(1)、244-245	2014.03
善林薫、工藤学(秋田県立大学生物資源科学部)、戸田武(秋田県立大学生物資源科学部)、古谷廣光(秋田県立大学生物資源科学部)、藤晋一(秋田県立大学生物資源科学部)	高い多型頻度を示すイネいもち病菌 SSR マーカーの変異要因の解析	日本植物病理学会報	79(3)、176	2013.08
善林薫	イネいもち病の被害と管理の現状および病原菌個体群動態を通じた対策	第61回日本生態学会大会講演要旨集	*、*	2014.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
高橋智紀、西田瑞彦、土屋一成	蒸発散量推定モデルから算出した転換畑ダイズのかん水必要時期	日本土壌肥料学会東北支部大会	*、11	2013.07
高橋智紀、片山勝之、西田瑞彦、土屋一成	水田転換畑における毛管上昇による地下水面からの水分供給の特徴	日本土壌肥料学会講演要旨集	59、104	2013.09
高橋智紀、持田秀之、榊原充隆、森本品、小林浩幸、相場聡、山本亮	生産現場での調査をもとにした東北地域におけるダイズ低収要因	日本作物学会紀事 第 236 回講演会要旨・資料集	82 (別 2)、232-233	2013.09
西田瑞彦	Cattle manure compost plays a key role in keeping soil nitrogen fertility in paddy-upland rotation system	Proceedings the 11th International Symposium on Integrated Field Science “Utilization of organic resources and Environmental protection”	*、71	2013.08
鋸屋沙季(秋田県立大)、西田瑞彦、保田謙太郎(秋田県立大)、金田吉弘(秋田県立大)、佐藤孝(秋田県立大)、高階史章(秋田県立大)	Fate of nitrogen derived from organic materials applied to paddy and converted upland fields -Results of the first year experiment-	Proceedings the 11th International Symposium on Integrated Field Science “Utilization of organic resources and Environmental protection”	*、72	2013.08
西田瑞彦、吉田光二(前東北研)、土屋一成、高橋智紀	水田における地温に応じた湛水条件下での可給態リン酸の変化の推定	日本土壌肥料学会講演要旨集	59、108	2013.09
土屋一成、西田瑞彦、高橋智紀	稲わら多量施用水田における飼料用米「べこあおば」に対する被覆尿素肥料の減肥効果	日本土壌肥料学会講演要旨集	59、129	2013.09
山下昂平(名古屋大)、西田瑞彦、秋田和則(茨城県)、伊藤豊彰(東北大)、齋藤雅典(東北大)、本庄弘樹(愛知農総試)、木村真人(農林水産消費安全技術センター)、浅川晋(名古屋大)	土壌微生物バイオマス K の定量と評価	日本土壌肥料学会講演要旨集	59、39	2013.09
鋸屋沙季(秋田県大)、西田瑞彦、保田謙太郎(秋田県大)、佐藤孝(秋田県大)、金田吉弘(秋田県大)、高階史章(秋田県大)	寒冷地の田畑輪換における有機質資材由来窒素の動態—(第 1 報)異なる土壌タイプにおける比較—	日本土壌肥料学会講演要旨集	59、7	2013.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
劉冬艷(名古屋大)、石川裕己(名古屋大)、西田瑞彦、土屋一成、高橋智紀、木村真人(農林水産消費安全技術センター)、浅川晋(名古屋大)	Managements of paddy-uplant rotation affect the community composition and reduce the population of methanogenic archaea in paddy soil	日本土壤肥料学会講演要旨集	59、45	2013.09
西田瑞彦、吉田光二(前東北研)、土屋一成、高橋智紀	Relationship between available phosphorus and temperature in paddy soil under submerged conditions	Proceedings of the 11th International Conference of the East and Southeast Asia Federation of Soil Science Societies	*、523-524	2013.10
浅川晋(名古屋大)、末国千佳(名古屋大)、劉冬艷(名古屋大)、石川裕己(名古屋大)、西田瑞彦、土屋一成、秋田和則(茨城県)、伊藤豊彰(東北大)、齋藤雅典(東北大)、渡邊健史(名古屋大)、木村真人(農林水産消費安全技術センター)	Effects of winter flooding and paddy-upland rotation on microbial communities in paddy field soil	Proceedings of the 11th International Conference of the East and Southeast Asia Federation of Soil Science Societies	*、450-451	2013.10

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
太田久稔	米粉パン用水稲新品種「ゆめふわり」—やわらかく、しっとり、もちりとしたパンを製造できます—	マスコミ発表		2013.09
太田久稔	“米粉” 低迷はなぜ?	おはよう日本、リポート(NHK 総合、秋田)		2013.10
太田久稔	米粉パン用水稲新品種 ‘ゆめふわり’ —やわらかく、しっとり、もちりとしたパンを製造できます—	農産物検査とくほん	189、63-65	2013.12
太田久稔、福嶋陽、梶亮太、津田直人、山口誠之、中込弘二、片岡知守	早生で多収の直播栽培向き良食味水稻新品種候補系統「奥羽416号」	平成25年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
大平陽一	落下種子対策	飼料用米の生産・給与技術マニュアル 2013 年版	*、49-54	2013.12
大平陽一	最新農業技術 作物 飼料用米の多収技術 水稻多収品種の収量ポテンシャルと多収要因 東北地域	農文協	第 6 巻、21-24	2014.02
梶亮太、太田久稔	"いもち病に強く直播栽培に適する良食味水稻新品種「えみのあき」"	マスコミ発表		2013.09
梶亮太	えみのあき 直播向きで、イモチ病に強く良食味	現代農業	2014 年 2 月号、291	2014.01
梶亮太	精米時に胚盤が残りやすく「金芽米」に適した良食味水稻品種「きんのめぐみ」の育成	米麦改良	2014 年 1 月、14-19	2014.01
梶亮太、太田久稔、福嶋陽、津田直人、山口誠之、中込弘二、片岡知守、遠藤貴司(宮城県古川農業試験場)、田村泰章	いもち病に強く耐倒伏性に優れる水稻新品種候補系統「奥羽糯 413 号」	平成 25 年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
加藤信	加藤信、寒冷地における「リュウホウ」及び「おおすず」のシストセンチュウ及びダイズモザイクウイルス抵抗性の強化 (DD3220)	研究成果シリーズ (暫定版)	第 514 集、112	2014.03
白岩立彦(京都大学)、加藤信	日米品種を用いた収量性関連形質の量的遺伝子座解析 (SOY2004)	研究成果シリーズ (暫定版)	第 514 集、178	2014.03
菊池彰夫、島村聡、平田香里、加藤信、河野雄飛、湯本節三、高田吉丈	病虫害抵抗性で収量が多い中粒だいで新品種候補系統「東北 171 号」	平成 25 年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
鬼頭英樹	飼料用米の生産・給与技術マニュアル< 2013 年版 >	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構	*、*	2013.12
山内卓樹(名古屋大院)、島村聡、中園幹生(名古屋大院)、望月俊宏(九州大院)	Aerenchyma formation in crop species: A review	Field Crops Research	152、8-16	2013.10
白土宏之	「萌えみのり」の鉄コーティング湛水直播栽培	農業日誌(農林統計協会)	*、100	2013.10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
善林薫、鬼頭英樹	イネいもち病圃場抵抗性遺伝子 Pi34 のマッピングと対応する非病原力遺伝子 AVR-Pi34 の同定	植物防疫	67 (4)、27-30	2013.04
善林薫、鬼頭英樹、鈴木文彦	SSR マーカーを用いた同一品種栽培圃場間のいもち病菌集団の識別	平成 25 年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
高橋智紀、住田弘一、新良力也	水田輪作の新しいフレームワークと土壌学・植物栄養学の展開方向 1. はじめに ー水田輪作研究の現状と展望	日本土壌肥科学雑誌	84 (3)、202-207	2013.06
高橋智紀、持田秀之、榊原充隆、森本品、小林浩幸、相場聡	寒冷地における生産現場でのダイズ低収要因の解析	東北農業研究センター報告	1162、89-118	2014.03
西田瑞彦	高品質・安定収量目指す肥培管理	農業共済新聞		2013.06
西田瑞彦	水稻の高品質・安定生産のための土づくりと施肥	米麦改良	2013.8、15-20	2013.08
西田瑞彦	田畑輪換の地力の実態からその維持改善方法を明らかに	東北農業研究センターたより	42、7	2014.02
西田瑞彦	水稻品質向上に対応する肥培管理技術<春・基肥編>	農業共済新聞	9 面	2014.02
西田瑞彦	田畑輪換における地力の実態とその維持改善法	技術と普及	51 (3)、70	2014.03
福嶋陽、太田久稔	飼料用米の生産に適する水稻新品種「いわいだわら」ー東北地域中南部において早生・多収ー	マスコミ発表		2013.10
福嶋陽、太田久稔、梶亮太、津田直人、山口誠之、中込弘二、片岡知守、遠藤貴司(宮城県古川農業試験場)	早生で倒伏に強い発酵粗飼料用水稻新品種候補系統「奥羽飼 414 号」	平成 25 年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03

《環境保全型農業研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
小林浩幸、内田智子、好野奈美子	実体顕微鏡を用いたヒユ科雑草種子の3次元形状観察と計測	日本雑草学会第53回大会講演要旨集	* (*), 111	2014.03
好野奈美子、坂本祥太 (いわき明星大学)、佐々木秀明 (いわき明星大学)	福島県いわき市に発生している雑草の放射性セシウム含量	雑草研究 (別)	58 (別)、79	2013.04
好野奈美子、小林浩幸、高橋義彦	放射性物質の除染後農地における雑草発生状況およびカバークロープによる雑草抑制効果の検証	日本雑草学会第53回大会講演要旨集	* (*), 72	2014.03

《農業放射線研究センター》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
石川哲也、箭田佐衣子 (農業環境技術研究所)、阿部薫 (農業環境技術研究所)	関東地方の二毛作体系における発酵粗飼料用大麦生産の予備的検討	日本作物学会紀事	82 (3)、270-274	2013.07
久保堅司/CA、藤田雅也、河田尚之、中島隆、中村和弘、前島秀和 (長野県農業試験場 育種部)、牛山智彦 (長野県農業試験場)、八田浩一、松中仁	Minor differences in anther extrusion affect resistance to Fusarium head blight in wheat	Journal of Phytopathology	161 (5)、308-314	2013.05
久保堅司/CA、小林浩幸、太田健、藤田雅也、村上敏文、石川哲也、江口哲也、渡邊好昭、中島隆、信濃卓郎	Suppressed-translocation and reduced-selectivity of cadmium (Cd) in wheat varieties with low grain Cd concentration	The 12th International Wheat Genetics Symposium: Program & Abstract Book	* (*), 98	2013.09
信濃卓郎	植物根圏微生物の機能解析手法開発	日本草地学会誌	59 (1)、70-73	2013.04
N. Tachibana (Hokkaido Univ.)、K. Nagasawa (Hokkaido Univ.)、B. Wang (Hokkaido Univ.)、K. Nishiya (Hokkaido Univ.)、M. Fukushima/CA (Hokkaido Univ.)、H. Kanno (Hokkaido Univ.)、信濃卓郎、岡崎圭毅	Mitigation of peroxidative stress for barley exposed to cadmium in the presence of water-extractable organic matter from compost-like materials.	Chemosphere	93 (4)、695-700	2013.10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
信濃卓郎 /CA、T. Yoshimura (Hokkaido Univ.)、 T. Watanabe (Hokkaido Univ.)、 海野祐介、M. Osaki (Hokkaido Univ.)、南條洋平、上野 (小松) 節子	Effect of phosphorus levels on the protein profiles of secreted protein and root surface protein of rice.	Journal of Proteome Research	12 (11)、 4748-4756	2013.11
D. Kobayashi (Fukushima Med. Univ.)、 T. Okouchi (Fukushima Med. Univ.)、 M. Yamagami (IES)、信濃卓郎	Verification of radiocesium decontamination from farmlands by plants in Fukushima.	Journal of Plant Research	127 (1)、51-56	2014.01
T. Watanabe/CA (Hokkaido Univ.)、 R. Kouho (Hokkaido Univ.)、 T. Katayose (Hokkaido Univ.)、 N. Kitajima (Fujita Co.)、 N. Sakamoto (Hokkaido Univ.)、 N. Yamaguchi (NIAES)、 信濃卓郎、H. Yurimoto (Hokkaido Univ.)、 M. Osaki (Hokkaido Univ.)	Arsenic alters uptake and distribution of sulphur in <i>Pteris vittata</i> .	Plant Cell and Environment	37 (1)、45-53	2014.01
藤村恵人、山口裕顕 (住友スリーエム)、梅原孝之 (住友スリーエム)、武藤景子 (福島県農業総合センター)	固相抽出ディスクを用いた農業用水の放射性セシウム濃度測定	Radioisotopes	62、841-845	2013.11
松波寿弥、小林真、安藤象太郎 (異動)、寺島義文 (国際農研)	温帯の冬季におけるエリアンサス (<i>Erianthus arundinaceus</i> (L.) Beauv.) 体内の無機養分および非構造性炭水化物の動態	日本草地学会誌	59 (4)、246-252	2014.01
松波寿弥 /CA、小林真、安藤象太郎 (異動)、寺島義文 (国際農研)	刈取りの時期および高さが越冬後の数系統のエリアンサス (<i>Erianthus arundinaceus</i> (L.) Beauv.) の再生に及ぼす影響	日本草地学会誌	59 (4)、253-260	2014.01

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
江口哲也、太田健、石川哲也、 小林浩幸、村上敏文、木方展治 (農業環境技術研究所)	バーミキュライトおよび2八面体型雲母施用が玄米の放射性セシウム移行係数におよぼす影響	日本土壌肥料学会講演要旨集	59、173	2013.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
牧野知之(農業環境技術研究所)、赤羽幾子(農業環境技術研究所)、山口紀子(農業環境技術研究所)、荒貴裕(農業環境技術研究所)、山口弘(農業環境技術研究所)、木方展治(農業環境技術研究所)、藤原英司(農業環境技術研究所)、太田健、江口哲也、神谷隆(太平洋セメント)、高野博幸(太平洋セメント)、齋藤隆(福島県農業総合研究センター)	水を用いた土壌攪拌・吸引排水法による水田からの放射性セシウム除去技術の開発	第2回環境放射能除染研究発表会講演要旨集、環境放射能除染学会	*、133	2013.06
太田健、石川哲也、江口哲也、村上敏文、牧野知之(農環研)、神谷隆(太平洋セメント)、高野博幸(太平洋セメント)、赤羽幾子(農環研)、齋藤隆(福島農総セ)、山口紀子(農環研)、藤原英司(農環研)、木方展治(農環研)	水田における土壌攪乱・排水処理による放射性セシウム除去技術の開発ー水稲における放射性セシウム低減効果の検証ー	日本土壌肥科学会講演要旨集	59、157	2013.09
齋藤隆(福島農総セ)、高橋和平(福島農総セ)、吉岡邦雄(福島農総セ)、牧野知之(農環研)、太田健	福島県内の農地における放射性物質に関する研究(第11報)ー各種吸着資材施用による玄米中放射性セシウムの吸収ー	日本土壌肥科学会講演要旨集	59、152	2013.09
牧野知之(農環研)、神谷隆(太平洋セメント)、太田健、高野博幸(太平洋セメント)、赤羽幾子(農環研)、齋藤隆(福島農総セ)、江口哲也、村上敏文、山口紀子(農環研)、藤原英司(農環研)、木方展治(農環研)	水田における土壌攪乱・排水処理による放射性セシウム除去技術の開発ー土壌浄化効果の検証ー	日本土壌肥科学会講演要旨集	59、156	2013.09
久保堅司、小林浩幸、太田健、村上敏文、石川哲也、江口哲也、藤田雅也、渡邊好昭、中島隆、信濃卓郎	コムギ品種におけるカリウムとセシウムの蓄積性の解析	育種学研究	15(別2)、193	2013.10
久保堅司、小林浩幸、太田健、村上敏文、江口哲也、石川哲也、藤田雅也、渡邊好昭、信濃卓郎	コムギ品種におけるカドミウムおよび必須栄養元素の根から地上部への移行性の解析	根の研究	22(4)、159	2013.12
申文浩、久保田富次郎、浜田康治、人見忠良	水田地域への放射性物質の流入を削減する濁度モニタリングシステムの導入	第56回農業農村工学会東北支部大会講演会講演要旨	56、148-151	2013.10
人見忠良、浜田康治、久保田富次郎、吉本周平、申文浩	湛水期間延長による代かき濁水中の放射性セシウムの流出低減	第56回農業農村工学会東北支部大会講演会講演要旨	56、152-155	2013.10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
申文浩、久保田富次郎、浜田康治、人見忠良	Development of Irrigation Management Method for Reducing Inflow of Radioactive Substances in Japan	The 12th Conference of International Society of Paddy and Water Environment Engineering	12、249-253	2013.11
竹倉憲弘、薬師堂謙一、重田一人、小林有一、飯嶋渡、塚本隆行、吉田貴紘(森林総研)、藤本清彦(森林総研)、久保島吉貴(森林総研)	植物系除染廃棄物の安定・減容化技術	2013年度農業施設学会大会講演要旨	*、97-98	2013.08
藤村恵人、鈴木安和(福島県農業総合センター)	イネによる水耕栽培における可給態放射性セシウムの吸収に及ぼす土壌粒子の影響	日本作物学会紀事	82(別2)、116-117	2013.09
藤村恵人、佐久間祐樹(福島県農業総合センター)、山内敏美(福島県農業総合センター)、新妻和敏(福島県農業総合センター)、佐藤紀夫(猪苗代町)、佐藤睦人(福島県農業総合センター)、齋藤隆(福島県農業総合センター)、吉岡邦夫(福島県農業総合センター)	Differences between year 2011 and 2012 in Cs-137 concentration in brown rice grown in Fukushima prefecture	5th Asia-Pacific Symposium on Radiochemistry	*、120	2013.09
藤村恵人、松波寿弥、石川哲也、江口哲也、村上敏文、太田健	除染後水田における前年の各種処理が玄米放射性セシウム濃度に及ぼす影響	日本作物学会紀事	83(別1)、214-215	2014.03
藤村恵人	水田条件を模擬した養分点滴補給によるイネの流動水耕栽培法	日本作物学会紀事	83(別1)、290-291	2014.03
松波寿弥、豊田鮎、内田智子、小林浩幸	コムギ作の休閑期における屑ダイズ緑肥導入が温室効果ガス排出に及ぼす影響	日本土壌肥科学会講演要旨集	59、189	2013.09

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
石川哲也	イネの分けつ構造を図示する Logo プログラム	職務作成プログラム	P 第 10282 号-1	2013.08
太田健	「有機農法」など9項目(土の百科事典、土の百科事典編集委員会編)	丸善	*、330、372、406、518、529、530、532、533	2014.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
齋藤隆 (福島県農業総合センター)、高橋和平 (福島県農業総合センター)、太田健、牧野知之 (農業環境技術研究所)	作付前の土壌溶液中カリウム濃度に基づく玄米中放射性セシウム濃度の推定	平成 25 年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
久保堅司、信濃卓郎	農研機構東北農業研究センター農業放射線研究センターの紹介	根の研究	22 (4)、167	2013.12
N. Tachibana (Hokkaido Univ.)、K. Nagasawa (Hokkaido Univ.)、M. Fukushima (Hokkaido Univ.)、H. Kannno (Hokkaido Univ.)、信濃卓郎、岡崎圭毅	Mitigation of Peroxidative Stress for a Barley Exposed to Cadmium in the Presence of Water-Extractable Organic Matter from Compost-Like Materials. In: Function of Natural Organic Matter in Changing Environment	Springer	621-625	2013
後藤逸男 (東京農業大学)、信濃卓郎	除塩・除染の課題と研究の推進状況 (II)	大日本農会	1581、19-36	2014.01
竹倉憲弘	植物系除染廃棄物の減容化設備	農業食料工学会誌	76 (1)、29-31	2014.01
久保島吉貴 (森林総合研究所)、吉田貴紘 (森林総合研究所)、藤本清彦 (森林総合研究所)、竹倉憲弘、薬師堂謙一	木質ペレットの品質を製造現場において簡便に推定するための方法	木材工業	69 (3)、116-119	2014.03
藤本竜輔、竹内正彦	イノシシは今 謎に迫る	朝日新聞 (福島版)	33 面	2014.01

《研究支援センター》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
村上敏文 /CA、出澤文武 (長野県野菜花き試験場)	Growth survey of crisphead lettuce (<i>Lactuca sativa</i> L.) in fertilizer trial by low-altitude small-balloon sensing	Soil Science and Plant Nutrition	59 (3)、410-418	2013.05
村山徹、宮沢佳恵 (異動)	定植前リン酸苗施用によるネギの生育促進	日本土壌肥科学雑誌	84 (6)、455-461	2013.12
湯本節三	野生大豆ツルマメの生育特性と蛋白質・油糧資源としての粗放栽培のための遺伝的改良	東北農業研究	66、57-58	2013.12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
Mineo Senda (弘前大学)、 Satsuki Nishimura (弘前大学)、 Atsushi Kasa (弘前大学)、 湯本節三、高田吉丈、 Yoshinori Tanaka (十勝農試)、 Shizen Ohnishi (北見農試)、 Tomohisa Kuroda (新潟県農総 研)	Comparative analysis of the inverted repeat of a chalcone synthase pseudogene between yellow soybean and seed coat pigmented mutants	Breeding Science	63、384-392	2014.01

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
村山徹	キャベツの放射性セシウム濃度と移行係数に及ぼすリン酸・カリ減肥の影響	園芸学研究	12 (別2)、 413	2013.09
村山徹	定植前リン酸苗施用によるキャベツのリン酸・カリ減肥栽培	日本土壌肥料学会講演要旨集	59、132	2013.09
村山徹	岩手県での冬キャベツ栽培における収量と品質の品種比較	園芸学研究	13 (別1)、 178	2014.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
村上敏文	簡易空撮気球と写真測量法による作物草高の推定	第2回 DP ユーザー会・応用事例発表会 (招待講演)	*, *	2013.04
村上敏文、出澤文武 (長野県野菜花き試験場)	低高度の空撮画像の面積を使ったレタス重量の推定と施肥処理の解析	平成 25 年度研究成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03
村山徹	定植前のネギ苗へのリン酸カリ溶液施用はネギの増収とリン酸減肥を可能にする	平成 25 年度主要普及成果情報	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2013/index.html	2014.03

2. 特許・品種登録等

1) 特許・実用新案の出願及び登録

(平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)

(区 分) 特 許 権 等 の 名 称	発明考案者	公 告 又 は 公 開 年 月 日	登 録 年 月 日 及 び 登 録 番 号
【特許】 (登録)			
○草食家畜の食欲を促進させる匂い混合物及び草食家畜の食欲促進方法	嶮野 英子		H25. 4. 5 第 5234531 号
○甘味性コムギ由来の小麦粉を含む穀粉組成物及びこれを使用した食品	中村 俊樹、米丸 淳一、 石川 吾郎、日本製粉㈱		H25. 5. 17 第 5266545 号
○低温糊化性コムギ由来の小麦粉を含む穀粉組成物及びこれを使用した食品	中村 俊樹、米丸 淳一、 石川 吾郎、日本製粉㈱		H25. 6. 21 第 5294059 号
○ウシの発情同期化法およびそのためのキット	竹之内直樹、平尾 雄二、 志水 学、伊賀 浩輔		H25. 12. 20 第 5435422 号
(出願中)			
○油脂からのトコトリエノールとバイオディーゼル燃料の同時生産方法	木村 俊之、(国大)東 北大学	H21. 8. 27	
○未熟コムギ種子を用いた食品の製造方法及び食品	中村 俊樹、日本製粉㈱	H23. 3. 3	
○小麦α-アミラーゼインヒビターに結合する抗ペプチド抗体及びそれを用いた小麦アレルギーの検査方法	老田 茂	H23. 12. 8	
○下層土圧縮装置	大谷 隆二、関矢 博幸、 冠 秀昭、(株)パディ研 究所、キャタピラー九州 (株)	H24. 2. 16	
○植物ホルモン関連物質を処理した忌避植物と植物ウイルスを接種したおとり植物の植栽配置による微小害虫アザミウマ類制御技術	櫻井 民人、中央農業総 合研究センター、(独) 理化学研究所	H24. 9. 20	
○体外発育卵母細胞をレシピエント卵子とするクローン動物個体の作成法	平尾 雄二、竹之内直樹、 伊賀 浩輔、成瀬 健司、 志水 学	H24. 11 . 1	
○燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した園芸用施設への二酸化炭素供給装置	稲本 勝彦、(独)産業 総合技術研究所、奈良県、 大阪ガス㈱、日本軽金属 (株)	H25. 4. 25	

(区 分) 特 許 権 等 の 名 称	発 明 考 案 者	公 告 又 は 公 開 年 月 日	登 録 年 月 日 及 び 登 録 番 号
○ 2 つの GBSSI と 2 つの SSII の 酵 素 活 性 を 欠 損 し た コ ム ギ か ら 調 整 さ れ た 小 麦 粉 他 8 件 【実用新案】 なし	中 村 俊 樹、齋 藤 美 香、 日 本 製 粉 (株)	H25. 9. 29	

2) 種 苗 法 に よ る 品 種 登 録

(平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)

植 物 の 種 類	品 種 の 名 称	登 録 年 月 日	登 録 番 号	育 成 者
トマト	すずこま	H25. 4. 18	第 22566 号	由 比 進、片 岡 園、本 城 正 憲、 松 永 啓、石 井 孝 典、川 頭 洋 一、 岡 本 潔、山 崎 篤、 全 国 農 業 協 同 組 合 連 合 会
そば	にじゆたか	H26. 3. 10	第 23189 号	由 比 真 美 子、山 守 誠、本 田 裕、 加 藤 晶 子、川 崎 光 代

そ の 他 出 願 中

植 物 の 種 類	品 種 の 名 称	出 願 年 月 日	育 成 者
フェストロリウム	イカロス	H22. 10. 27	米 丸 淳 一、上 山 泰 史、久 保 田 明 人、 秋 山 征 夫、雪 印 種 苗 (株)
小麦	銀河のちから	H23. 1. 17	吉 川 亮、谷 口 義 則、中 村 和 弘、 伊 藤 裕 之、平 将 人、八 田 浩 一、 前 島 秀 和、伊 藤 美 環 子、中 村 俊 樹、 石 川 吾 郎、中 村 洋、伊 藤 誠 治
小麦	ゆきはるか	H23. 1. 28	谷 口 義 則、吉 川 亮、中 村 和 弘、 伊 藤 裕 之、平 将 人、前 島 秀 和、 八 田 浩 一、伊 藤 美 環 子、中 村 洋、 中 村 俊 樹、石 川 吾 郎、伊 藤 誠 治
ねぎ	TAM - 1	H24. 4. 10	山 崎 篤、山 崎 博 子、野 菜 茶 業 研 究 所

その他出願中

植物の種類	品種の名称	出願年月日	育成者
なたね	キタノキラメキ	H24. 5. 31	本田 裕、川崎 光代、山守 誠、 加藤 晶子、由比真美子、石田 正彦、 千葉 一美、遠山 知子
いちご	豊雪姫	H24. 5. 31	片岡 園、由比 進、本城 正憲、 岡本 潔、森下 昌三、矢野 孝喜、 濱野 恵
稲	えみのあき	H25. 5. 2	太田 久稔、山口 誠之、福嶌 陽、 梶 亮太、津田 直人、中込 弘二、 片岡 知守、遠藤 貴司、横上 晴郁
稲	ゆめふわり	H25. 5. 30	太田 久稔、山口 誠之、福嶌 陽、 梶 亮太、津田 直人、中込 弘二、 片岡 知守、遠藤 貴司、横上 晴郁、 国際農林水産業研究センター
大豆	あきみやび	H25. 6. 11	菊池 彰夫、島村 聡、加藤 信、 河野 雄飛、湯本 節三、高田 吉丈、 島田 信二、境 哲文、島田 尚典、 高橋 浩司、鈴木 真吾、田淵 公清
大豆	シュウリュウ	H25. 6. 11	菊池 彰夫、島村 聡、加藤 信、 河野 雄飛、湯本 節三、高田 吉丈、 島田 信二、境 哲文
稲	いわいだわら	H25. 6. 26	太田 久稔、山口 誠之、福嶌 陽、 梶 亮太、津田 直人、中込 弘二、 片岡 知守、遠藤 貴司、 国際農林水産業研究センター
なたね	ななはるか	H25. 9. 27	川崎 光代、本田 裕、加藤 晶子、 由比真美子、山守 誠、遠山 知子、 石田 正彦、手塚 隆久、千葉 一美

3. 育成品種、遺伝資源の受入・移管・増殖・保存数

1) 育成品種（平成 25 年度出願）

- ・ 稲「えみのあき」（奥羽 4 0 7 号）
- ・ 稲「ゆめふわり」（奥羽 4 0 5 号）
- ・ 大豆「あきみやび」（東北 1 6 4 号）
- ・ 大豆「シュウリュウ」（東北 1 6 6 号）
- ・ 稲「いわいだわら」（奥羽 4 0 9 号）
- ・ なたね「ななはるか」（東北 9 6 号）

2) 育成品種一覧 (平成 26 年 3 月現在)

水 稲

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	早 晩 性	耐 倒 伏 性	耐 冷 性	食 味	いもち病抵抗性	
			母	父						抵 抗 性 遺 伝 子 型	圃 場 抵 抗 性
1 ハツニシキ	農林 84 号	奥羽 224 号	農林 22 号	農林 1 号	1954	早	や	や	下	+	中
2 ヤマセニシキ	農林 139 号	奥羽 225 号	農林 22 号	農林 1 号	1962	早	中	中	上	+	中
3 ウゴニシキ	農林 143 号	奥羽 242 号	関東 51 号	ハツニシキ	1963	中	中	中	上	Pik	中
4 フクニシキ	農林 152 号	奥羽 245 号	54BC-68	ハツニシキ	1964	中	中	中	上	Pic	や
5 オトメモチ	農林 171 号	奥羽 赤糯 259 号	こがねもち	奥羽 225 号	1966	早	や	や	(良)	Pia	や
6 フクノハチ	農林 172 号	奥羽 260 号	奥羽 237 号	東北 76 号	1966	中	中	中	-	Pii	や
7 イサリノデ	農林 181 号	奥羽 249 号	ハツニシキ	十石	1967	晩	中	中	上	Piu	中
8 ササミノリ	農林 182 号	奥羽 250 号	ハツニシキ	奥羽 329 号	1967	晩	中	中	上	Piu	や
9 トヨニシキ	農林 198 号	奥羽 267 号	東北 78 号	奥羽 239 号	1969	早	中	中	中	+	中
10 キヨニシキ	農林 199 号	奥羽 269 号	東北 78 号	奥羽 239 号	1969	中	中	中	中	Pia	中
11 ヒメノモチ	農林 210 号	奥羽 268 号	東北 78 号	奥羽 239 号	1970	中	中	中	中	Pia	中
12 ハヤニシキ	農林 221 号	奥羽 糯 277 号	大系 227	こがねもち	1972	早	や	や	(良)	Pik	中
13 アヤヒカリ	農林 222 号	奥羽 278 号	奥羽 239 号	フジミノリ	1972	早	中	中	中	+	中
14 アヤヒカリ	農林 239 号	奥羽 282 号	ふ系 70 号	奥羽 269 号	1976	早	や	や	中	Pia	や
15 農林 253 号	農林 253 号	奥羽 301 号	トヨニシキ	奥羽 17	1979	早	中	中	中	Pik,Pic	中
16 ヒデコモチ	農林 254 号	奥羽 糯 296 号	大系 1076	ふ系 72 号	1979	早	や	や	中	Pik,Pii	や
17 ふくひびき	農林 320 号	奥羽 331 号	コチヒビキ	奥羽 316 号	1993	中	中	中	中	Pia,Pib	中
18 おきのいり	農林 342 号	奥羽 346 号	中部 47 号	奥羽 313 号	1996	中	中	中	中	Pia,Pii	中
19 朝紫	農林 343 号	奥羽 糯 349 号	東糯 396	奥羽 331 号	1996	早	中	中	中	Pia	中
20 スノーパール	農林 356 号	奥羽 344 号	74wx2N-1	レイメイ	1998	中	中	中	中	+	中
21 おくのむらさき	農林 367 号	奥羽 368 号	東北糯 149 号	奥羽 331 号	2000	中	中	中	中	Pib	や
22 シルキパール	農林 375 号	奥羽 354 号	探索 2019	ふ系 143 号	2001	中	中	中	中	Piu	中
23 紅衣	農林 384 号	奥羽 赤 370 号	(奥羽 331 号 × A5) の F1	奥羽 331 号	2002	早	中	中	中	+	中
24 ちゆらひかり	農林 390 号	奥羽 366 号	東北 143 号	奥羽 338 号	2003	中	極	極	上	Pia,Pii	極
25 恋あずさ	農林 407 号	奥羽 359 号	北海 269 号	奥羽 316 号	2005	早	極	極	中	Pia,Pik	弱
26 べこあおば	農林 408 号	奥羽 観 387 号	オオチカラ	西海 203 号	2005	中	弱	弱	中	Pia-2,(Pia)	弱
27 奥羽観 383 号	—	奥羽 観 383 号	H-451	紫穂 No.1	2008	早	弱	弱	中	+	弱
28 萌えみのり	農林 416 号	奥羽 382 号	南海 128 号	はえぬき	2006	中	強	強	中	Pia,Pii	中
29 夕やけもち	農林 417 号	奥羽 赤糯 388 号	たつこもち	紅衣	2006	早	強	強	中	+	や
30 べこごのみ	農林 425 号	奥羽 観 395 号	ふくひびき	97UK-46	2007	早	強	強	上	Pib,Pik	や
31 紫こぼし	—	奥羽 観 389 号	関東 195 号	朝紫	2011	早	や	弱	中	Pia	強
32 祝い茜	—	奥羽 観 378 号	関早生	対馬在来	2011	早	弱	弱	上	Pia	中
33 祝い紫	—	奥羽 観 379 号	紫穂 No.1	対馬在来	2011	晩	弱	弱	上	Pik	中
34 きんのめぐみ	—	奥羽 411 号	おきにいり / あいそみのりの F1	おきにいり	2013	中	強	強	中	Pia,Pii	中
35 ゆめふわり	—	奥羽 405 号	たきたて	放育 2 号	—	早	弱	強	上	Pii	中
36 えみのあき	—	奥羽 407 号	中部 111 号	奥羽 382 号	—	中	強	弱	上	Pia,Pii	極
37 いわいだわら	—	奥羽 409 号	奥羽 観 394 号	奥羽 観 395 号	—	早	や	強	中	Pik,Pib	弱

小麦

品種名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	主な用途	成熟期	芒の有無	穂の色	耐寒雪性	赤さび病抵抗性
			母	父							
1 スソノコムギ	農林77号	東北77号	農林10号	北関東5号	1950	めん用	中	有	白	やや弱	やや弱
2 ムツベンケイ	農林78号	東北84号	F5-1582	Egyptian Amber	1950	めん用	晩	有	白	やや弱	やや弱
3 アオババコムギ	農林81号	東北79号	農林7号	Ardito	1951	パン用	早	無	白	強	やや弱
4 ナンブコムギ	農林82号	東北95号	農林33号	農林27号	1951	めん用	早	有	白	中	やや弱
5 ヒツミコムギ	農林88号	東北103号	農林39号	東北56号	1953	めん用	晩	無	白	強	中
6 オクコムギ	農林90号	東北97号	農林39号	東北56号	1955	めん用	晩	無	白	強	中
7 サキユコムギ	農林91号	東北91号	農林33号	農林27号	1956	めん用	晩	有	白	強	弱
8 フルツマサリ	農林94号	東北105号	東北78号	農林39号	1956	めん用	晩	無	白	中	中
9 キタカミコムギ	農林97号	東北110号	東北101号	東北83号	1959	めん用	晩	有	白	やや弱	中
10 シモフサコムギ	農林101号	東北108号	東北79号	北関東44号	1963	めん用	中	無	白	やや弱	中
			(アオバコムギ)								
11 ミヤギノコムギ	農林102号	東北117号	東北106号	農林10号	1964	めん用	早	有	白	中	やや弱
12 ハチマンコムギ	農林113号	東北122号	東北108号	農林27号	1973	パン用	中	無	白	中	やや強
13 ハナガサコムギ	農林116号	東北126号	北陸46号	(HopexTimstein)	1974	めん用	中	無	白	中	強
14 ワカマツコムギ	農林127号	東北143号	キタカミコムギ	×農林58号	1982	めん用	晩	有	白	中	強
15 コユキコムギ	農林133号	東北167号	東北126号	東北126号	1988	パン用	中	有	白	中	弱
			(ハカガサコムギ)								
16 あきたっこ	農林137号	東北183号	ワカマツコムギ	東北144号	1992	めん用	中	有	白	中	やや弱
17 はつもち	—	東北糯210号	関東107号	白火	1998	ブレンド	早	有	白	やや弱	中
18 もち乙女	—	東北糯211号	関東107号	白火	1998	ブレンド	極早	有	白	弱	やや弱
19 ネバリゴシ	農林152号	東北206号	関東107号	チホクコムギ	2000	めん用	やや早	無	白	中	強
20 ハルイブキ	農林153号	東北205号	Stozher	東北195号	2001	パン用	中	有	白	中	強
21 ゆきちから	農林157号	東北214号	東北141号	さび系23号	2002	パン用	やや早	無	白	強	強
22 もち姫	農林糯166号	東北糯217号	はつもち	(もち盛系C-G1517)	2006	菓子・ブレンド用	やや早	有	白	やや弱	やや強
				×M17(F1)							
23 銀河のちから	—	東北223号	東北209号	ハルイブキ	—	パン用・めん用	やや早	有	白	中	中
24 ゆきはるか	—	東北224号	キヌヒメ	きぬあずま	—	菓子用	やや早	有	白	中	やや強

注 「はつもち」「もち乙女」の登録年次は、品種登録(種苗法)の年次である。

大豆

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	成熟期	花色	葉 形	病虫害抵抗性	
			母	父					センチュウ	SMV
1	ワセシロゲ	た系 16 号	白毛 9 号	た系 6 号	1956	早の晩	紫	円	弱	AB
2	ハツカリ	東北 1 号	大白 1 号	奥羽 13 号	1959	中の早	紫	円	弱	AB
3	ネマシラズ	東北 6 号	白蔬太	下田不知の純系分離	1961	晩	紫	円	強	AB
4	ムツメジロ	東北 16 号	白蔬太	本育 65 号	1965	早の晩	紫	円	弱	(A)(B)
5	ライデン	東北 27 号	農林 4 号	ネマシラズに γ 線照射	1966	中の早	紫	円	強	AB
6	ムツシラタマ	東北 13 号	白蔬太	白鶴の子	1967	中	白	円	弱	弱
7	ワセシロメ	東北 17 号	農林 4 号	本育 65 号	1967	早の晩	紫	円	弱	AB
8	ライコロメ	東北 28 号	農林 4 号	ネマシラズに γ 線照射	1969	中	紫	円	強	AB
9	オクシロメ	東北 35 号	東北 6 号 (ネマシラズ)	南郡竹館	1972	中の晩	紫	円	強	AB
10	カルマイ	東北 32 号	東北 6 号 (ネマシラズ)	山白玉	1973	中の早	紫	円	強	弱
11	ナンブシロメ	東北 40 号	ライデン	北見長葉 (白臍)	1977	中	紫	長	強	AB
12	デワムスメ	東北 45 号	ネマシラズ	Harosoy	1977	中	紫	円	強	ABCD
13	スズユタカ	東北 65 号	刈系 52 号	東北 35 号 (オクシロメ)	1982	中の晩	紫	円	強	ABCD
14	タチコガネ	東北 61 号	関東 53 号 (シロセンナリ)	東北 35 号 (オクシロメ)	1983	中の早	紫	円	強	AB
15	ワセズナリ	東北 70 号	コケシジロ	オクシロメに γ 線照射	1983	早	紫	円	強	AB
16	ワセシロメ	東北 41 号	ユウヅル	刈系 36F7	1985	早の晩	紫	円	強	AB
17	スズカリ	東北 69 号	房成	オクシロメ	1985	中	紫	円	強	AB
18	タチユタカ	東北 80 号	納豆小粒に γ 線照射	刈系 92 号	1987	中の晩	紫	円	弱	ABCD
19	コスズ	東北 85 号	東北 52 号	刈系 102 号	1987	中	紫	円	弱	AB
20	トモユタカ	東北 92 号	スズユタカ	刈系 244 号	1990	中の早	紫	円	強	ABC
21	リュウホウ	東北 113 号	刈系 244 号	刈系 343F7	1995	中の早	紫	円	強	AB
22	鈴の音	東北 115 号	刈系 296F6	刈系 221 号 (コスズ)	1995	早の晩	紫	長	弱	AB
23	おおすず	東北 112 号	刈系 296F6	刈系 237 号	1998	中の早	紫	円	弱	AB
24	たまうらら	東北 118 号	スズユタカ	刈系 237 号	1998	中の早	紫	円	弱	AB
25	ハタユタカ	東北 128 号	スズユタカ	エンレイ	1999	中の早	紫	円	弱	AB
26	ゆめのみり	東北 124 号	刈系 434 号に γ 線照射	刈系 434 号に γ 線照射	1999	晩の早	紫	円	強	ABCD
27	ふくいぶき	東北 126 号	東北 96 号	デワムスメ	2001	中の晩	紫	円	弱	ABCD
28	青丸くん	東北 141 号	赤青 D165	タチユタカ	2002	中の晩	紫	円	弱	ABCD
29	すずさやか	東北 135 号	スズユタカ	九交 335F2(γ)-M4	2002	中の早	紫	円	強	ABCD
30	すずかおり	東北 148 号	刈系 508 号	コスズ	2003	中の晩	紫	円	弱	CD
31	きぬさやか	東北 151 号	刈系 778F5	刈系 508 号	2004	中	紫	円	強	ABCD
32	すずほのか	東北 146 号	刈系 778F5	刈系 0459F1	2005	晩の早	白	卵形	弱	ABCD
33	里のほえみ	東北 160 号	東北 129 号	刈系 0264MYF6	2007	や	紫	三角形	弱	ABCD
34	あきみやび	東北 164 号	フクシロメ	刈系 623 号	2009	晩	白	鋭先卵形	弱	ABCD
35	シユウリュウ	東北 166 号	東北 143 号	刈系 675 号	-	中	紫	鋭先卵形	弱	ABCD
					-	や	紫	鋭先卵形	弱	ABCD

注 1. 病虫害抵抗性: SMV はダイズモザイクウイルスであり、A、B、C、D はウイルスの系統別抵抗性を示す。

大麦 (皮麦)

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	成熟期	収量性	耐寒雪性	精麦適性	病害抵抗性 うどんこ病
			母	父							
1 ミユキオオムギ	農林24号	東北皮14号	はがねむぎ	北陸皮26号	1975	精麦用	中	多	強	中	中
2 シンジュボシ	農林36号	東北皮34号	東北皮30号	シュンライ	2002	精麦用	やや早	やや多	やや強	大	中
3 小春二条	-	東北皮38号	(ニシノゴールド×ミユキオオムギ) F1	ミナルゴールド	2008	醸造用等	中	やや多	やや弱	やや大	中

注 「小春二条」の登録年次は、品種登録の年次である。

そば

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	用 途	育成日数	耐倒伏性	播種期	収量性	千粒重
1 にじゆたか	-	東北1号	葛生在来と戸隠在来(秋)を相互交配・集団採種し、個体別系統から選抜	-	めん用	やや短	強～極強	夏播き用	中	大

はとむぎ

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用 途	成熟期	草 丈	収量性	粒 重	葉枯病
			母	父							
1 はとむすめ	農林1号	奥羽2号	「岡山在来」	「岡山在来」	1992	飲用等	中	中	多	中の軽	中
2 はとひかり	農林2号	奥羽3号	「岡山在来」	「岡山在来」	1995	飲用等	中の晩	中	中の多	中の重	中
3 はとじろう	農林3号	東北2号	「黒石在来」	「黒石在来」	1995	飲用等	早	短	中の少	中の重	中
4 はとゆたか	農林4号	東北3号	東北1号	純系分離	2004	飲用等	中の早	短	多	中の重	やや弱
5 はときさら	農林4号	東北4号	東北1号	奥羽4号 オホーヅク1号	2013	飲用等	極早	極短	中	中	やや弱

な た ね

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	成熟期	収量性	耐倒伏性	エルシンの有無	菌核病抵抗性
			母	父							
1 トワダナタネ	農林 44 号	東北 67 号	東北 41 号 (アサヒナタネ)	MR 1 号	1973	搾油用	中の晩	多	やや弱	有	やや弱
2 カミキタナタネ	農林 45 号	東北 77 号	東北 67 号 (アサヒナタネ)	ミホナタネ	1986	搾油用	中の晩	やや多	強	有	強
3 アサカノナタネ	農林 46 号	東北 82 号	アサヤナタネ	Z. E. N	1990	搾油用	中の早	やや多	やや弱	無	弱
4 キガキノナタネ	農林 47 号	東北 84 号	盛系 188	Rapora	1990	搾油用	中の晩	多	強	無	強
5 キラリボシ	農林 48 号	東北 90 号	盛系 148	KARAT	2002	搾油用	中	多	やや強	無	やや強
6 ななしきぶ	農林 49 号	東北 91 号	キガキノナタネ	オオミナタネ	2002	搾油用	中の晩	多	強	無	強
7 菜々みどり	-	東北 89 号	キガキノナタネ	カミキタナタネ	2004	搾油・野菜用	中の晩	多	強	無	強
8 キタノキラメキ	-	東北 97 号	キガキノナタネ	Onyx	-	搾油用	晩中の	多	強	無	やや強
9 ななはるか	-	東北 96 号	チサヤナタネ	盛系 148	-	搾油用	中の早	中	やや強	無	中

な ば な

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	収穫期	収量性	食味	表皮のロウ質	根こぶ病抵抗性
			母	父							
1 はるの輝	農林 1 号	盛系 234 号	トワダナタネ	突然変異	1994	野菜用	晩	中	極良	無	無

と ま と

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	熟期	草姿	果実の特性		
			母	父					形	大きさ	色
1 みのり	農林 3 号	東北 4 号	Pritchard	Victor	1957	加工用	早	心止り	扁球	大	赤
2 KGM 051	-	KC02-115	とまと中間母 本農 10 号	PK341	2008	生食用	やや晩	普通	腰高球	やや大	濃赤
3 すずこま	-	盛平 1 号	A-33-129-91	Piline	-	加工用	極早	心止り	腰高球	やや中	赤

はくさい

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	品 種	熟 期	輸 送 貯蔵性	球の特性		
			母	父					形	大きさ	
1 あさひ	農林1号	東北4号	千葉1号	花心	1957	長	早	低	丸~砲弾型	中	やや浅
2 みちのく	農林2号	東北5号	白色包頭連	松島2号	1957	長	中の早	良	砲弾型	やや大	やや浅

ねぎ

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用 途	品 質 特 性		形 態 的 特 性		
			母	父			葉身部	辛味	草丈	葉身分枝の縮まり	分けつ発生頻度
1 TAM-1	-	TAM-1	元蔵×他4種		-	F1播種用	軟	少	やや短	優	低

イチゴ

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用 途	収 穫 期	収 量 性	食 味	果 実 硬 度	病 害 抵 抗 性
			母	父							
1 なつあかり	農林21号	盛岡29号	サマーベリー	北の輝	2004	生食用	四季成り性	中	四季成り性 品種の中で良 ~極良	やや軟	うどんこ病 に中
2 デコルージュ	農林22号	盛岡31号	Pajaro	盛岡26号	2004	ケーキ用	四季成り性	中~多	四季成り性 品種の中で良	硬	うどんこ病 に強
3 豊雪姫	-	盛岡35号	盛岡32号	カレンベリー	-	生食用・ ケーキ用	一季成り性	多	良	中	炭疽病に強

シ バ

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 チバラフワン	-	愛媛 41-5 号	しば在来 42 系統よりラージパッチ耐病性、初冬季緑色保特性選抜試験を経て 1 系統を選抜	2003	冬枯れの開始が遅く、初冬季の緑度保持力が高い	ラージパッチに対する抵抗性

注 1. 「チバラフワン」は、千葉県との共同育成品種である。

シロクローバ

品 種 名	登録番号	旧系統名	合 成 母 材 名	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 キタオオハ	農林 1 号	東北 1 号	Oregon Lasino, Italy Ladino, 東北農試在来より選抜した 6 栄養系により合成	1971	国産初の大葉型品種で採草用、瘦地での生産性良好	モザイク病、汚斑病に抵抗性
2 マキバシロ	農林 2 号	東北 9 号	Tregor (F), Pertina (NL), 5849 (Aus) より選抜した 8 栄養系により合成	1980	中葉型でやや大葡萄系の伸長が大放牧採草適性良好	褐斑病、そばかす病等に抵抗性
3 ミネオオハ	農林 4 号	東北 15 号	海外育成 50 品種より選抜した 32 栄養系により合成 外国産 6 品種を母体に合成	1989	大葉型で永続性、オーチャードグラスとの混播性、窒素耐性に優れる	菌核病抵抗性
4 ノースホワイト	農林 5 号	東北 21 号	USDA より導入した PI223824 (AFG)、228367 (IR)、234264 (IRQ)、245124 (USA)、250996 (YUG)、253322 (YUG)、287989 (SPN)、300157 (SAF) より選抜した 50 栄養系により合成	1994	国産初の小葉型で放牧専用、チモシーとの混播、適性、永続性に優れる	

ク

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	系統型	先枯れ	収葉量	密植適合性	病害抵抗性 (縮葉細菌病性)
			母	父						
1 みつしげり	桑農林10号	東61-03	N0.71	改良単返	1988	ヤマグラ系	少ない	良質多収	良好	やや強

フェストロリウム

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 東北1号	-	東北1号	フェストロリウム既存3品種1299個体から集団及び母系選抜法によって選抜した13系統の多交配による	2012	草丈が高く、採草に向く多収系統。耐湿性に優れ、寒冷地の転作田等での栽培にも適する。	冠さび病に抵抗性
2 イカロス	-	盛系1号	フェストロリウム既存品種1651個体から集団選抜法によって選抜した7系統の多交配による	2010 (出願)	茎数が多く、寒冷地の草地や畑での採草または放牧利用に適する。	冠さび病、雪腐病(褐色小粒菌核)に抵抗性

3) 作物遺伝資源・作物品種の受入・移管・増殖・配布・保存数

作物名	平成 25 年度		平成 25 年度末 保存数	平成 25 年度		備考
	受け入れ	移管		再増殖	配布	
水 稲	0	0	841	50	0	受入：— 配布：—
小 麦	0	10	143	0	0	受入：— 配布：—
大 麦	0	0	59	0	0	受入：— 配布：—
大 豆	0	0	353	150	0	受入：— 配布：—
エ ゴ マ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ナ タ ネ	10	10	0	10	5	受入：— 配布：—
ハ ト ム ギ	4	3	0	3	0	受入：— 配布：—
ア ワ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ル タ バ ガ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ツケナ(ナタネ類)	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
カ ブ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
キ ユ ウ リ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
シ コ ク ビ エ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
キ ビ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ジ ュ ズ ダ マ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ピ ー マ ン	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
キ ク イ モ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ソ ウ メ ン ウ リ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ソ バ	0	1	0	1	2	受入：— 配布：—
ナ ス	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
水 菜	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
サ サ ゲ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
カ ン シ ョ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
金 時 草	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ホ ウ レ ン ソ ウ	0	0	601	10	0	受入：— 配布：—

作物名	平成 25 年度		平成 25 年度末 保 存 数	平成 25 年度		備 考
	受け入れ	移 管		再増殖	配 布	
ト マ ト	0	0	1,847	0	0	受入：— 配布：—
イ チ ゴ	9	0	402	60	8	受入：9 配布：25
イタリアンライグラス	0	0	14	0	0	受入：— 配布：—
ペレニアルライグラス	0	0	36	0	0	受入：— 配布：—
ハイブリッドライグラス	0	0	37	0	0	受入：— 配布：—
オーチャードグラス	0	0	14	0	0	受入：— 配布：—
リードカナリーグラス(くさよし)	0	0	114	0	0	受入：— 配布：—
ウシノケグサ類	0	0	6	0	0	受入：— 配布：—
しば	0	0	68	0	0	受入：— 配布：—
ススキ属	30	0	50	0	0	受入：— 配布：—
合 計	53	24	4,585	284	15	受入：9 配布：25

4. 広 報 活 動

1) 所刊行物

平成 25 年度に出版した刊行物（会議資料は除く）は、次のとおりである。なお、研究報告等に収録された論文題名は「1. 研究成果の発表」に掲載してある。

(1) 研究報告、ニュース、年報等

誌 名 (巻 号)	印 刷 数
東北農業研究センターたよりNo. 40	3,000
東北農業研究センターたよりNo. 41	3,000
東北農業研究センターたよりNo. 42	3,000
東北農業研究センター研究報告No. 116	850
東北農業研究センター農業経営研究第 31 号	550

(2) 広報誌（要覧、パンフレット等）

誌 名	印 刷 数
東北農業研究センター要覧	6,000
東北農業研究センター大仙研究拠点要覧	1,300
水稻の直播栽培技術	50
農研機構セミナー イネいもち病「圃場抵抗性」は本当に持続的なのか？講演要旨集	500
農研機構シンポジウム 田畑輪換と地力ー今、水田土壌で何がおこっているか・・・それを克服するためにはー講演要旨集	600
平成 25 年度東北地域マッチングフォーラム講演要旨集	600
先端技術展開事業「中小区画土地利用型営農技術の実証研究」パンフレット	2,000
クッキングトマト・レシピ集	3,000
品種紹介リーフレット 耐湿性と栄養価に優れた新型牧草フェストロリウム「東北 1 号」	1,000
品種紹介リーフレット 寒地（北海道）に適した、越冬性のよい食油向けのナタネ品種「キタノキラメキ」	2,000
品種紹介リーフレット グルテン質が強靱な超強力硬質小麦「銀河のちから」	5,000
品種紹介リーフレット 植物工場での栽培も可能な早生で小ぶりのクッキングトマト「すずこま」	5,000
東北農業研究センターで育成した品種（改訂版）	2,000
入手先リスト	2,000
「萌えみのり」の鉄コーティング直播栽培マニュアル (Ver1.2)	500
乾田直播栽培技術マニュアル Ver2	600
乾田直播栽培技術マニュアル Ver2.3	1,000
技術紹介パンフレット 田畑輪換における地力低下の実態と地力の維持改善法	3,000

2) 視察者・見学者の受入（一般公開は除く）

区分	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関 (大学等)	民間	海外	その他
件数	42	29	22	2	17	34	16	10	1
人数	467	371	1,174	2	111	385	98	46	1

3) 催事（一般公開、イベント、体験学習等）及び協力

(1) 研究所一般公開

公開名	開催日	開催場所	参加者数
一般公開「東北の水稲・大豆研究の最前線」	H25. 8. 31	東北農研大仙研究拠点	201
公開デー 「モウッと知りたい！ウシのごちそうを科学する」	H25. 9. 7	東北農研本所	787

(2) イベント

イベント名	開催日	開催場所	参加者数
菜の花公開	H25. 5. 18 ～ 5. 19	東北農研本所	3,824

(3) 科学技術離れ対策の協力状況

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所	参加者数
施設見学	大曲市立四ツ屋小学校、南外小学校	水田を中心とした作物（稲及び大豆）の育成について講義と実習を実施。	H25. 7. 2	大仙拠点	47
田んぼの科学教室	大仙拠点	水田を中心とした作物（稲及び大豆）の育成について講義と実習を実施。	H25. 7. 4	大仙拠点	173
職場訪問	秋田県立角館高等学校	水稲の研究概要説明と圃場における見学及び作業体験	H25. 8. 2	大仙拠点	4
職場体験学習	大曲養護学校高等部	水稲の研究概要説明と圃場における見学及び作業体験	H25. 11. 11	大仙拠点	31
サマーサイエンスキャンプ2013	(独)科学技術振興機構	2泊3日のカリキュラムで高校生を受け入れ、研究者が各テーマに沿った講義・指導、実習、実験の体験を実施。	25. 8. 6 ～ 8. 8	東北農研本所	10
総合的な学習にかかる農作業体験学習	盛岡市立北厨川小学校	3学年児童に当所育成品種の3種類の作物について、播種、苗付けから生育観察、収穫までの体験を実施した。	H25. 5 ～ H25. 10 の期間で7日間	東北農研本所	延 420

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所	参加者数
社会人講師事業 第3回特別講演	岩手県立盛岡農業高等学校	特別専攻科1、2学年生を対象に、事業概要の説明並びに東北地域の農業経営、牛の繁殖管理、乾田直播の技術の講義とオープンラボ施設見学を実施した。	H25. 6. 19	東北農研本所	18
やさしい科学技術セミナー	(公財)国際科学技術財団	学生を対象に、トマト・イチゴの養液栽培について、講義並びに施設見学により、その分野の専門家がやさしく解説するセミナーを実施した(公開デーと同時開催)。	H25. 9. 7	東北農研本所	16
職場体験学習	一戸町立小鳥谷中学校	総合的な学習の職場体験学習として、イチゴ・トマト研究の調査補助及び畜産研究の調査補助について、作業体験を実施した。	H25. 9. 25 ～ 9. 27	東北農研本所	2
施設見学	岩手県立花巻農業高校	生物科学科2学年生徒を対象に事業概要の説明並びに圃場見学を実施した。	H25. 11. 22	東北農研本所	46

(4) 科学技術離れ対策以外のイベントへの協力及び参画

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所
ベーカリー素材 EXPO	ベーカリー素材 EXPO 実行委員会、日本イージェイケー(株)	パンに関するあらゆる原材料・食材・製造技術が一堂に集まるベーカリーに特化した専門展示会。ベーカリー業界の更なる発展の一役を担う展示会として開催。	H25. 5. 15 ～ 5. 17	東京国際展示場 (東京都江東区)
アグリフェア 2013in ふくしま	JA グループ 福島	農機メーカー、資材メーカー各社が新型農業機械、農業資材、肥料・農薬等を展示、販売するほか、新技術紹介や担い手支援の相談等の情報提供により、JA 農家組合員の要望に応えることを趣旨に開催。	H25. 7. 10 ～ 7. 12	ビッグパレットふくま (福島県郡山市)

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所
第 68 回岩手県 全国農業機械実 演展示会	(社)岩手県農業機 械協会	全国農業機械メーカーの最新農業機械を一堂に展示実演し、安全安心な農畜産物の低コスト生産技術・知識を広く情報発信し、農業経営の向上安定を期するとともに、岩手県農業の持続的発展に寄与することを目的に開催。	H25. 8. 23 ～ 8. 25	岩手県産業文化センター・アピオ (岩手県滝沢村)
オーガニック フェスタ in い わて 2013	オーガニック フェスタ in い わて実行委員 会、岩手有機農 業研究会	最近の有機農業での新規就農、安心農作物を求める消費者など、有機社会への兆しが広がりつつある中、岩手での生産者のネットワークを作る、生産者と消費者が出会える場を作る、生産者と消費者とで、有機社会の価値観を広める、ことを趣旨とし開催。	H25. 8. 31 ～ 9. 1	オガールプラザ (岩手県紫波町)
アグリビジネス 創出フェア 2013	農林水産省	農林水産・食品産業分野における研究機関、大学等の高い技術シーズや研究開発及びその成果の実用化を支援する制度など、新たなアグリビジネスの創出として開催。	H25. 10. 23 ～ 10. 25	東京国際展示場 (東京都江東区)
大仙市秋の稔り フェア	秋田県大仙市	秋田県大仙市地域における、秋の稔りへの感謝と市民の地域農業への理解を求めることを趣旨に開催。	H25. 10. 26 ～ 10. 27	大仙市武道館ほか (秋田県大仙市)
第 136 回秋田県 種苗交換会	秋田県農業協同 組合中央会	1878 年（明治 11 年）から続いている秋田県で最大の農業関係イベント。種子交換はもとより、農業に関連する様々な展示、販売等を秋田県内各市を毎年周り、1 週間の会期で開催。	H25. 10. 31 ～ 11. 6	仙北市生保内市民体育館ほか仙北市内数箇所 (秋田県仙北市)
ビジネスマッチ 東北 2013	(社)東北ニュービ ジネス協議会 ／(社)東北地区信 用金庫協会／ (社)東北経済連合 会／東経連ビ ジネスセンター	東北市場におけるビジネスマッチングの創出を目的として「情報・IT」「電気・機械」「環境・くらし・ニュービジネス」「健康・福祉・スポーツ」「食と農」「観光」「企画出展（産学官連携など）」の異ジャンルによる展示商談会として開催。	H25. 11. 7	夢メッセみやぎ (宮城県仙台市)
リエゾン－I マッチングフェア 2013	いわて産学連携 推進協議会 (リエゾン－I)	企業のニーズと大学等研究機関の研究シーズとのマッチングを行うため、研究者と企業担当者との個別相談会として開催。	H25. 11. 20	岩手医科大学 60 周年記念会館（岩手県盛岡市）
食のブランド・ ニッポン 2013	農研機構 森林総合研 国際農林水産研	研究機関が育成した新品種や新たな加工技術等により生産された新食材等を使い、ホテルの一流シェフが創作した料理を紹介するとともに意見交換を目的とし開催。	H25. 11. 27	ホテル日航東京 (東京都江東区)

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所
日本フードサービス協会（JF）バイヤーとの勉強会	日本フードサービス協会	「攻めの農林水産業推進本部」の「新品種・新技術の開発・保護・普及」の取組の中で、実需者ニーズに基づいた業務用や加工用に適した品種開発をテーマに、開発者とバイヤーの意見交換会。	H26. 2. 17	日本フードサービス協会（東京都港区）
第 22 回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会 国産野菜の契約取引マッチングフェア in 東京	（独）農畜産業振興機構 野菜ビジネス協議会	需要が増加している加工・業務用野菜の国内生産を拡大するため、生産者と食品メーカー、外食業者、流通業者など実需者等との交流会を開催。	H26. 3. 12	東京国際会議場（東京都千代田区）
第 8 回 JA グループ国産農畜産物商談会	JA 全農、JA パンク、JA 全中	国産農畜産物の販売力強化を実践するため、地域の農産物・加工品の新たな販売チャネルを創出し、販売先を拡大することを目的としたイベント。全国のこだわりの農畜産物や、JA グループ関係者と一堂に出会える場。	H26. 3. 12 ～ 3. 13	東京国際会議場（東京都千代田区）

4）シンポジウム・セミナー（主催又は共催）

シンポジウム・セミナー・研究会等名称	開催日	開催場所	参加者数
東北地域における鳥獣被害軽減対策課題立案に向けたフィージビリティスタディ研究会（現地視察）	H25. 6. 28	宮城県白石市内	33
東北日本海側地域向け稲わら調製・利用技術の課題化に向けたテーブルリサーチ	H25. 7. 4	東北農業研究センター（盛岡市）	22
第 56 回東北農業試験研究発表会	H25. 7. 31	アイーナ（盛岡市）	338
平成 25 年度東北ソバフォーラム	H25. 9. 18	滝沢村ふるさと交流館（岩手県滝沢村）	76
平成 25 年度ナタネセミナー（新品種・新技術を利用したナタネ生産振興及び拡大のための現地研究会）	H25. 11. 7	ホテルスエヒロ（北海道滝川市）	105
平成 25 年度農研機構セミナー「イネいもち病「圃場抵抗性」は本当に持続的なのか？－抵抗性に関与する遺伝子の最新知見から抵抗性の持続的利用戦略について考える」	H25. 11. 11	つくば国際会議場（茨城県つくば市）	138
農研機構シンポジウム「田畑輪換と地力－今、水田土壌で何がおこっているか・・・それを克服するためには」	H25. 11. 20	滝野川会館（東京都北区）	206

シンポジウム・セミナー・研究会等名称	開催日	開催場所	参加者数
東北地域鳥獣害研究会	H25. 12. 4 ～ 12. 5	東北農業研究センター福島研究拠点（福島市）、二本松市周辺	36
東北農研特別セミナー「次世代東北水田農業を考えるー東北農研大規模圃場開田 50 周年記念ー」	H25. 12. 6	東北農業研究センター（盛岡市）	90
平成 25 年度東北地域マッチングフォーラム「忍び寄る脅威から産地を守るーウリ科野菜ホモプシス根腐病の総合防除対策」	H25. 12. 9	ビッグパレットふくしま（郡山市）	186
平成 25 年度農研機構東北農業研究センターテーブルリサーチーイネばか苗病多発要因の解明とその対策技術の開発についてー	H25. 12. 11	東北農業研究センター（盛岡市）	19
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業の提案内容に関するテーブルリサーチ	H26. 1. 15	東北農業研究センター（盛岡市）	25
予防的鳥獣被害対策についての講演・調査検討会（岩手県版）	H26. 1. 27	いわて県民情報交流センター（アイーナ）研修室 812	45
予防的鳥獣被害対策についての講演・調査検討会（宮城県版）	H26. 2. 10	宮城県自治会館 2 階 200-201 会議室	47
「銀河のちから」試食・意見交換会	H26. 2. 22	岩手県工業技術センター（盛岡市）	115
東北ソバ研究会	H26. 2. 25	仙台合同庁舎（仙台市）	84
予防的鳥獣被害対策についての講演・調査検討会（福島県版）	H26. 3. 23	南相馬市民情報交流センター マルチメディアホール	52
平成 25 年度第 1 回東北農研セミナー	H25. 6. 3	東北農業研究センター（盛岡市）	25
平成 25 年度第 2 回東北農研セミナー	H25. 9. 2	東北農業研究センター（盛岡市）	24
平成 25 年度第 3 回東北農研セミナー	H25. 9. 26	東北農業研究センター（盛岡市）	22
平成 25 年度第 4 回東北農研セミナー	H25. 10. 30	東北農業研究センター（盛岡市）	25
平成 25 年度第 5 回東北農研セミナー	H25. 11. 29	東北農業研究センター福島研究拠点（福島市）	20
平成 25 年度第 6 回東北農研セミナー	H26. 3. 10	東北農業研究センター（盛岡市）	25

5. 図書資料収集・文献提供等

◎収書数

平成 25 年度に収集した図書・資料は以下のとおりである。

	単行書 (冊)							資料 (冊)			
	和書			洋書			合計	和書			
	購入	寄贈 交換	計	購入	寄贈 交換	計		購入	寄贈 交換	計	
本所 (厨川)	73	45	118	0	11	11	129	8	78	86	
(鍋屋敷)	2	0	2	0	0	0	2	1	0	1	
大仙研究拠点	11	0	11	0	0	0	11	0	17	17	
(刈和野)	1	0	1	3	0	3	4	0	17	17	
福島研究拠点	10	2	12	0	0	0	12	20	86	106	
合計	97	47	144	3	11	14	158	29	198	227	
	資料 (冊)				逐次刊行物 (誌)						合計
	洋書			合計	和書			洋書			
	購入	寄贈 交換	計		購入	寄贈 交換	計	購入	寄贈 交換	計	
本所 (厨川)	0	15	15	101	93	462	555	71	18	89	644
(鍋屋敷)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
大仙研究拠点	0	0	0	17	13	97	110	3	3	6	116
(刈和野)	0	0	0	17	7	11	18	0	1	1	19
福島研究拠点	1	19	20	126	42	78	120	0	3	3	123
合計	1	34	35	262	155	648	803	74	25	99	902

管理換え等による収集数・除籍数

	収書数					除籍数				
	単行書	資料	逐次刊行物	合計(冊)	視聴覚資料	単行書	資料	逐次刊行物	合計(冊)	視聴覚資料
本所 (厨川)	0	0	0	0	0	1	33	16	50	0
(鍋屋敷)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大仙研究拠点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(刈和野)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島研究拠点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	1	33	16	50	0

注：視聴覚資料はマイクロフィルム（ロール、フィッシュ）や映像テープをさす。

◎蔵書数

平成 25 年度末の蔵書数は以下のとおりである。

	単行書(冊)			資料(冊)			単行書・資料合計(冊)	
	和書	洋書	計	和書	洋書	計	和書計	洋書計
本所(厨川)	23,284	4,212	27,496	30,037	5,017	35,054	53,321	9,229
(鍋屋敷)	1,379	422	1,801	7,465	1,657	9,122	8,844	2,079
大仙研究拠点	3,246	6,130	9,376	6,673	211	6,884	9,919	6,341
(刈和野)	1,050	170	1,220	1,014	14	1,028	2,064	184
福島研究拠点	4,124	737	4,861	11,160	219	11,379	15,284	956
合計	33,083	11,671	44,754	56,349	7,118	63,467	89,432	18,789
		逐次刊行物(誌)			視聴覚資料等			
	合計	和書	洋書	計	ロールフィルム	フィッシュフィルム	映像テープ	その他
本所(厨川)	62,550	4,903	617	5,520	104	9,243	60	225
(鍋屋敷)	10,923	224	13	237	0	0	0	0
大仙研究拠点	16,260	663	162	825	0	0	0	0
(刈和野)	2,248	15	2	17	0	0	0	0
福島研究拠点	16,240	3,944	1,414	5,358	0	0	0	0
合計	108,221	9,749	2,208	11,957	104	9,243	60	225

◎サービス

平成 25 年度に情報広報課(厨川)及び隔地図書室で行ったサービスは以下のとおりである。

	貸出 冊数	コンテンツ・サービス		文献複写サービス					
		誌数	延べサービス 研究室数	外部への複写依頼件数			外部からの複写依頼件数		
				農水関係 機関	外部機関	合計	農水関係 機関	外部機関	合計
本所(厨川)	221	10	99	128	73	201	102	26	128
(鍋屋敷)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大仙研究拠点	1	0	0	7	10	17	3	0	3
(刈和野)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島研究拠点	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	222	10	99	135	83	218	105	26	131

Ⅲ 連携・研修・技術協力

Ⅲ 連携・研修・技術協力

1. 産学官の連携・協力

1) 産学官連携支援活動

平成19年4月1日に発足した「産学官連携支援センター」では、①新品種や新技術等の研究成果を農業者や農業団体、企業等の実需者にPRするとともに、普及・定着を図ること、②東北農研の保有する研究能力や研究成果を活用した共同研究や共同開発を支援すること、の2つを主な業務として活動している。

(1) 出前技術指導

平成20年度に発足した出前技術指導制度は、東北農研の研究開発した栽培技術、品種、機械等を、農業者、農業団体、企業等の要望に応じて現地に出向いて技術指導を行うものである。平成25年度に実施した技術指導の内容は、「にじゆたか」の栽培技術指導、「水稻の鉄コーティング湛水直播栽培」、「気象予測データを利用した農作物警戒情報システム」、「飼料用米の栽培技術」、「野菜の水耕栽培技術」などと多様であり、実施回数は延べ24回を数えた。

(2) テーブルリサーチ、ミニテーブルリサーチ

農食事業などの競争的資金を活用した産学官連携によるプロジェクト研究、あるいは先端プロなどの大型の現地実証事業について、東北農研が中核機関として企画し提案することを目指して開催している。「テーブルリサーチ」では、構想されている技術開発の必要性や研究計画の妥当性について関係する研究者、有識者を広く集めて素案段階で検討し、「ミニテーブルリサーチ」では、おおむね固まった素案について研究者グループが具体的な研究計画や申請書案を検討する。

平成25年度は、7月4日に「東北日本海側地域向け稲わら調製・利用技術の課題化に向けたテーブルリサーチ」、12月11日に「イネばか苗病多発要因の解明とその対策技術の開発について」、1月15日に「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業の提案内容に関するテーブルリサーチ」を開催した。これらの課題化検討のいく

つかは、革新的技術緊急展開事業（革新プロ）における提案課題の構成と採択に結びついた。

(3) いわて産学連携推進協議会（リエゾナー I）

本協議会は、研究機関会員のシーズと岩手県内企業等のニーズとをマッチングさせることにより新たなビジネスの創出を図り、新産業育成や地域雇用の創出に努めるとともに、研究機関会員の各種研究成果のビジネス化に向けた支援及び外部資金調達の支援を行うことを目的としている。同協議会が9月に発行した「研究シーズ集2013」に、研究シーズ9点を提供した。また、11月20日に岩手医科大学で行われたいわて産学官連携フォーラム（リエゾナー I マッチングフェア2013）に近年の研究成果として新品種「すずこま」、「豊雪姫」、「銀河のちから」、「ゆきはるか」を出展した。

(4) 農研機構シンポジウム、同セミナー

農研機構シンポジウムは、機構の研究成果を社会に情報発信し、その活用を促すとともに、機構の研究活動についての社会的理解の深化・拡大を図る一方で、研究内容や方法をテーマ毎に科学的視点から検討し、研究の展開方向について示唆を得て、研究員の研究基盤の醸成に資するものとして、農研機構が実施主体となり開催している。

平成24年度主要普及成果に選定された「積雪寒冷地域の水稲・大豆の田畑輪換における土壌肥沃度の実態と維持改善法」の普及拡大を目的として、農研機構シンポジウム「田畑輪換と地力ー今、水田土壌で何がおこっているか…それを克服するためにはー」を11月20日に東京都内で開催した。行政・普及機関、教育機関、試験研究機関などから206名の参加者があり、基調講演を含む7題の講演で、寒冷地と暖地それぞれの地力の実態や田畑輪換における作物生産力の変遷などの話題が提供された。

また、農研機構セミナーとして「イネいもち病「圃場抵抗性」は本当に持続的なのか？～抵抗性に関与する遺伝子の最新知見から抵抗性の持続的利用戦略について考える～」を11月11日につくば市で開催した。行政・普及機関、教育機関、試

験研究機関などから 138 名の参加者があり、イネの圃場抵抗性遺伝子の構造と機能の解析、育種現場における圃場抵抗性品種利用の現状と問題点などについて 8 題の講演があった。

2) 行政との連携・協力

(1) 東北地域研究・普及連絡会議

本会議は 19 年度に創設された。25 年度は食料生産地域再生のための先端技術展開事業岩手県版の現地視察の翌日、10 月 23 日に岩手県農業研究センターで開催され、①農林水産技術会議事務局及び生産局技術普及課関連の予算要求、②国の施策で対応すべき技術的課題候補の選定、③農業新技術 2014 候補の選定、④その他意見交換が行われた。②では東北農業試験研究推進会議を通じて各機関より提出された 47 課題、③では同じく 4 課題が了承され、研究推進課に提出されることとなった。④では、農業新技術 200X の普及について、先端技術展開事業の成果の普及展開方法について、それぞれ意見交換があった。

(2) 東北農業新技術実用化促進プロジェクト (1.5 年プロ) 対応

本プロジェクトは、試験研究機関で開発された新技術の実用性について、現地での実証試験等により短期間で検証・評価することを目的としており、東北地域内外の試験研究機関で開発された技術のうち、東北地域内の県域を越えた相当範囲への速やかな導入が期待できる技術を対象としている。25 年度は 24 年度に続いて提案された技術シーズがなく、2 年連続で実施課題が無いことになった。本プロジェクトには予算の裏付けが無く、県域を越えた技術普及の仕組みとして新技術導入広域推進事業などを活用する必要性が指摘されていたが、同事業も 25 年度採択分までとなっている。なお、一部の技術シーズについては先端プロや革新プロの大型現地実証事業の中で課題化されている。

(3) 東北地域農林水産・食品ハイテク研究会対応

役員（所長）、企画委員（企画管理部長）、運営協力（研究調整役）として活動に参画した。7 月

16 日に仙台市内で開催された企画委員会では 24 年度活動報告と 25 年度活動計画が審議された。また、8 月 1 日にホテル法華クラブ仙台で開催された役員会・総会において、25 年度事業計画と予算案が承認された。

東北地域において農林水産省等の競争的資金を活用した産学官連携共同研究の課題化を推進するため、産学官連携共同研究検討会議を開催した。10 月 8 日と 12 月 12 日にいわて県民情報交流センター（盛岡市）において、1 月 23 日に東北農業研究センターにおいて、都合 3 回開催し、研究開発推進委員（競争的資金への応募・採択経験の豊富な各種分野の研究者）、地域アドバイザー（独立行政法人・公設試験研究機関の研究者）等が、競争的資金に応募する共同研究課題について、課題提案者に対する指導・助言を行った。

3) 大学との連携・協力

連携大学院

農研機構は、産学官連携、協力の促進強化のなかで連携大学院制度等を活用し、大学との一層の連携強化を図ることとしている。

東北農研では、平成 18 年度より岩手大学院連合農学研究科と「連携大学院協定」を締結し、大学院生への研究指導を行っている。平成 25 年度は、13 名の研究者が客員教授の発令を受け、大学院教育に参加した。

4) 共同研究・協定研究等の実施状況

分類	共同研究	協定研究	備考
	件数	件数	
国	1	0	
大 学	9	9	
地方公共団体	11	6	
民 間	12	8	
他 独 法	1	4	
そ の 他	1	4	
合 計	35	31	

5) 依頼による分析・同定の実施状況

依頼分析・同定の件名	分析点数	依頼を受けた日	延べ日数
血中プロスタグランジン代謝産物の測定	20点	H25.10.17	2日
土壌の放射性Cs、交換性K、交換性放射性Cs分析	10点	H25.12.22	10日
稲体の放射性Cs濃度の分析	20点	H25.11.22	10日
稲体の放射性Cs濃度の分析	50点	H25.12.5	5日

6) 開放型研究施設の利用状況

1. 共同利用した施設一覧

共同利用した施設・機械等
温度勾配実験施設
機能性評価実験棟

2. 機構外部からの利用状況

利用者の類型	利用実績（単位：延べ人数）		
	温度勾配実験施設	機能性評価実験棟	計
他独法職員			0
大学等	1,307	25	1,332
公立試験研究機関		20	20
民間		11	11
その他		2	2
合計	1,307	58	1,365

3. 機構外部からの利用目的

利用目的の類型	利用実績（単位：延べ人数）		
	温度勾配実験施設	機能性評価実験棟	計
共同研究		14	14
協定研究	496		496
依頼研究員		9	9
研修・講習等	296	26	322
その他	515	9	524
合計	1,307	58	1,365

2. 研究者の受入れ等

1) 交流

流動研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

2) 留学

国内留学

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

3) 研修・講習等

依頼研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
熊本県農業研究センター草地畜産研究所	1	食肉の品質に関する研究	畜産飼料作研究領域	H25. 10. 1 ~ H25. 12. 19

技術講習生

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
岩手大学農学部	1	オキシトシン負荷試験を利用したウシ胚生存性の評価	畜産飼料作研究領域	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 28
岩手大学大学院農学研究科	2	肥育牛の枝肉解体研修	畜産飼料作研究領域	H25. 4. 9 ~ H25. 4. 25
岩手大学農学部	3	肥育牛の枝肉解体研修	畜産飼料作研究領域	H25. 4. 9 ~ H25. 4. 25
岩手大学大学院農学研究科	2	筋肉中の脂肪酸組成およびアミノ酸含量の分析	畜産飼料作研究領域	H25. 4. 9 ~ H26. 1. 31
東北大学大学院農学研究科	1	温度勾配チャンバーを用いたダイズの温度・CO ₂ 応答実験・解析手法の習得	生産環境研究領域	H25. 6. 1 ~ H25. 12. 28
東北大学農学部	1	温度勾配チャンバーを用いたダイズの温度・CO ₂ 応答実験・解析手法の習得	生産環境研究領域	H25. 6. 1 ~ H25. 12. 28
岩手大学大学院農学研究科	1	人工気象室下におけるイネ遺伝子解析のためのサンプリング手法の習得	生産基盤研究領域	H25. 6. 10 ~ H25. 10. 31

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
岐阜大学大学院 連合獣医学研究 科（アフガニス タン）	1	ホルスタイン種の過剰排 卵処置法に関する一連の 技術	畜産飼料作研究領域	H25. 7. 1 ～ H25. 11. 29
京都大学大学院 農学研究科（イ ンドネシア）	1	携帯型光合成測定装置の 使用方法および作物の個 葉光合成速度の解析手法 の習得	生産環境研究領域	H25. 7. 30 ～ H25. 8. 6
宮城大学食産業 学部	2	家畜の快適性評価を中心 とした畜産飼料作研究の 最前線	畜産飼料作研究領域	H25. 8. 19 ～ H25. 8. 23
岩手大学農学部	1	温度・CO ₂ 濃度上昇が大 豆等に及ぼす影響解明	生産環境研究領域	H25. 8. 19 ～ H25. 8. 30
岩手大学農学部 獣医学課程	1	牛における胚生存性に関 する指標の検索に関する 研究	畜産飼料作研究領域	H25. 9. 2 ～ H26. 3. 31
岩手大学農学部	1	寒高冷地野菜の育種	畑作園芸研究領域	H25. 9. 9 ～ H25. 9. 13
岩手県農業研究 センター畜産研 究所	1	飼料中アミノ酸分析、ロ ース肉中アミノ酸分析、 ロース肉せん断力価、ロ ース肉クッキングロス	畜産飼料作研究領域	H25. 9. 17 ～ H25. 9. 30
岩手大学農学部	2	筋肉中の脂肪酸組成およ びアミノ酸含量の分析	畜産飼料作研究領域	H25. 11. 1 ～ H26. 1. 31
岩手県農業研究 センター畜産研 究所	1	ロース肉中アミノ酸分析、 ロース肉せん断力価、ロ ース肉クッキングロス	畜産飼料作研究領域	H25. 11. 25 ～ H25. 12. 27
山形県農業総合 研究センター養 豚試験場	1	食肉の剪断力価の測定法 技術習得	畜産飼料作研究領域	H25. 11. 25 ～ H25. 12. 26
岩手大学農学部 非常勤職員	1	ナタネ油含量抽出操作お よび分析手法の習得	畑作園芸研究領域	H25. 12. 2 ～ H26. 1. 31
自営農業	1	牛の人工授精技術習得に 関する研修	畜産飼料作研究領域	H26. 3. 3 ～ H26. 3. 28

国際協力事業団研修員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

国際農林水産業研究センター招へい

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

4) 外部研究者
招へい研究員

所 属	人 数	目 的	受入研究領域等	期 間
中国／瀋陽農業 大学	1	直立穂水稻品種に関する 共同研究	水田作研究領域	H25. 8. 12～H25. 8. 20 H25. 10. 16～H25. 10. 21

日本学術振興会事業外国人特別研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

日本学術振興会事業特別研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

5) その他

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

3. 研究者の派遣等

1) 交流
流動研究員

所 属	人 数	課 題 名	派 遣 先	期 間
	なし			

2) 留学
国内留学

所 属	人 数	課 題 名	留 学 先	期 間
	なし			

長期在外研究員

所 属	人 数	課 題 名	派 遣 先 国	期 間
	なし			

3) その他

海外派遣

所 属	人 数	目 的	派 遣 先 国	期 間
生産基盤研究領域	3	ドイツにおけるナタネ生産及びバイオ燃料の持続可能性に関する調査実証的研究	ドイツ	H25. 11. 8～H25. 11. 15
畜産飼料作研究領域	1	RSPCA Lecture 出席および研究所視察	オーストラリア	H26. 2. 16～H26. 2. 20

4. 技術協力・指導

1) 研修会等への講師派遣

平成 25 年度に技術指導等の講師派遣依頼を受けた内容は以下のとおりである。

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
畑作園芸研究領域	春まきたまねぎの育苗について	H25. 4. 11	南相馬市	NPO法人日本プロ農業総合支援機構
畑作園芸研究領域	第 1 回加工・業務用タマネギ研究会	H25. 4. 25	千代田区	全国農業協同組合連合会
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稲直播栽培	H25. 5. 30	登米市	JAみやぎ登米豊里稲作部会
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稲直播栽培	H25. 5. 30	登米市	JAみやぎ登米豊里稲作部会
畑作園芸研究領域	タマネギの生育状況の確認、今後の栽培の注意点等	H25. 6. 6	南相馬市	NPO法人日本プロ農業総合支援機構
生産環境研究領域	(出前技術指導) Google Mapによる気象予測データを利用した農作物警戒情報システムの概要説明	H25. 6. 27	郡山市	福島県農業会議
生産基盤研究領域	第13回日本抗加齢医学会総会会長特別企画「ふるさとアンチエイジング」	H25. 6. 29	横浜市	第13回日本抗加齢医学会総会
水田作研究領域	(出前技術指導) 萌えみのり直播現地検討会	H25. 7. 10	登米市	JAみやぎ登米豊里稲作部会
畑作園芸研究領域	登米アグリビジネス企業家育成塾に係る講義	H25. 7. 10	登米市	登米市

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
水田作研究領域	(出前技術指導) 蒔えみのり直播技術指導	H25. 7. 17	湯沢市	こまち農業協同組合東部総合支店
農業放射線研究センター	秋田県立大学生物環境科学セミナーでの講演	H25. 7. 19 ～7. 20	秋田市	秋田県立大学生物資源科学部生物環境科学科
畑作園芸研究領域	複合生態フィールド教育研究センター第11回国際シンポジウム	H25. 8. 1 ～8. 2	松島町	東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター
水田作研究領域	全国農業システム化研究会・大豆安定生産促進事業平成25年度大豆全国現地検討会	H25. 8. 8	酒田市	(一社)全国農業改良普及支援協会
水田作研究領域	(出前技術指導) 田畑輪換における土壌肥沃土の実態とそこから見えてくる維持改善法	H25. 8. 26	大仙市	秋田県農林水産部
環境保全型農業研究領域	東北大豆シンポジウムinみやぎ	H25. 9. 6	大崎市	東北地域大豆振興協議会(東北農政局生産部)
生産基盤研究領域	東北土を考える会夏季研修会	H25. 9. 6	松島町	東北土を考える会
生産基盤研究領域	平成25年度革新的農業技術習得支援事業「園芸施設の低コスト構造・環境制御技術」講師	H25. 9. 11	つくば市	農村工学研究所
生産基盤研究領域	国産菜種油プロジェクト学習会	H25. 9. 12 ～9. 13	新宿区	パルシステム生活協同組合連合会
生産基盤研究領域	国産菜種油プロジェクト学習会	H25. 9. 12 ～9. 13	新宿区	パルシステム生活協同組合連合会
畜産飼料作研究領域	平成25年度中央畜産技術研修会(放牧)	H25. 9. 25	西郷村	農林水産省生産局
畑作園芸研究領域	春まきタマネギの栽培に関する考察等	H25. 9. 30	南相馬市	NPO法人日本プロ農業総合支援機構
農業放射線研究センター	平成25年度第4回農業懇話会	H25. 10. 1	港区	(公社)大日本農会、(一社)農林水産奨励会
畑作園芸研究領域	夏秋イチゴセミナー	H25. 10. 8	六戸町	青森県農林水産部農産園芸課
畜産飼料作研究領域	平成25年度革新的農業技術に関する研修会「牛群の発情同期化技術」講師	H25. 10. 14 ～10. 17	合志市	九州沖縄農業研究センター
生産環境研究領域	平成25年度野菜茶業課題別研究会「ネギアザミウマを巡る諸問題とアザミウマ類防除の新展開」講師	H25. 10. 17 ～10. 18	名古屋市	野菜茶業研究所

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
生産基盤研究領域	第80回食品技術講習会「農産物・食品の総抗酸化能測定法（ORAC法）講習会」講師	H25. 10. 21 ～10. 23	合志市	食品総合研究所
研究支援センター業務第1科	平成25年度農研機構シンポジウム「地域資源を活用した効率的施肥技術による資源循環型作物生産」講師	H25. 10. 30 ～10. 31	東京都北区	中央農業総合研究センター
生産基盤研究領域	平成25年度革新的農業技術習得支援事業のうち革新的農業技術に関する研修「飼料イネ・飼料米等の生産・給与技術」講師	H25. 10. 31 ～11. 1	那須塩原市	畜産草地研究所
生産基盤研究領域	平成25年度営農指導員筆記試験講習会	H25. 11. 8	紫波町	JA岩手県中央会
畑作園芸研究領域	第2回加工・業務用タマネギ研究会	H25. 11. 13	千代田区	全国農業協同組合連合会
水田作研究領域	(出前技術指導) 鉄コーティング直播検討会	H25. 11. 13	大仙市	アグリサービス 中仙
生産基盤研究領域	土づくり研究会	H25. 11. 19	仙台市	全国農業協同組合連合会東北肥料農薬事業所長
農業放射線研究センター	平成25年度鳥獣被害防止研修会	H25. 11. 20	仙台市	宮城県
生産環境研究領域	平成25年度野菜茶業試験研究推進会議野菜病虫害部会野菜病虫害研究会講師	H25. 11. 21 ～11. 22	津市	野菜茶業研究所
環境保全型農業研究領域	平成25年度野菜茶業試験研究推進会議野菜病虫害部会野菜病虫害研究会講師	H25. 11. 21 ～11. 22	津市	野菜茶業研究所
生産基盤研究領域	復旧農地における大規模水田農業モデル経営体育成に向けた研修会講師	H25. 11. 22	名取市	宮城県農林水産部
生産基盤研究領域	(出前技術指導) ナタネの栽培と搾油	H25. 12. 1	雫石町	菜の雫ファンクラブ
畑作園芸研究領域	(出前技術指導) ナタネ油の健康機能性	H25. 12. 1	雫石町	菜の雫ファンクラブ
生産基盤研究領域	平成25年度「飼料イネ・TMRセンターに関する情報交換会」－国産飼料プロの成果を中心に－講師	H25. 12. 4 ～12. 5	港区	畜産草地研究所
畑作園芸研究領域	(出前技術指導) クッキングトマトについて	H25. 12. 16	滝沢村	JA新しいわて生活福祉部生活課
農業放射線研究センター	第240回生存圏シンポジウム	H25. 12. 19 ～12. 21	宇治市	京都大学生存圏研究所
環境保全型農業研究領域	平成25年度登米地域園芸特産振興研修会	H25. 12. 20	登米市	宮城県東部地方振興事務所長
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稲朝紫の移植・直播の安定生産技術	H26. 1. 10	大仙市	大仙市古代稲生産組合

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
水田作研究領域	(出前技術指導) 湛水直播・移植における難雑草防除法	H26. 1. 10	大仙市	大仙市古代稲生産組合
水田作研究領域	シンポジウム「農業生産基盤の変化と病虫害防除技術を考える」	H26. 1. 15 ～1. 17	千代田区	(一社)日本植物防疫協会
生産基盤研究領域	シンポジウム「農業生産基盤の変化と病虫害防除技術を考える」	H26. 1. 16 ～1. 17	千代田区	(一社)日本植物防疫協会
生産基盤研究領域	大潟村有機農業推進協議会勉強会	H26. 1. 23 ～1. 24	大潟村	大潟村有機農業推進協議会
水田作研究領域	大潟村有機農業推進協議会勉強会	H26. 1. 23 ～1. 24	大潟村	大潟村有機農業推進協議会
農業放射線研究センター	平成25年度大河原地区鳥獣害対策研修会	H26. 1. 29	大河原町	宮城県大河原地方振興事務所
生産環境研究領域	平成25年度北海道・東北地区植物防疫職員等技術研修会講師	H26. 1. 31	仙台市	東北農政局
生産環境研究領域	農作物の病虫害ならびに雑草に係る講演会	H26. 1. 31	登米市	迫地方農作物防疫協議会
水田作研究領域	農作物の病虫害ならびに雑草に係る講演会	H26. 1. 31	登米市	迫地方農作物防疫協議会
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稻の栽培技術	H26. 2. 5	大仙市	秋田県大仙市農林商工部
畑作園芸研究領域	(出前技術指導) 野菜の水耕栽培技術	H26. 2. 5	大仙市	秋田県大仙市農林商工部
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稻直播栽培の雑草防除と難防除雑草の対策	H26. 2. 5	大仙市	JA秋田おぼこ仙北営農センター
水田作研究領域	(出前技術指導) 多収性品種(飼料米)の栽培技術	H26. 2. 7	山形県川西町	置賜地区飼料米生産利用協議会
生産環境研究領域	平成25年度岩手県病虫害防除連絡協議会・岩手県病虫害防除員協議会合同研修会講師	H26. 2. 7	北上市	岩手県病虫害防除員協議会
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稻直播栽培と東北地域の多収米	H26. 2. 14	栗原市	株式会社ヤマタネ
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稻直播栽培と東北地域の多収米	H26. 2. 14	栗原市	株式会社ヤマタネ
水田作研究領域	(出前技術指導) 萌えみのり等の水稻鉄コーティング直播栽培	H26. 2. 20	大崎市	小泉商事(株)
水田作研究領域	第3回一関地方水稻直播栽培研修会	H26. 2. 25	一関市	一関農業改良普及センター
水田作研究領域	(出前技術指導) 飼料用米栽培講習会	H26. 2. 25	宮城県加美町	JA加美よつば営農販売部

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
水田作研究領域	平成25年度関東東海北陸農業試験研究推進会議北陸農業部会水稻育種技術研究会講師	H26. 2. 27 ～3. 1	上越市	中央農業総合研究センター
畑作園芸研究領域	そば活性化推進会議	H26. 3. 3	十和田市	青森県上北地域県民局
生産環境研究領域	第4回農研機構新技術説明会講師	H26. 3. 4	千代田区	農研機構本部
畑作園芸研究領域	平成25年度石巻地域園芸作物振興研修会	H26. 3. 5	石巻市	宮城県東部地方振興事務所長
生産基盤研究領域	乾田直播栽培に関する講演	H26. 3. 10	名取市	(株)クボタ
畑作園芸研究領域	2013年度第3回農研機構産学官連携交流セミナー講師	H26. 3. 12	千代田区	農研機構本部
畑作園芸研究領域	2013年度第3回農研機構産学官連携交流セミナー講師	H26. 3. 12	千代田区	農研機構本部
水田作研究領域	「えみのあき」「萌えみのり」の種子を鉄コーティングする際の一連の作業指導、湛水散播における技術指導	H26. 3. 13 ～3. 14	佐渡市	(株)ネクストビジネスサービス
畑作園芸研究領域	ゆきちから栽培技術検討会	H26. 3. 18 ～3. 19	喜多方市	喜多方市農業振興協議会
畜産飼料作研究領域	平成25年度農研機構シンポジウム「牛の受胎率向上に向けた雌雄両側からの研究アプローチ」講師	H26. 3. 26	つくば市	畜産草地研究所
畜産飼料作研究領域	平成25年度農研機構シンポジウム「牛の受胎率向上に向けた雌雄両側からの研究アプローチ」講師	H26. 3. 26	つくば市	畜産草地研究所

2) 海外出張

平成25年度に研究・調査・指導等の派遣依頼を受けた海外出張は以下のとおりである。

所 属	内 容	期 間	出張先	依 頼 者
畑作園芸研究領域	日本のソバ研究の紹介（育種、栽培、食品加工）	H25. 10. 24 ～H25. 10. 29	中国／吉林省白城市農業科学院	中国／吉林省白城市農業科学院
生産環境研究領域	台湾の養殖地における伏流式人口湿地ろ過システムの利用可能性調査並びに国立台湾海洋大学との意見交換	H25. 12. 9 ～H25. 12. 12	台湾／国立台湾海洋大学	株式会社トリム
水田作研究領域	パプアニューギニア・小規模稲作振興プロジェクト（フェーズ2）短期派遣専門家（土壌肥料）	H26. 2. 15 ～H26. 3. 15	パプアニューギニア	JICA
生産基盤研究領域	ベトナム・メコンデルタ地域における効果的農業手法・普及システム改善プロジェクト短期派遣専門家（農業経済分析）	H26. 2. 23 ～H26. 3. 15	ベトナム	JICA

3) 講習会等の開催

平成 25 年度に開催した行政・普及部局、農業者等を対象とした講習会、講演会は以下のとおりである。

講習会・講演会名	開催日	参加人数	講師
平成25年度普及指導員等研修（農政課題解決研修）「水稻の直播栽培技術」（革新的農業技術習得支援事業）	H25. 9. 2 ～9. 3	11	水田作研究領域 生産基盤研究領域 中央農業総合研究センター

5. 国際会議・研究集会（参加）

平成 25 年度に国際会議及び研究集会に参加した内容は次のとおりである。

なお、発表者として参加した場合、発表内容は「Ⅱ 研究情報活動」に記載してある。

所 属	期 間	会 議 名	開 催 場 所
生産基盤研究領域	H25. 6. 1 ～H25. 6. 9	第21回ヨーロッパバイオマス会議・展示会	デンマーク
畑作園芸研究領域	H25. 6. 16 ～H25. 6. 23	The International Symposium on Growing Media and Soilless Cultivation (GroSci2013)	オランダ
畑作園芸研究領域	H25. 8. 18 ～H25. 8. 28	第12回国際ソバシンポジウム	スロベニア
水田作研究領域	H25. 8. 19 ～H25. 8. 24	第6回国際いもち病会議	韓国
企画管理部	H25. 8. 21 ～H25. 8. 27	第11回国際疫学ワークショップ	中国
生産環境研究領域	H25. 10. 14 ～H25. 10. 17	第5回水質汚濁の動態と制御に関する国際会議	フランス
水田作研究領域	H25. 10. 18 ～H25. 10. 26	東・東南アジア土壌科学連合国際会議	インドネシア
農業放射線研究センター	H25. 10. 29 ～H25. 11. 2	第12回国際水田・水環境工学会	韓国
農業放射線研究センター	H25. 11. 3 ～H25. 11. 9	アメリカ農学会、アメリカ作物学会、アメリカ土壌科学合同国際会議	アメリカ
畑作園芸研究領域	H26. 1. 10 ～H26. 1. 16	第22回動植物ゲノム国際会議	アメリカ
畜産飼料作研究領域	H26. 1. 11 ～H26. 1. 17	第22回動植物ゲノム国際会議	アメリカ
畑作園芸研究領域	H26. 2. 14 ～H26. 2. 21	植物遺伝子の発見と“オミックス”技術会議	オーストラリア

IV 諸会議一覽

IV 諸会議一覧

1. 東北農業研究センター運営委員会

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
平成25年度東北農業研究センター運営委員会	H25. 10. 9 ～10. 10	福島市	東北農業研究センター 所長

2. 東北農業研究センター研究課題検討会

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
畑作園芸研究領域（野菜花きグループ）検討会	H25. 12. 12	盛岡市	畑作園芸研究領域長
畑作園芸研究領域（畑作物育種グループ）検討会	H25. 12. 16	盛岡市	畑作園芸研究領域長
生産基盤研究領域検討会	H25. 12. 18 ～12. 19	盛岡市	生産基盤研究領域長
畜産飼料作研究領域検討会	H25. 12. 20	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
環境保全型農業研究領域・農業放射線研究センター検討会	H25. 12. 26	福島市	環境保全型農業研究領域長・農業放射線研究センター長
水田作研究領域検討会	H26. 1. 9 ～ 1. 10	大仙市	水田作研究領域長
生産環境研究領域検討会	H26. 1. 17	盛岡市	生産環境研究領域長

3. 東北農業研究センター試験研究推進会議

1) 研究戦略会議・推進部会等

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
東北農業試験研究推進会議 研究戦略会議	H25. 10. 17	盛岡市	企画管理部長
東北農業試験研究推進会議 果樹推進部会	H26. 1. 27 ～ 1. 28	盛岡市	果樹研究所リンゴ研究領域長
東北農業試験研究推進会議 生産環境推進部会	H26. 1. 30	盛岡市	生産環境研究領域長
東北農業試験研究推進会議 稲推進部会	H26. 1. 30	盛岡市	水田作研究領域長
東北農業試験研究推進会議 畑作物推進部会	H26. 1. 30	盛岡市	農業放射線研究センター長
東北農業試験研究推進会議 畜産飼料作推進部会	H26. 1. 30 ～ 1. 31	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
東北農業試験研究推進会議 野菜花き推進部会	H26. 2. 3 ～ 2. 4	盛岡市	畑作園芸研究領域長

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
東北農業試験研究推進会議 農業生産基盤推進部会	H26. 2. 5	盛岡市	生産基盤研究領域長
東北農業試験研究推進会議 本会議	H26. 2. 19	盛岡市	東北農業研究センター 所長

2) 検討会・研究会

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
土壌肥料研究会（夏期）（生産環境推進部会）	H25. 7. 9 ～ 7. 10	郡山市	生産環境研究領域長
野菜研究会（夏期）（野菜花き推進部会）	H25. 7. 18 ～ 7. 19	仙台市	畑作園芸研究領域長
畑作物栽培研究会（夏期）（畑作物推進部会）	H25. 8. 21 ～ 8. 22	大崎市、名取市	農業放射線研究センター長
作業技術研究会（夏期）（農業生産基盤推進部会）	H25. 8. 22 ～ 8. 23	郡山市、福島市	生産基盤研究領域長
直播研究会並びに水稲直播等低コスト技術現地検討会（稲推進部会）	H25. 8. 22 ～ 8. 23	盛岡市	水田作研究領域長
果樹推進部会及び寒冷地果樹合同現地研究会	H25. 8. 22 ～ 8. 23	北上市	果樹推進部会長 （果樹研究所リンゴ研究領域長）
花き研究会（夏期）（野菜花き推進部会）	H25. 8. 27 ～ 8. 28	須賀川市、郡山市	畑作園芸研究領域長
畜産研究会（夏期）（畜産飼料作推進部会）	H25. 8. 28 ～ 8. 29	山形市	畜産飼料作研究領域長
東北地域水稲品種系統立毛検討会（稲推進部会）	H25. 8. 29 ～ 8. 30	黒石市、十和田市	水田作研究領域長
東北地域麦・なたね品種・系統検討会（畑作物推進部会）	H25. 9. 2	盛岡市	環境保全型農業研究領域長
農業経営研究会（夏期）（農業生産基盤推進部会）	H25. 9. 3	盛岡市	生産基盤研究領域長
病虫害研究会（夏期）（生産環境推進部会）	H25. 9. 3 ～ 9. 4	大仙市	生産環境研究領域長
ソバ研究会（東北ソバフォーラム）（畑作物推進部会）	H25. 9. 18	岩手県滝沢村	環境保全型農業研究領域長
農業生産基盤推進部会合同研究会（農業経営、作業技術、流通・加工）	H25. 11. 5	盛岡市	生産基盤研究領域長
稲品種検討会（稲推進部会）	H26. 1. 28 ～ 1. 29	盛岡市	水田作研究領域長
稲栽培研究会（稲推進部会）	H26. 1. 28 ～ 1. 29	盛岡市	水田作研究領域長

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
直播研究会（稲推進部会）	H26. 1. 29	盛岡市	水田作研究領域長
畑作物品種検討会（畑作物推進部会）	H26. 1. 29	盛岡市	環境保全型農業研究領域長
畑作物栽培研究会（畑作物推進部会）	H26. 1. 29	盛岡市	環境保全型農業研究領域長
土壌肥料研究会（生産環境推進部会）	H26. 1. 29 ～ 1. 30	盛岡市	生産環境研究領域長
病虫害研究会（生産環境推進部会）	H26. 1. 29 ～ 1. 30	盛岡市	生産環境研究領域長
農業気象研究会（生産環境推進部会）	H26. 1. 30	盛岡市	生産環境研究領域長
流通加工研究会（農業生産基盤推進部会）	H26. 2. 4	盛岡市	生産基盤研究領域長
農業経営研究会（農業生産基盤推進部会）	H26. 2. 4 ～ 2. 5	盛岡市	生産基盤研究領域長
作業技術研究会（農業生産基盤推進部会）	H26. 2. 4 ～ 2. 5	盛岡市	生産基盤研究領域長
東北ソバ研究会（畑作物推進部会）	H26. 2. 25	仙台市	環境保全型農業研究領域長

4. 共催・後援等

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
第56回東北農業試験研究発表会（主催：東北農業試験研究協議会）	H25. 7. 31	盛岡市	東北農業試験研究協議会
平成25年度東北地域マッチングフォーラム「忍び寄る脅威から産地を守るーウリ科野菜ホモプシス根腐病の総合防除対策ー」（主催：農林水産技術会議事務局）	H25. 12. 9	郡山市	産学官連携支援センター
「銀河のちから」試食・意見交換会（主催：岩手県農業再生協議会、岩手県工業技術センター）	H26. 2. 26	盛岡市	産学官連携支援センター

5. その他

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「中小区画土地利用型営農技術の実証研究」課題担当者打合せ会議（テレビ会議）	H25. 4. 26	盛岡市、大仙市、つくば市、福山市	水田作研究領域長
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「中小区画土地利用型営農技術の実証研究」キックオフミーティング	H25. 6. 12 ～ 6. 13	陸前高田市、北上市	水田作研究領域長

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「東北・北陸地域における新作物型開発によるタマネギの端境期生産体系の確立」平成 25 年度現地検討会	H25. 6. 26	酒田市、鶴岡市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「転炉スラグによる土壌 pH 矯正を核としたフザリウム性土壌病害の耕種的防除技術の開発」研究計画検討会及び現地検討会	H25. 6. 26 ～ 6. 27	弘前市、黒石市、岩手町	生産環境研究領域病害虫グループ
東北地域における鳥獣被害軽減対策課題立案に向けたフィージビリティスタディ研究会	H25. 6. 28	白石市	業務推進室
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「土地利用型営農技術の実証研究」平成 25 年度現地検討会	H25. 7. 2 ～ 7. 3	名取市	生産基盤研究領域長
東北日本海側地域向け稲わら調製・利用技術の課題化に向けたテーブルリサーチ	H25. 7. 4	盛岡市	産学官連携支援センター
平成 25 年度農水省委託プロジェクト「農作物に対応した放射性物質移行低減対策技術の開発」計画検討会	H25. 7. 31	郡山市	環境保全型農業研究領域環境保全グループ
第 8 回やませ研究会（古川大会）	H25. 8. 20 ～ 8. 21	大崎市	生産環境研究領域農業気象グループ
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「露地園芸技術の実証研究」現地検討会	H25. 9. 24 ～ 9. 25	名取市、岩沼市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「涼しい夏を活かす！国産夏秋イチゴ安定多収技術の開発・実証」平成 25 年度現地検討会	H25. 10. 3 ～ 10. 4	陸前高田市、北上市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「東北・北陸地域における新作物型開発によるタマネギの端境期生産体系の確立」平成 25 年度研究推進会議	H25. 10. 9	盛岡市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「中小区画土地利用」平成 25 年度現地検討会	H25. 10. 22	陸前高田市	水田作研究領域長
平成 25 年度ナタネセミナー：新品種・新技術を利用したナタネ生産振興及び拡大のための現地研究会	H25. 11. 7	滝川市	畑作園芸研究領域長
平成 25 年度農研機構セミナー「イネいもち病「圃場抵抗性」は本当に持続的なのか？～抵抗性に関与する遺伝子の最新知見から抵抗性の持続的利用戦略について考える～」	H25. 11. 11	つくば市	産学官連携支援センター
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「寒冷地向き高品質・多収フェストロリウム利用のための現地研究会」	H25. 11. 12	三沢市	畜産飼料作研究領域長
農研機構シンポジウム「田畑輪換と地力ー今水田土壌で何がおこっているのか…それを克服するためにはー」	H25. 11. 20	東京都北区	産学官連携支援センター

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
東北地域鳥獣害研究会	H25. 12. 4 ～12. 5	福島市	業務推進室長
東北農研特別セミナー『次世代東北水田農業を考える ー東北農研大規模圃場開田 50 周年記念ー』	H25. 12. 6	盛岡市	業務推進室長
平成 25 年度「排水条件が劣悪な環境下における地下 水位制御システムの有用性の実証」現地実証試験検討 会	H25. 12. 11	秋田県大潟村	水田作研究領域水田作 グループ
平成 25 年度農研機構東北農業研究センターテーブ ルリサーチーイネばか苗病多発要因の解明とその対策 技術の開発についてー	H25. 12. 11	盛岡市	産学官連携支援セン ター
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「中小 区画土地利用型営農技術の実証研究」平成 25 年度成 績検討会	H25. 12. 17	盛岡市	水田作研究領域長
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展 開事業の提案内容に関するテーブルリサーチ	H26. 1. 15	盛岡市	産学官連携支援セン ター
予防的鳥獣害対策についての講演・調査検討会	①H26. 1. 27 ②H26. 2. 10 ③H26. 3. 23	①盛岡市 ②仙台市 ③南相馬市	業務推進室長
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「転 炉スラグによる土壌 pH 矯正を核としたフザリウム性土 壌病害の耕種的防除技術の開発」平成 25 年度推進 会議	H26. 2. 3 ～ 2. 4	盛岡市	生産環境研究領域病害 虫グループ
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「中 小区画土地利用型営農技術の実証研究」研究成果報 告会	H26. 2. 4	陸前高田市	水田作研究領域長
平成 25 年度農水省委託プロジェクト「農作物に 対応した放射性物質移行低減対策技術の開発」成 績検討会	H26. 2. 5	郡山市	環境保全型農業研究領 域環境保全グループ
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「土 地利用型営農技術の実証研究」平成 25 年度推進 会議	H26. 2. 6 ～ 2. 7	盛岡市	生産基盤研究領域長
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「涼 しい夏を活かす！国産夏秋イチゴ安定多収技術の 開発・実証」平成 25 年度推進会議	H26. 2. 10	盛岡市	畑作園芸研究領域野菜 花きグループ
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「露 地園芸技術の実証研究」平成 25 年度研究推進 会議	H26. 2. 17 ～ 2. 18	名取市	畑作園芸研究領域野菜 花きグループ
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「中 小区画土地利用型営農技術の実証研究」推進 会議	H26. 2. 20	盛岡市	水田作研究領域長
第 9 回やませ研究会（盛岡大会）	H26. 3. 10 ～ 3. 11	盛岡市	生産環境研究領域農業 気象グループ

V 表彰・学会賞等

V 表彰・学会賞等

学会賞等

氏名	所属	表彰名	受賞年月日	功績名
信濃 卓郎	農業放射線 研究センター	日本土壤微生物学会 最優秀ポスター賞	H25. 6. 21	ジャガイモ根関連細菌の培養解析
松尾 健太郎	畑作園芸 研究領域	農業機械学会東北支 部 奨励賞	H25. 8. 22	溝を利用した栽培装置の研究
深澤 充	畜産飼料作 研究領域	東北畜産学会大会 優秀発表賞	H25. 8. 30	北東北の酪農家における暑熱の影響 についての実態調査
小松 篤司	〃	〃	〃	〃
東山 由美	〃	〃	〃	〃
冠 秀昭	生産基盤 研究領域	農業農村工学会賞 (優秀論文賞)	H25. 9. 3	縦浸透除塩の有効性と宮城県の津波 被災農地の除塩対策
信濃 卓郎	農業放射線 研究センター	日本土壤肥料学会 優秀ポスター賞	H25. 9. 12	ダイズ根系が根圏土壤へ分泌した有 機物の可視化と定量解析
石川 吾郎	畑作園芸 研究領域	国際コムギ遺伝学シ ンポジウムベストポ スター賞	H25. 9. 14	A consistent QTL for flour yield on chromosome 3B in the soft winter wheat variety, Kitahonami
伊藤 裕之	〃	〃	〃	〃
齋藤 美香	〃	〃	〃	〃
中村 俊樹	〃	〃	〃	〃
冠 秀昭	生産基盤 研究領域	土壤物理学会賞 (論文賞)	H25. 10. 26	電磁探査法による津波浸水農地の土 壤電気伝導度迅速調査法
関矢 博幸	〃	〃	〃	〃
大谷 隆二	〃	〃	〃	〃
由比 進	畑作園芸 研究領域	日本生物教育学会・ 学会賞・論文賞	H26. 1. 11	遺伝教材に適した栽培植物の選定 — トマトの例 —
大久保さゆり	生産環境 研究領域	日本農業気象学会 優秀ポスター賞	H26. 3. 19	複雑地形地域における気温メッシュ データの展開可能性の検討
菅野 洋光	〃	〃	〃	〃
梶 亮太	水田作 研究領域	日本育種学会賞 (グループ賞)	H26. 3. 21	高温登熟耐性を有する西日本向け良 食味・良質・安定多収水稻品種「に こまる」「きぬむすめ」の育成
村上 敏文	研究支援センター 業務第4科	日本作物学会論文賞	H26. 3. 29	東北地方太平洋沖地震により茨城県 稲敷市の水田で発生したオオムギの 噴砂被害と湿害
小林 浩幸	環境保全型 農業研究領域	日本雑草学会感謝状	H26. 3. 29	放射性物質に汚染された農地におけ る雑草管理に関する研究活動

その他の表彰

氏 名	所 属	表 彰 名	受賞年月日	功 績 名
三浦 幸浩	研究支援センター 業 務 第 1 科	創意工夫功労者賞	H25. 4. 15	放牧牛の咀嚼測定器装着に有効な頭 絡の考案
大森 勇人	研究支援センター 業 務 第 2 科	〃	〃	〃
熊谷 朋広	〃	〃	〃	〃

VI 各種委員会

VI 各種委員会

1. 法令等に基づく委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
遺伝子組換え生物等第二種使用実験安全委員会	委員の互選による	所内の関係者から若干名、所外の学識経験者から若干名、安全主任者及び副主任者若干名	実験計画の法令及び要領に対する適合性に関すること	業務推進室
職務発明審査会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役及び研究調整役	職務発明の認定、特許出願等に関すること	業務推進室
職務作成プログラム審査会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役及び研究調整役	職務作成プログラムの審査等に関すること	業務推進室
職務育成品種審査会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役及び研究調整役	職務育成品種、品種登録出願等に関すること	業務推進室
毒物劇物等管理委員会	企画管理部長	研究領域長、審議役、センター長、毒物劇物等管理責任者（数名）	毒物劇物等管理責任者が行う必要な指示等に関すること	業務推進室
特定調達契約審査委員会	審議役	業務推進室長、管理課長及び所長が指名する者	調達物品等の契約方式、数量、納期、応札期間、仕様、技術審査等に関すること	管理課
契約審査委員会	審議役	管理課長及び会計チーム長	最低価格入札者を落札者とししないことの審査に関すること	管理課
競争参加資格審査会		所長、審議役、管理課長、庶務チーム長及び会計チーム長	競争参加資格等の審査に関すること	管理課
指名競争参加者選定・随意契約審査委員会	企画管理部長	審議役、研究調整役、業務推進室長、管理課長及び委員長が指名する者	指名競争参加者の選定、随意契約の審査に関すること	管理課
安全衛生委員会	審議役	産業医、衛生管理者及び安全・衛生に関し経験を有する者並びに管理課長、調査役、業務第1科長、業務第2科長及び労働組合の推薦に基づき所長が指名した6名	安全衛生管理に関する重要事項の調査審議等に関すること	管理課
さわやか行政サービス推進委員会	審議役	管理課長、業務推進室長、調査役、情報広報課長及び主査（予算担当）	窓口サービス、公共施設利用サービスに関すること	管理課
防火対策委員会	所長	企画管理部長、研究領域長、審議役、管理課長、管理チーム長及び研究支援センター長	防火・防災にかかる規定の制定改廃に関すること	管理課

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
省エネ推進委員会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役、及び委員長が指名する者	省エネ法に基づく中長期的な計画の作成に関する事	業務推進室、管理課、エネルギー管理及び担当者
牛海綿状脳症(BSE)対策委員会	所長	企画管理部長、審議役、研究支援センター長、業務第2科長、研究領域長、農業放射線研究センター長、業務推進室長、情報広報課長及び資産管理主査	BSE発生時に当所BSE防疫マニュアル等に基づき対応を行うこと	業務推進室

2. 諮問委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
業績評価委員会	企画管理部長	審議役及び研究領域長	研究職員の業績評価に関する事	研究調整役
昇格候補者選考委員会	企画管理部長	審議役及び委員長が指名する者	研究職員に係る昇格候補者の選考等に関する事	研究調整役管理課
研究職員選考採用等選考委員会	所長	企画管理部長及び委員長が指名する者	採用候補者の書類審査、面接試験等に関する事	研究調整役
施設・機械整備委員会	企画管理部長	審議役、研究領域長及び農業放射線研究センター長	中期計画における施設の整備・改修、研究用機械の整備方針等に関する事	業務推進室管理課
農研機構特別研究員選考委員会	企画管理部長	審議役、研究調整役、業務推進室長、担当研究領域長やセンター長及び研究担当責任者	農研機構特別研究員の雇用に関する事	業務推進室
契約職員賃金検討委員会	審議役	管理課長及び所長が指名した者	盛岡地区における契約職員の賃金単価等に関する事	管理課
(盛岡) 宿舎委員会	委員の中から所長が指名する者	管理課長、果樹研リングゴ研究拠点から1名、盛岡宿舎(RC1・2、RC3・4)から2名、労働組合代表1名	公務員宿舎への入居者の選考、居住条件の向上に関する事	管理課
意見処理委員会	審議役	企画管理部長、業務推進室長、管理課長、研究支援センター長	人事評価実施権者からの意見の申立てに関する事	委員会
圃場委員会	研究支援センター長	業務科各科長及び所長が指名した者	圃場・家畜利用運営等に関する事	業務第1科
動物実験委員会	研究領域長の中から所長が指名した者	動物実験等に関して優れた見識を有する者、その他学識を有する者の中から所長が指名した者	動物実験計画の審査等に関する事	業務推進室

3. 運営委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
運営委員会		有識者の中から所長が委嘱した者（10名以内）	試験及び研究並びに調査の推進方策、計画及び進捗状況の点検、センターの運営に関すること	業務推進室
運営費交付金による研究委託課題の委託先選定委員会	研究領域長	審議役、企画管理部長、研究調整役、業務推進室長、管理課長、委員長が指名する者	募集要領及び応募要領に関する事項、研究委託課題の委託先の選定	業務推進室
セミナー委員会	研究領域長から所長が指名	研究領域長及び研究拠点から各1名	セミナーの企画・開催するための組織及び運営に関すること	業務推進室
(盛岡)レクリエーション実行委員会	庶務チーム主査（厚生）	企画管理部から2名、各研究領域から各1名及び研究支援センター各科から各1名	レクリエーションの企画立案・実行に関すること	管理課
コンプライアンス推進委員会	所長	企画管理部長、研究領域長及びセンター長	コンプライアンスの推進に関すること	委員会
雇用検討委員会	審議役	業務推進室長、管理課長、研究支援センター長	契約職員等の計画的な雇用管理に関すること	管理課
異常気象対策検討委員会	企画管理部長	生産環境研究領域長及び所長が指名する者	東北地域の農作物の作柄、異常気象襲来時の農作物への影響等に関すること	生産環境研究領域農業気象グループ
冷涼気候利用型複合農業技術開発実験施設運営委員会	生産基盤研究領域長	当該施設の利用に関連する者及び会計チーム主査（資産管理）	施設の利用、運転・保守管理等に関すること	生産基盤研究領域生理機能グループ
機能性評価実験施設運営委員会	企画管理部長	委員長が推薦する者、業務推進室長及び会計チーム長	施設の利用調整、利用料等に関すること	業務推進室
温度勾配実験施設運営委員会	企画管理部長	委員長が推薦する者、業務推進室長及び会計チーム長	施設の利用調整、利用料等に関すること	業務推進室
肉質検査室運営委員会	畜産飼料作研究領域長	研究支援センター長、業務第2科長、会計チーム長及び所長が指名した者	肉質検査室、と畜場の運営に関すること	畜産飼料作研究領域
試料調製室等運営委員会	研究支援センター長	所長が指名した者	試料調整室、調査株保存舎の運営に関すること	業務第1科
編集委員会	企画管理部長	研究領域長、農業放射線研究センター長及び委員長が必要と認める者	研究報告等の企画・編集、編集内規、執筆内規、原稿の校閲・審査等に関すること	情報広報課
図書委員会	企画管理部長	業務推進室、管理課から各1名及び各研究領域長、農業放射線研究センター長が選出した者	共通図書の整備・利用、図書館の管理運営に関すること	情報広報課
広報委員会	企画管理部長	研究領域長、農業放射線研究センター長、研究調整役及び研究支援センター長	広報媒体の作成・運用、広報に関する戦略策定・推進に関すること	情報広報課

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
一般公開（盛岡） 小委員会	研究調整役	業務推進室、管理課、盛岡 地区の研究領域、業務各科 から各 1～2 名	一般公開の計画・運営等に 関すること	情報広報課
ホームページ小委 員会	研究調整役	研究領域長、農業放射線研 究センター長、業務推進室 長、管理課長、情報広報課 長及び研究支援センター長	当所ホームページの作成・ 運用・管理等に関すること	情報広報課

Ⅶ 平成 25 年半旬別気象表（平成 25 年 1 ～ 12 月）

Ⅶ 平成 25 年半旬別気象表

(平成 25 年 1 ～ 12 月)

1. 本所 (厨川)

月 半旬	気 温 (°C)						降 水 量 (mm)		日 照 時 間 (h)		積雪深 (cm)	日射量 (MJ)	地 温 (°C)		
	最 高		最 低		平 均		本 年	平 年	本 年	平 年			本 年	平 年	10 cm
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年									
1	1	-2.1	1.5	-10.7	-6.5	-5.1	-2.0	17.5	8.9	26.4	13.1	40	8.4	0.5	0.1
	2	-1.0	1.2	-12.5	-7.1	-5.4	-2.4	1.0	9.7	26.1	16.0	27	9.3	0.6	0.1
	3	-0.8	0.9	-9.8	-7.5	-4.1	-2.8	6.0	4.7	21.5	15.8	30	7.2	0.5	0.0
	4	-0.4	0.8	-11.1	-8.2	-5.0	-3.1	0.0	9.8	22.6	19.5	24	8.9	0.5	0.0
	5	1.6	0.6	-8.9	-8.1	-2.8	-3.1	12.0	6.5	19.2	16.2	39	7.8	0.5	0.0
	6	1.0	0.7	-9.1	-8.5	-3.5	-3.3	6.5	8.5	26.7	21.7	47	9.6	0.9	0.1
月平均	-0.2	1.0	-10.3	-7.7	-4.3	-2.8	43.0	48.1	142.5	101.1	47	8.6	0.6	0.0	
2	1	2.9	0.4	-6.5	-8.9	-1.7	-3.6	6.0	7.9	35.7	21.7	35	12.0	1.1	0.3
	2	-0.5	1.7	-8.6	-7.8	-3.8	-2.5	14.0	10.3	12.9	20.3	48	8.3	1.1	0.3
	3	0.2	1.6	-8.1	-7.5	-2.7	-2.4	11.0	11.0	11.7	21.9	50	9.4	1.0	0.2
	4	-1.2	1.8	-9.3	-7.2	-4.6	-2.2	3.5	8.5	19.7	20.4	47	10.8	1.0	0.2
	5	-2.0	2.7	-12.9	-6.5	-6.2	-1.3	82.5	7.5	23.1	24.2	57	12.3	0.8	0.1
	6	3.4	3.0	-10.1	-6.1	-1.6	-1.1	0.0	6.6	22.9	16.1	54	16.3	0.9	0.1
月平均	0.2	1.8	-9.2	-7.4	-3.6	-2.2	117.0	51.8	126.0	124.7	57	11.2	1.0	0.2	
3	1	2.9	3.7	-5.6	-5.1	-0.9	-0.4	88.5	14.0	23.8	25.2	57	12.6	0.9	0.0
	2	6.9	3.5	-3.4	-5.4	1.7	-0.6	24.5	14.7	17.5	21.6	48	10.2	0.6	0.0
	3	4.1	5.4	-4.9	-3.5	-0.3	1.0	5.5	12.9	30.3	24.6	28	15.1	0.9	-0.4
	4	8.3	6.8	-1.8	-2.5	3.6	2.1	29.0	12.3	15.9	25.4	12	8.8	3.0	1.0
	5	6.5	7.5	-2.5	-2.0	1.6	2.8	1.0	11.7	36.0	29.7	1	17.3	4.2	2.2
	6	8.4	8.2	-2.3	-1.7	3.3	3.4	0.5	13.4	30.7	28.2	0	14.5	5.0	3.1
月平均	6.3	5.9	-3.4	-3.3	1.6	1.4	149.0	79.0	154.1	86.1	57	13.1	2.5	1.0	
4	1	13.0	10.4	-0.5	-0.3	6.4	5.1	2.0	9.6	35.2	29.3	0	17.1	6.6	4.1
	2	12.3	12.5	3.6	1.2	7.8	7.0	25.0	10.1	16.4	27.5	0	12.4	8.4	5.9
	3	11.3	12.8	-0.6	1.9	5.6	7.4	6.0	16.2	41.4	23.4	0	20.9	7.5	5.4
	4	10.2	14.1	2.0	2.5	5.9	8.5	28.0	14.5	17.9	31.2	0	10.8	7.8	5.9
	5	12.2	15.0	0.9	4.1	7.2	9.6	19.0	20.0	25.1	25.8	0	16.1	7.6	5.4
	6	13.2	16.7	4.4	4.1	8.8	10.6	13.5	15.2	17.4	33.3	0	13.1	9.3	6.8
月平均	12.0	13.6	1.6	2.3	7.0	8.1	93.5	85.7	153.4	170.4	0	15.1	7.9	5.6	
5	1	11.0	17.6	3.9	5.8	7.4	11.9	20.5	17.8	7.9	32.8	0	10.8	9.3	7.2
	2	17.5	18.3	1.6	6.3	9.7	12.5	2.5	15.4	42.0	27.7	0	21.6	10.3	7.5
	3	18.0	17.7	8.8	7.2	12.8	12.6	4.5	19.0	27.9	24.2	0	16.7	13.6	10.0
	4	21.2	19.0	8.4	8.0	14.8	13.7	8.0	15.8	26.5	27.1	0	16.7	14.7	11.2
	5	21.3	19.7	8.5	8.7	14.9	14.2	0.5	19.3	36.4	31.4	0	20.3	15.8	12.2
	6	23.7	20.6	12.8	9.7	17.9	15.2	13.5	14.1	33.3	32.3	0	17.0	17.5	13.6
月平均	18.9	18.9	7.5	7.7	13.1	13.4	49.5	101.4	174.0	95.9	0	17.2	13.7	10.4	
6	1	26.0	21.8	10.2	11.0	17.9	16.4	0.0	10.8	56.9	34.8	0	27.5	19.3	15.3
	2	26.5	22.3	12.8	12.1	19.4	17.1	0.0	12.5	43.2	25.5	0	23.3	20.3	17.6
	3	26.4	22.7	17.3	12.8	21.4	17.6	12.5	16.4	21.0	24.2	0	17.7	21.3	18.6
	4	25.0	23.2	16.5	14.0	20.6	18.4	18.0	20.0	17.1	25.2	0	15.3	21.6	19.3
	5	26.2	23.0	13.6	14.2	19.8	18.5	3.0	15.8	35.0	23.8	0	22.4	21.4	19.1
	6	22.7	23.4	14.8	15.2	18.4	19.0	4.0	32.6	18.4	22.2	0	16.2	21.1	19.4
月平均	25.5	22.7	14.2	13.2	19.6	17.8	37.5	108.1	191.7	68.1	0	20.4	20.8	18.2	

7	1	25.0	23.9	18.2	15.8	21.1	19.6	74.0	33.9	9.7	17.0	0	12.0	21.3	19.2
	2	27.2	24.5	20.8	16.5	23.6	20.3	69.0	35.0	10.6	20.6	0	11.1	23.6	21.2
	3	24.1	24.6	18.4	17.0	20.7	20.6	155.0	35.7	4.5	16.2	0	9.2	22.7	21.0
	4	23.9	25.2	15.9	17.9	19.6	21.3	47.0	37.1	20.0	16.2	0	17.1	22.9	21.2
	5	24.1	26.8	19.0	18.8	21.0	22.4	52.5	22.1	3.7	20.5	0	9.9	23.5	21.5
	6	26.8	27.8	20.4	19.4	22.7	23.2	106.0	32.6	10.8	29.5	0	12.8	24.7	22.5
	月平均	25.2	25.6	18.9	17.6	21.5	21.3	503.5	196.4	59.3	79.4	0	12.0	23.2	21.2
8	1	27.0	28.1	17.6	19.8	21.9	23.5	17.0	26.5	29.5	23.8	0	18.8	25.4	23.2
	2	29.7	28.4	20.6	19.8	24.7	23.8	90.5	24.7	23.9	25.9	0	16.1	26.3	24.0
	3	31.6	27.9	19.6	19.7	25.2	23.4	0.0	31.7	47.2	21.5	0	22.4	27.1	24.6
	4	29.4	27.4	22.2	19.1	25.4	22.9	50.0	23.4	9.0	20.0	0	10.1	26.7	24.7
	5	28.8	27.0	18.1	18.3	22.6	22.3	7.5	31.8	31.3	25.3	0	18.2	25.7	23.9
	6	25.9	26.2	16.3	18.2	21.0	21.7	37.5	43.9	26.4	21.6	0	14.4	24.2	22.9
	月平均	28.6	27.4	19.0	19.1	23.4	22.9	202.5	181.9	167.3	68.6	0	16.6	25.8	23.9
9	1	24.9	25.9	18.1	17.1	21.6	21.2	61.5	18.7	4.5	22.4	0	7.6	23.4	21.8
	2	23.7	24.3	15.9	16.0	19.3	19.9	30.0	33.8	22.2	20.2	0	13.7	22.9	21.5
	3	25.6	23.0	19.3	14.5	22.1	18.6	26.0	32.4	5.3	18.6	0	8.0	23.8	22.0
	4	24.7	22.5	11.6	13.9	17.7	18.0	89.5	31.3	40.5	16.9	0	16.2	20.9	20.3
	5	24.6	21.2	12.8	11.8	18.7	16.4	2.5	23.0	22.1	18.0	0	13.2	20.6	19.7
	6	20.7	20.1	9.5	10.0	14.9	14.9	0.5	16.8	27.6	20.7	0	14.3	18.8	18.3
	月平均	24.0	22.8	14.5	13.9	19.1	18.2	210.0	155.9	122.3	115.7	0	12.2	21.7	20.6
10	1	21.4	19.7	9.7	9.3	15.9	14.5	14.0	18.2	18.7	22.5	0	10.6	19.2	18.5
	2	21.5	18.1	15.9	8.1	18.4	13.0	27.5	19.3	9.4	20.1	0	6.7	19.3	18.1
	3	18.7	18.0	9.1	7.4	14.5	12.7	47.5	16.3	25.9	25.2	0	10.3	17.3	17.2
	4	14.8	16.4	3.3	5.6	8.9	11.0	79.5	9.8	22.9	26.1	0	9.4	13.0	13.7
	5	15.0	15.1	11.1	4.4	12.8	9.7	71.5	12.6	4.8	23.4	0	4.9	14.2	13.6
	6	15.0	14.2	5.3	3.5	9.8	8.9	15.5	16.3	20.5	23.4	0	8.1	12.8	12.8
	月平均	17.6	16.8	8.9	6.3	13.3	11.5	255.5	92.5	102.2	140.5	0	8.3	15.9	15.6
11	1	15.2	12.9	1.9	2.5	8.1	7.8	0.5	19.0	31.8	20.2	1	10.0	11.0	11.4
	2	12.1	12.3	1.5	2.0	7.3	7.4	35.0	13.2	24.8	22.1	0	7.8	9.4	10.1
	3	7.3	10.5	-2.4	1.3	2.4	6.1	0.0	15.3	22.1	14.8	0	7.9	6.2	7.5
	4	10.6	8.7	0.3	-0.5	5.1	4.2	8.0	13.5	22.4	14.5	0	7.1	6.9	7.3
	5	10.0	8.3	-0.7	-1.1	4.4	3.6	17.5	13.2	17.8	19.9	0	6.9	6.1	6.8
	6	5.9	6.9	-0.5	-1.1	2.9	2.8	26.5	16.7	2.8	16.1	1	3.4	5.5	6.1
	月平均	10.2	9.9	0.0	0.5	5.0	5.3	87.5	90.4	121.7	102.2	1	7.2	7.5	8.2
12	1	7.8	6.2	-1.5	-1.7	2.8	2.3	3.0	13.4	25.1	17.5	0	6.8	4.2	4.9
	2	5.9	5.1	-1.2	-2.3	2.4	1.5	12.5	10.9	12.7	13.2	0	5.2	3.7	4.5
	3	1.7	3.8	-4.4	-3.5	-0.8	0.3	17.5	12.8	11.2	15.9	26	5.3	3.2	3.9
	4	4.7	2.9	-4.0	-4.8	0.3	-0.6	10.0	7.0	16.9	15.1	14	5.8	1.9	2.9
	5	1.6	3.2	-5.1	-4.5	-0.9	-0.3	1.0	10.5	10.9	15.8	13	5.3	1.3	2.2
	6	3.3	2.4	-3.1	-5.1	0.2	-1.0	2.0	12.7	19.2	17.2	6	6.3	1.3	2.0
	月平均	4.1	3.9	-3.2	-3.7	0.6	0.3	46.0	67.3	95.9	93.2	26	5.8	2.6	3.4
年平均	14.4	4.9	4.9	9.7	9.7	9.7	1794.5	1610.4	1610.4	1610.4	57	12.3	11.9	10.7	

注 1) ①から③については、大仙研究拠点、福島研究拠点、福島研究拠点とも共通。
 ④各月の半旬期間は、1:1～5日、2:6～10日、3:11～15日、4:16～20日、5:21～25日、6:26日～終まで、を各々さす。
 ⑤1～6の各「半旬」の欄において、気温・地温・日射量は日平均値を、降水量・日照時間は半旬期間の合計値を、積雪深は半旬期間の最大値を、各々示す。
 ⑥「月平均」及び「年平均」の欄において、気温・地温・日射量は日平均値を、降水量・日照時間は1～6の各半旬の合計値（年平均欄では、月平均の合計値）を、積雪深は1～6の各半旬の最大値（年平均欄は月平均の最大値）を、各々示す。
 2) 年平均については、気温・降水量は1981～2010年の30年間を、日照時間は1997年～2010年の14年間を各々統計期間とした。
 3) 2009年1月より気象観測システムが更新され、測器の種類並びにデータの測定法の一部に変更が生じた。
 4) 日照時間は回転式日照計（新型）による。

2. 大仙研究拠点 (四ツ屋)

月 半旬	気 温 (°C)						降 水 量 (mm)		日 照 時 間 (h)		
	最 高		最 低		平 均		本 年	平 年	本 年	平 年	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年					
1	1	-1.7	1.9	-7.4	-4.3	-3.7	-1.1	30.5	25.1	0.4	6.5
	2	-1.0	1.5	-8.6	-4.8	-3.9	-1.5	12.0	23.7	6.4	6.5
	3	-0.4	1.2	-5.7	-5.5	-2.6	-1.9	47.0	21.9	2.3	6.9
	4	-1.1	1.0	-5.4	-5.9	-3.0	-2.2	26.0	21.4	1.9	7.2
	5	0.9	0.9	-7.3	-6.0	-2.9	-2.3	36.0	21.9	10.0	7.5
	6	1.6	0.8	-3.6	-6.1	-1.3	-2.3	13.0	26.4	19.0	9.9
月平均	-0.2	1.2	-6.2	-5.5	-2.8	-1.9	164.5	138.9	40.0	43.7	
2	1	3.4	1.1	-2.4	-6.0	0.0	-2.2	8.0	20.9	10.4	9.2
	2	0.3	1.5	-5.3	-5.5	-2.4	-1.8	36.5	19.7	2.6	9.9
	3	0.6	2.0	-4.4	-5.1	-1.8	-1.5	25.0	18.5	4.4	10.7
	4	-0.1	2.4	-5.9	-4.9	-3.0	-1.2	29.5	17.0	7.6	12.5
	5	-2.1	3.0	-6.2	-4.6	-4.2	-0.7	20.0	16.1	7.1	14.9
	6	2.8	3.6	-7.2	-4.3	-1.8	-0.3	1.5	12.8	8.6	12.8
月平均	0.7	2.1	-5.1	-5.1	-2.2	-1.4	120.5	102.5	40.7	68.0	
3	1	3.6	3.9	-4.0	-4.1	-0.4	0.0	18.5	16.2	7.9	16.0
	2	7.9	4.5	-2.9	-3.7	1.8	0.4	26.0	16.5	6.4	16.2
	3	3.4	5.4	-2.9	-3.1	-0.1	1.2	18.5	16.5	25.4	17.7
	4	6.6	6.6	-1.7	-2.2	2.2	2.1	23.0	15.6	10.8	19.8
	5	5.2	7.7	-1.9	-1.5	1.3	2.9	6.0	14.3	25.4	21.3
	6	6.3	9.1	-2.1	-0.7	2.1	4.0	0.5	17.0	24.8	26.8
月平均	5.5	6.2	-2.5	-2.5	1.2	1.8	92.5	98.3	100.7	116.0	
4	1	10.9	11.1	-1.2	0.6	4.4	5.6	1.5	14.1	27.1	23.8
	2	12.2	12.9	1.3	1.8	6.5	7.2	36.5	15.1	20.4	24.9
	3	11.6	14.2	0.3	2.9	5.6	8.3	12.5	17.3	31.7	25.4
	4	10.3	15.2	2.6	3.8	6.4	9.3	33.5	18.7	16.9	26.1
	5	13.4	16.4	2.9	4.7	8.2	10.4	15.5	18.9	24.1	26.9
	6	13.1	17.7	6.2	5.5	9.3	11.4	24.5	18.5	11.1	28.5
月平均	11.9	14.6	2.0	3.2	6.7	8.7	124.0	102.6	131.3	155.7	
5	1	11.7	18.7	6.0	6.5	8.7	12.5	11.0	19.2	2.9	29.5
	2	17.9	19.2	4.4	7.6	10.7	13.2	8.0	20.3	29.8	28.5
	3	21.1	19.5	10.9	8.6	15.5	13.8	8.5	20.2	25.8	27.7
	4	20.1	20.1	9.6	9.7	14.5	14.6	0.5	19.2	22.9	28.4
	5	21.1	20.9	10.3	10.7	15.3	15.5	1.0	17.5	32.7	30.2
	6	25.7	22.0	15.4	11.7	20.1	16.4	17.5	17.7	40.2	38.6
月平均	19.8	20.2	9.6	9.2	14.3	14.4	46.5	113.4	154.3	183.8	
6	1	25.9	23.1	13.4	12.8	19.1	17.5	0.0	13.2	60.4	32.2
	2	26.3	23.8	14.7	13.8	19.8	18.4	0.0	14.4	33.0	31.1
	3	29.7	24.3	19.3	14.7	24.1	19.0	6.5	18.0	46.1	29.4
	4	25.9	24.6	17.8	15.4	21.2	19.6	20.0	23.4	19.8	27.0
	5	25.5	24.9	16.4	16.2	20.4	20.1	0.5	27.2	41.1	24.7
	6	28.5	25.3	17.2	16.7	22.3	20.5	0.0	29.2	43.1	23.7
月平均	27.0	24.3	16.5	15.0	21.2	19.2	27.0	124.5	243.5	165.4	

7	1	28.1	25.6	19.5	17.3	23.5	21.0	98.5	32.3	26.9	22.7
	2	26.1	26.0	22.3	18.0	23.8	21.5	143.5	36.7	1.6	21.6
	3	24.5	26.5	20.2	18.6	21.9	22.1	153.0	38.0	10.7	21.9
	4	26.9	27.3	18.1	19.2	22.0	22.8	33.0	32.9	32.2	24.8
	5	27.2	28.4	20.6	19.7	23.0	23.6	55.5	26.3	10.6	28.0
	6	28.2	29.3	21.0	20.3	23.7	24.3	72.5	29.1	12.0	35.9
	月平均	26.9	27.3	20.3	18.9	23.0	22.6	556.0	192.5	94.0	155.8
8	1	28.4	29.7	20.0	20.6	23.4	24.6	15.5	26.1	30.3	30.8
	2	30.3	29.9	23.0	20.6	25.9	24.7	108.5	26.1	18.0	31.5
	3	31.0	29.8	21.8	20.4	25.8	24.6	0.0	26.9	44.1	31.1
	4	31.0	29.6	22.7	20.0	26.1	24.2	30.0	30.3	17.2	30.5
	5	28.5	29.0	20.1	19.4	23.5	23.6	24.5	34.5	34.2	29.3
	6	27.1	28.3	18.1	18.8	22.1	23.0	44.5	44.6	30.1	33.0
	月平均	29.3	29.4	20.8	20.0	24.4	24.1	223.0	192.9	173.9	184.5
9	1	27.3	27.3	19.2	18.0	22.8	22.1	92.0	36.0	11.9	25.9
	2	24.9	26.3	16.7	17.0	20.1	21.1	31.0	33.5	23.7	23.6
	3	27.7	25.3	19.5	15.7	23.1	20.0	34.5	30.7	13.2	22.1
	4	25.0	24.4	13.2	14.4	18.3	18.9	35.5	27.4	39.1	22.0
	5	27.2	23.3	14.5	13.1	20.0	17.7	5.5	23.7	35.4	22.0
	6	23.5	22.2	10.7	11.7	16.8	16.5	0.0	22.0	38.5	22.0
	月平均	25.9	24.8	15.6	15.0	20.2	19.4	198.5	169.7	161.8	138.4
10	1	23.0	21.2	11.0	10.6	17.0	15.4	4.5	22.4	23.0	21.5
	2	23.6	20.2	16.1	9.5	19.6	14.4	17.5	23.0	14.4	21.6
	3	20.7	19.3	10.0	8.4	15.0	13.4	67.0	23.0	25.1	22.0
	4	16.5	18.1	6.1	7.0	11.0	12.1	76.0	23.0	24.0	22.0
	5	18.0	16.7	11.7	5.9	14.6	10.8	53.0	24.5	7.2	20.8
	6	14.5	15.4	7.7	5.0	10.6	9.8	30.0	32.5	13.9	22.1
	月平均	19.2	18.4	10.3	7.6	14.5	12.6	248.0	147.4	107.6	131.1
11	1	15.6	14.4	3.7	4.2	9.4	9.0	5.5	28.2	29.2	16.9
	2	13.3	13.2	3.9	3.4	8.6	8.0	59.0	29.4	20.0	15.9
	3	3.7	11.6	-2.4	2.4	0.9	6.7	47.5	30.9	7.4	14.2
	4	7.0	10.2	1.4	1.3	3.9	5.4	59.5	30.6	9.6	12.7
	5	10.6	9.0	1.8	0.6	6.2	4.5	42.5	29.9	10.5	11.9
	6	6.2	7.9	-0.1	0.0	3.1	3.7	93.0	30.3	0.7	11.1
	月平均	9.4	11.0	1.4	2.0	5.3	6.2	307.0	183.6	77.4	81.2
12	1	7.0	6.7	0.1	-0.5	3.4	2.8	18.0	30.4	7.4	9.3
	2	5.2	5.5	-0.1	-1.2	2.4	2.0	31.0	29.3	3.9	7.4
	3	1.9	4.2	-1.9	-2.1	-0.1	1.0	76.5	27.3	1.6	6.7
	4	3.7	3.4	-2.4	-2.9	0.7	0.3	30.5	26.0	6.4	7.0
	5	1.7	3.1	-2.9	-3.3	-0.2	-0.1	17.0	26.2	2.5	7.0
	6	2.7	2.6	-1.5	-3.8	0.5	-0.6	45.0	31.5	7.2	8.0
	月平均	3.7	4.2	-1.5	-2.3	1.1	0.9	218.0	170.3	29.0	45.3
年平均	15.0	15.3	6.8	6.3	10.6	10.6	2325.5	1735.7	1354.2	1468.1	

注. 1) 半旬期間等の内容については、本所（厨川）の注記1)を参照。

2) 平年値については、気温・降水量は1981～2010の30年間を、日照時間は1987～2010の24年間を各々統計期間とした。

3))と]は統計値を求めるとなる資料が、それぞれ許容範囲内と許容範囲を超えて一部欠けていることを示す。

4) 日照時間は2006年11月13日までは太陽電池式日照計、それ以降は回転式日照計による。

3. 福島研究拠点

月 半旬	気 温 (°C)						積算雨量 (mm)		積算日照時間 (h)		日 射 量 (MJ/m ²)		最大積雪深 (cm)	
	最 高		最 低		平 均		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年								
1	2.2	5.5	-5.0	-3.2	-1.5	1.0	2.5	8.7	22.6	18.9	7.19	6.50	3.3	8.2
	1.6	5.0	-5.0	-3.3	-0.8	0.5	0.5	11.6	13.7	16.0	5.68	6.23	3.4	13.2
	1.8	4.6	-4.5	-3.6	-0.8	0.0	27.5	10.8	22.8	16.9	7.14	6.87	19.9	9.7
	3.6	4.6	-6.9	-4.0	-2.5	-0.2	14.5	14.4	18.1	19.6	6.45	6.62	38.1	7.1
	2.3	3.6	-3.5	-4.3	-0.3	-0.5	3.0	9.2	23.1	18.8	8.34	7.09	23.4	9.7
	2.4	4.2	-5.9	-4.2	-1.7	-0.3	5.5	10.7	38.5	27.7	10.14	8.62	26.0	10.5
月平均	2.4	4.5	-5.2	-3.9	-1.5	0.0	53.5	63.9	138.7	122.3	7.57	7.02	38.1	19.3
2	4.6	4.1	-3.1	-3.8	0.8	-0.1	2.0	7.0	28.0	21.7	10.17	8.05	13.2	12.9
	2.2	6.0	-5.0	-3.6	-1.5	1.0	13.0	13.1	23.8	21.1	9.30	8.27	16.4	7.3
	3.0	5.5	-4.5	-3.6	-0.6	0.9	8.0	6.7	25.0	23.8	9.30	8.76	14.4	4.8
	1.6	5.9	-4.8	-2.7	-1.7	1.2	0.0	13.3	25.8	22.7	10.91	9.56	4.5	5.3
	0.2	6.3	-5.9	-2.6	-2.9	1.6	12.5	11.7	29.2	22.5	9.19	10.02	15.6	7.1
	5.7	7.4	-5.6	-2.5	-0.3	2.5	0.0	6.4	25.3	14.0	15.25	11.54	10.9	2.4
月平均	2.7	5.8	-4.8	-3.1	-1.1	1.2	35.5	57.4	157.0	129.1	10.36	9.10	16.4	15.9
3	6.0	7.4	-3.0	-2.3	1.2	2.6	1.0	12.4	30.8	22.3	13.32	10.74	2.6	3.2
	14.1	7.4	-0.1	-2.6	6.2	2.4	3.0	17.0	39.2	24.6	15.98	12.11	1.7	5.4
	11.0	9.3	-4.3	-1.6	2.9	3.6	0.0	11.6	44.1	24.1	17.97	12.56	1.4	1.4
	16.2	10.2	2.8	-1.0	9.7	4.5	0.5	11.1	34.5	27.9	15.05	13.61	2.4	0.9
	8.5	10.6	-2.0	-0.4	3.2	4.8	0.0	18.7	31.4	23.9	14.84	13.05	2.3	1.1
	9.5	11.4	0.4	0.7	4.9	5.9	0.5	22.3	30.1	31.3	12.41	12.53	2.6	3.5
月平均	10.8	9.3	-1.0	-1.2	4.7	4.0	5.0	93.1	210.2	159.3	14.85	12.44	2.6	9.0
4	12.4	13.3	2.4	1.1	7.5	7.3	32.5	12.1	28.7	32.8	12.89	17.22	0.0	0.5
	14.5	14.7	0.8	2.9	9.2	8.9	47.5	13.8	24.8	31.1	12.85	14.37	0.0	0.0
	14.1	15.6	3.9	3.9	7.5	9.5	0.0	14.0	47.0	27.3	21.68	14.38	0.0	0.0
	14.9	17.4	3.3	4.3	8.9	10.5	10.0	19.4	34.0	27.0	16.15	14.86	0.0	0.0
	13.7	17.7	3.3	5.9	8.5	11.8	25.5	26.8	38.1	31.6	18.03	16.24	0.0	0.0
	15.7	19.5	6.1	6.2	10.9	12.9	5.5	19.3	39.3	29.6	17.84	17.54	0.0	0.0
月平均	14.2	16.4	3.3	4.1	8.8	10.2	121.0	102.5	211.9	188.4	16.57	15.75	0.0	0.5
5	15.4	19.6	3.4	6.9	9.8	13.1	0.0	18.9	47.3	27.5	21.31	17.06	0.0	0.0
	19.5	20.7	5.0	7.8	12.3	14.2	1.0	16.2	50.6	30.4	23.70	16.86	0.0	0.0
	22.1	20.5	9.0	8.9	14.5	14.6	18.0	23.0	39.5	28.5	19.65	15.34	0.0	0.0
	22.6	20.3	10.1	9.6	16.0	14.7	4.0	11.8	45.7	28.8	22.23	15.68	0.0	0.0
	24.3	22.1	10.1	10.0	17.0	15.7	0.0	11.9	57.4	39.3	26.82	17.45	0.0	0.0
	24.5	23.5	13.6	11.0	19.0	16.9	6.5	20.5	40.2	36.6	18.05	17.78	0.0	0.0
月平均	21.5	21.1	8.7	9.0	14.9	15.1	29.5	103.6	280.7	199.7	21.83	16.74	0.0	0.0
6	24.9	25.0	8.5	12.1	16.5	18.8	0.0	11.9	44.7	36.9	24.00	19.89	0.0	0.0
	25.6	22.8	13.6	13.0	19.2	17.8	6.0	11.3	42.9	23.8	20.29	15.08	0.0	0.0
	25.9	24.0	17.1	14.2	20.4	19.2	9.5	22.6	20.4	26.6	12.34	15.67	0.0	0.0
	24.1	23.6	17.9	15.1	20.5	19.4	43.5	23.5	15.0	20.2	10.47	12.95	0.0	0.0
	25.5	23.1	14.8	15.5	19.8	19.3	60.5	35.0	38.9	16.5	19.33	12.46	0.0	0.0
	21.8	24.4	15.3	16.2	18.0	20.3	24.0	37.3	16.7	27.6	10.69	13.19	0.0	0.0
月平均	24.6	23.9	14.5	14.5	19.1	19.2	143.5	146.8	178.8	175.2	16.19	14.58	0.0	0.0

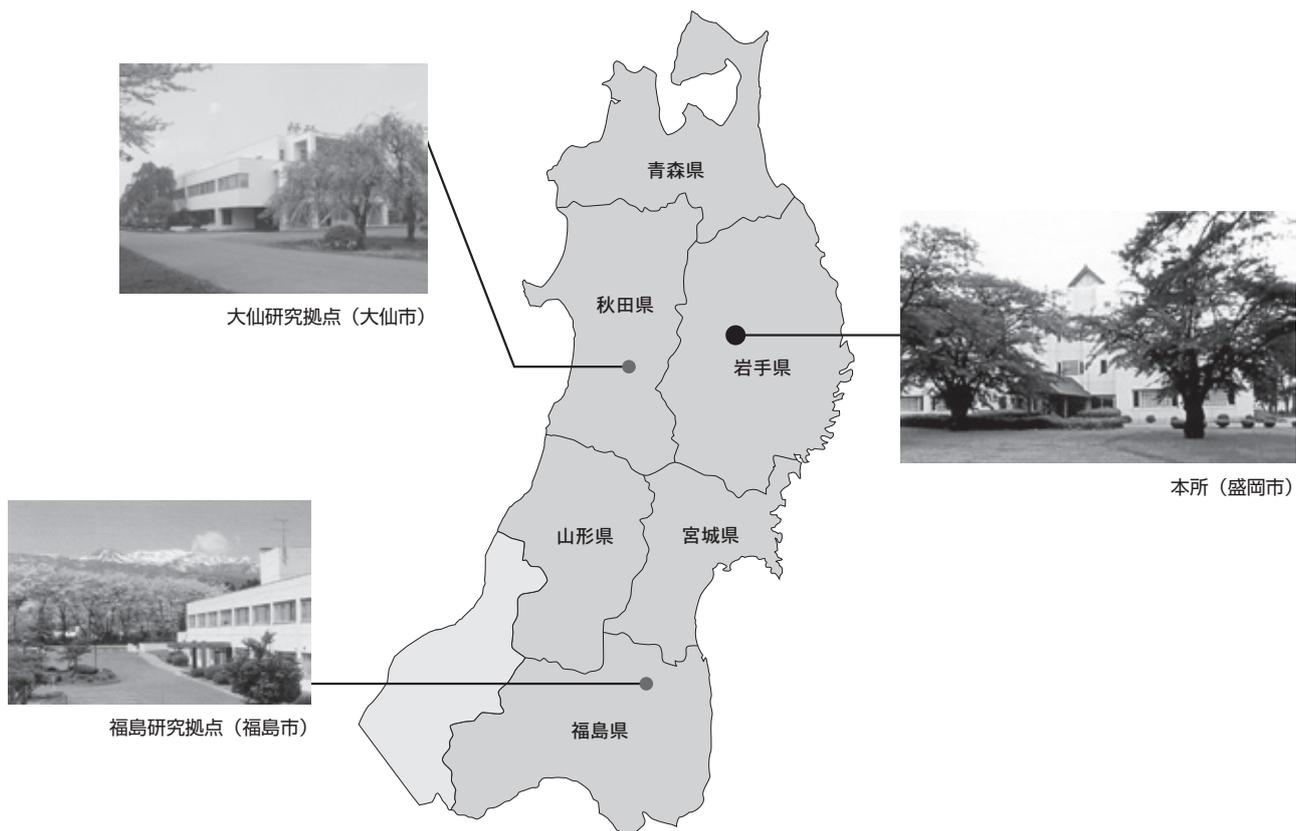
7	1	25.1	26.0	18.5	17.1	21.4	21.0	22.0	23.8	16.8	19.8	10.66	13.87	0.0	0.0
	2	28.0	26.0	21.2	17.5	24.6	21.2	26.0	33.3	19.3	21.0	11.11	12.44	0.0	0.0
	3	28.7	25.9	20.8	18.0	23.8	21.5	28.5	49.4	19.8	14.1	11.41	11.57	0.0	0.0
	4	23.9	27.4	16.6	18.8	19.3	22.5	55.0	24.5	24.9	18.1	12.89	12.96	0.0	0.0
	5	23.7	29.0	18.0	19.5	20.5	23.7	33.0	22.6	17.8	22.5	10.75	14.57	0.0	0.0
	6	26.0	30.3	20.2	20.3	22.5	24.5	67.5	16.8	19.3	31.3	9.84	16.06	0.0	0.0
	月平均	25.9	27.4	19.2	18.5	22.0	22.4	232.0	168.7	117.9	135.5	11.07	13.53	0.0	0.0
8	1	25.8	29.9	18.4	20.5	21.7	24.6	21.0	16.9	22.4	23.5	11.67	14.41	0.0	0.0
	2	31.2	29.4	21.2	20.0	25.7	24.1	30.5	45.3	35.7	25.0	16.46	12.96	0.0	0.0
	3	32.3	28.9	20.3	19.9	26.0	23.8	0.0	28.3	47.1	22.8	21.23	12.67	0.0	0.0
	4	31.2	28.3	21.7	19.4	26.1	23.0	29.0	32.9	36.5	27.5	17.04	12.90	0.0	0.0
	5	28.2	29.2	19.3	19.6	23.8	23.8	11.5	21.4	32.1	23.6	14.65	14.00	0.0	0.0
	6	28.9	27.8	18.7	18.8	23.3	22.6	4.0	53.2	42.2	26.9	16.61	11.16	0.0	0.0
	月平均	29.6	28.9	19.9	19.7	24.3	23.6	96.0	198.0	216.0	164.4	16.29	12.37	0.0	0.0
9	1	27.9	28.1	20.7	18.6	23.5	22.9	49.0	20.3	15.7	25.7	10.27	12.40	0.0	0.0
	2	24.0	26.0	17.4	17.8	21.3	21.3	30.0	24.2	18.2	21.4	10.26	9.44	0.0	0.0
	3	26.4	25.2	19.6	17.1	22.5	20.7	33.0	33.9	17.6	22.0	9.39	10.08	0.0	0.0
	4	26.1	25.5	12.5	15.6	19.0	19.9	57.5	34.1	41.1	25.0	17.17	10.24	0.0	0.0
	5	25.6	22.6	13.9	14.0	19.0	18.0	1.0	35.8	32.2	18.3	13.27	8.65	0.0	0.0
	6	21.9	21.7	11.2	12.8	16.3	17.2	0.0	30.7	35.2	22.2	14.77	9.82	0.0	0.0
	月平均	25.3	24.9	15.9	16.1	20.1	20.0	170.5	182.5	160.0	140.1	12.52	10.10	0.0	0.0
10	1	18.1	21.3	7.2	12.1	12.7	16.2	34.5	32.5	31.2	15.3	13.30	8.52	0.0	0.0
	2	20.8	19.2	9.9	10.1	14.9	14.3	28.5	36.4	36.0	15.5	13.40	8.65	0.0	0.0
	3	20.7	19.3	10.3	10.2	14.9	14.8	11.0	32.1	24.0	15.8	10.28	8.55	0.0	0.0
	4	18.9	18.9	9.1	8.2	13.8	13.2	7.5	28.4	28.3	19.0	10.64	8.90	0.0	0.0
	5	18.9	17.2	6.0	7.0	15.6	12.0	28.5	18.2	31.2	20.3	5.60	8.43	0.0	0.0
	6	17.0	16.7	6.0	5.9	10.8	11.1	5.0	19.3	10.2	26.8	10.12	8.64	0.0	0.0
	月平均	19.0	18.7	9.0	8.8	13.7	13.6	115.0	164.5	161.1	115.1	10.54	8.53	0.0	0.0
11	1	16.6	14.6	5.4	4.5	11.0	9.3	0.0	22.3	29.2	17.9	10.21	9.08	0.0	0.1
	2	14.6	15.5	4.9	4.5	9.7	9.6	3.5	13.5	20.7	19.7	7.43	7.26	0.0	0.0
	3	8.1	13.3	0.5	3.0	4.3	8.0	1.0	6.5	12.7	19.0	6.02	6.53	0.0	0.0
	4	14.0	12.4	2.1	2.0	6.8	6.9	0.0	8.3	33.4	18.8	10.16	6.34	0.0	0.0
	5	12.4	11.8	0.7	0.6	5.6	5.7	12.0	9.9	23.4	23.0	7.38	6.52	0.0	0.0
	6	10.6	10.7	1.4	1.5	6.1	5.7	0.5	13.0	23.5	22.4	7.53	6.15	0.0	0.0
	月平均	12.7	12.9	2.5	2.6	7.2	7.4	17.0	72.7	142.8	122.9	8.12	6.87	0.0	0.1
12	1	10.3	9.7	-0.1	-0.1	4.6	4.6	0.0	6.3	23.9	19.7	7.42	6.34	0.0	0.8
	2	8.9	8.6	0.4	-0.4	4.1	3.8	1.0	6.2	16.5	17.1	5.93	5.00	0.0	0.0
	3	4.8	6.8	-1.8	-1.7	1.6	2.2	15.0	10.9	19.0	14.9	6.33	5.88	0.0	1.1
	4	5.1	6.8	-0.5	-2.2	2.2	2.0	49.0	5.5	9.4	17.8	4.07	6.14	0.0	8.7
	5	4.1	6.8	-2.0	-2.2	0.7	1.8	3.5	4.8	13.5	18.3	5.24	5.92	0.0	4.9
	6	5.0	5.0	-2.6	-3.4	1.1	0.7	0.5	8.4	16.3	17.8	5.81	5.88	8.8	4.9
	月平均	6.3	7.3	-1.1	-1.7	2.4	2.5	69.0	42.2	98.5	108.0	5.80	6.46	8.8	12.5
	年平均	16.3	17.0	6.7	0.1	11.2	4.5	1087.5	1370.5	2073.6	1934.2	12.64	11.12	38.1	23.6

注: ① 半旬及び月平均の値は、気温はそれぞれ日最高・最低、平均の平均値、積算雨量及び積算日照時間は積算値、日射量は日積算日射量の平均値、最大積雪深は最大値を示しています。
 ② 値は推完全値(統計値を求める対象となる資料の一部が欠けているが、その数が許容できる範囲内)を、値]は資料不足値(許容する範囲を超えて資料が欠けている)を示します。資料不足値は十分な信頼性を保障できないため注意が必要です。×はデータ欠損を示します。
 ③ 平年値は1989年～2005年度の17年間の平均値(推完全値、資料不足値の別は示してありません)。
 ④ 日照時間の測定は1988年から1993年9月まではバイメタル式ガラス筒全天候型日照計、1993年10月以降は、太陽電池式日照計によるものです。
 ⑤ 積雪深の測定は、2007年11月28日までは目視、11月29日からは積雪深計によるものです。

Ⅷ 東北農業研究センターの所在地等

VIII 東北農業研究センターの所在地等

- * 東北農業研究センター（本所）** 〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4 ☎019-643-3433(代表)
(IGR厨川駅より徒歩8分) (盛岡駅より菓子車庫行バスで約20分、農業研究センター下車)
- 野菜花き担当 〒020-0123 岩手県盛岡市下厨川字鍋屋敷92 ☎019-643-3433(代表)
(盛岡駅より菓子車庫行バスで約25分、果樹研究所前下車、徒歩3分)
- * 大仙研究拠点** 〒014-0102 秋田県大仙市四ツ屋字下古道3 ☎0187-66-1221(代表)
(JR田沢湖線北大曲駅より徒歩3分)
- 大豆育種担当 〒019-2112 秋田県大仙市刈和野字上ノ台297 ☎0187-75-1084
(JR奥羽本線刈和野駅より徒歩5分)
- * 福島研究拠点** 〒960-2156 福島県福島市荒井字原宿南50 ☎024-593-5151(代表)
(福島駅東口より荒井行バス約30分自衛隊前(終点)下車、徒歩3分)



◆お問い合わせ先

- * 代表…………… ☎ 019-643-3433 (企画管理部庶務チーム)
 * 共同研究など…………… ☎ 019-643-3402 (産学官連携支援センター)
 * 研究成果・広報など…………… ☎ 019-643-3414, 3417 (企画管理部情報広報課)
 * e-mail…………… www-tohoku@naro.affrc.go.jp
 * ホームページ…………… http://www.naro.affrc.go.jp/tarc/

平成25年度 東北農業研究センター年報

平成 26 年 10 月発行

編集・発行 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
東北農業研究センター
所長 石 黒 潔

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平 4
電話 019(643)3414、3417
(企画管理部 情報広報課)
